

鹿児島県史料集（28）

要用集（上）

「要用集 上」正誤表

頁	段	行	誤	正	頁	段	行	誤	正
例言		一	嘉永五年	嘉永七年	八十二	上	十	半左衛門	半左衛門
〃		十	三七頁	三九頁	〃	〃	十一	御用人	御側御用人
目次	上	十六	九 貴聞	九 達貴聞	〃	〃	最終	大番当	大番頭
九	下	九	本州派	本山派	八十三	下	四	七升壹合四才	七升四才
十二	上	四	鐘當	鐘堂	〃	〃	あと五	百九百三拾六石四斗九升七合三才	百八拾壹石壹升七合七勺五才
〃	下	十一	九口	九月	八十四	上	七	壹八勺	壹合八勺
二十二	下	最終	觀寺院	觀寿院	八十七	下	九	島津蔵人・川上式部	島津蔵人・島津登・川上式部
三十	上	あと七	末九月	末九月	八十八	上	十二	山田喜三右衛門	山田喜三右衛門跡
三十三	下	あと四	旁別段	旁以別段	〃	下	最終	伊集院隼衛の次に下の二人追加	山田軫
三十五	上	あと六	昆沙天	昆沙門天	九十	上	後三	古刹仲・大野多宮	鎌田典膳
〃	〃	〃	御用緒	御由緒	〃	下	一	島津内蔵・伊集院伊膳	共に削除
〃	〃	あと五	奉秋	春秋	九十一	下	六	島津若狭の次行に追加	共に削除
四十二	上	十六	石学頭	右学頭	九十四	上	三	山田諸三	山田諸二
四十七	下	あと六	五月八日	五月廿八日より	九十五	上	五	頁	削除
六十八	上	〃	後 安房	弘化三年三月廿五日病死 後 安房	〃	〃	六	淑・聡	削除
〃	〃	〃	二年	三年	百三	上	あと六	壹尺三寸	削除
七十三	下	三	十二月	十一月	〃	〃	あと四	鋼光	綱光
七十四	上	七	十五日	十二日	百四	下	あと三	拝領	御拝領
〃	下	十九	太郎右衛門	太郎左衛門	百五	上	八	「候処、」の下に次を追加	思召被在御納戸格護被
八十一	下	あと五	丑廿八日	丑八月廿日	百十七	上	八	本文	(末) 本文

要
用
集
(上)

鹿児島県史料刊行会

刊行のことば

鹿児島県史料集第二十八集として、こゝに「要用集・上」を刊行します。

本書は、薩藩藩政の要務に関する諸制度等を事項別にまとめたもので、薩藩藩政の推移を知る上で基本史料の一つといわれています。

「要用集」は全六巻からなっていますが、一巻から三巻までをまとめて上巻として今年度に、四巻から六巻までをまとめて下巻として来年度に刊行することにしました。

県史料集の刊行は、資料の保存をはかり、郷土の研究に役立てることをすすめてきた事業の一つですが、史料集の刊行が今日までとどこおりなく続けられていることは、県史料刊行委員の方々の並々ならぬご協力のお陰だと心から感謝しています。

今回は、鹿児島純心女子短期大学の芳即正先生に解説・書写・校正をしていただきました。長期間にわたるお骨折りに心から御礼申しあげます。

なお、この史料が地方史の研究に大いに役立てられるよう期待します。

昭和六十二年三月

鹿児島県立図書館長

須佐美

新

例 言

- 今回嘉永五年改編の「要用集」六巻を、それぞれ三巻ずつ上下兩巻に分けて刊行することにし、本書にはそのうち一巻から三巻までを収めた。
- 本「要用集」の原本は、一巻から五巻までは旧薩摩藩蘭牟田領主家の薩摩郡祁答院町樺山不搖磨氏の所蔵にかかり、最後の六巻は鹿児島県立図書館に所蔵されている。元来すべて樺山氏所蔵本であったと思われるが、それについての経緯は下巻に記す解説に譲る。
- この鹿児島県史料集第一輯として刊行された「薩藩政要録」は元来原名を「要用集」と称し、文政九年の資料によっているが、本書はそれから二十五、六年後の嘉永四年五年の資料によっている。藩政運用の要項をまとめて座右の書とし、時折新たな資料によって改編を行ったものである。
- 刊行にあたっては第一輯「薩藩政要録」との対比の関係上、その方針にならってつとめて原本の体裁を保持しつつ適宜改めた。例えば一九、三七項の人名配列二段組として頁数の前後にかかわらず上段が先、下段が後の順序にした如きである。
- 各項の番号は本文中には記されていないが、利用の便宜上「薩藩政要録」にならって記入した。ただ第一巻冒頭には全巻分が朱書記入されている。
- 原本に用いられてい文字のうち、一部を便宜普通の文字に改め、誤りの明らかなものについては訂正した。また「鳥」「嶋」は「島」に統一した。
- 変体仮名はすべて普通の平仮名に改め、「者」は「ハ」、「る」は「より」、「茂」は「も」、「与」は「と」とした。
- 本書の校訂は芳 即正が当った。

目次

要用集一

要用集目錄

一 御判物高并御日録高之事	五
二 京竿以来御検地高作様之事	七
三 神社仏閣寺院敷之事	八
四 諸寺門首并山伏袈裟頭之事	八
附神社主之事	八
五 勅願所之事	九
附一國一ヶ寺之事	九
六 御先祖様御菩提所并有緒寺院之事	一〇
附御家御代、御正忌日御夫人御正忌日之事	一〇

要用集二

七 御日見寺社并山伏之事	四七
附寺高之事	四七
八 長日相勤寺之事	五三
九 貴閤住職被仰付寺院之事	五四
附御家老承住職申渡候寺院之事	五四
一〇 御元祖以来御居城之事	五五
一一 御関狩并吉野御牧之事	五六
一二 御城代相勤候人之事	五七
一三 貴久公以来御家老職相勤候人之事	五八
一四 家久公以来御談合役御詰役御側役若御年寄若年寄相勤候人之事	六八
一五 光久公以来横目頭大御目附大目附格相勤候人之事	七四
一六 御検地高之事	八二
一七 諸給地出物米之事	八四

一八 半出物米高之事	八六
------------	----

要用集三

一九 御直并御前元服且又元服之御礼御内証元服被仰付候人数家筋連名次第之事	八七
附家筋被相定候人并家筋連名次第之事	八七
二〇 家筋被相定候人并家筋連名次第之事	八八
附家付年頭八朔御太刀進上人数之事	八八
二一 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事	九一
二二 島津之御称号被下置候面々二男以下名字并領被仰付候事	九一
二三 御家之字名乘来候面々江二男以下名乗之字并領被仰付候事	九二
附実名遠慮之事被仰付渡候事	九二
二四 御一門并独礼之面々御城代御家老を始諸士以下之者共迄妻手礼帳面等書様之次第被相究候事	九五
二五 御分國暨横并延町間之事	九五
二六 他領境目番所并辺路番之事	九六
二七 津口番所之事	九六
二八 異國方番所并遠見番所之事	九七
二九 火立番之事	九七
三〇 御武具之事	九七
三一 御納戸御道具之事	一〇〇
三二 御馬并御馬具之事	一〇六
三三 塩硝并硫磺員数之事	一〇
三四 御数寄屋御道具之事	一一
三五 置米置銀之事	一二
三六 高式百石以上士人数并人跡持高員数被相究候事	一三
三七 諸役座より相納寄銀之事	一七

要
用
集
一

要 用 集 一 目 録

「一」 御判物高并御目録高之事

「二」 京竿以来御検地高作様之事

「三」 神社仏閣寺院数之事

「四」 諸寺門首并山伏袈裟頭之事
附 神主之事

「五」 勅願所之事
附 一國一ヶ寺之事

「六」 御先祖様御菩提所并有由緒寺院之事
附 御家御代々御正忌日御夫人御正忌日之事

要 用 集 二 目 録

「七」 御目見寺社并山伏之事
附 寺高之事

「八」 長日相勤寺之事

「九」 達 貴閨住職被 仰付寺院之事
附 御家老承住職申渡候寺院之事

「十」 御元祖以来 御居城之事

「十一」 御関狩并吉野御牧之事

「十二」 御城代相勤候人之事

「十三」 貴久公以来御家老職相勤候人之事

「十四」 家久公以来御談合役御詰役御側役若御年青若年寄相勤候人之事

「十五」 光久公以来横目頭大御目附大目附格相勤候人之事

「十六」 御検地高之事

「十七」 諸給地出物米之事

「十八」 半出物米高之事

要 用 集 三 目 録

「十九」 御直并 御前元服且又元服之御礼御内証元服被 仰付候人数家筋連名
次第之事

- 「三十」 一 家格被相定候人并家筋連名次第之事
附家付年頭八朔御太刀進上人教之事
- 「廿一」 一 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事
- 「廿二」 一 島津之御称号被下置候面々二男以下名字拝領被 仰付候事
- 「廿三」 一 御家之字名乘米候面々二男以下名乗之字拝領被 仰付候事
附実名遠慮之字被 仰渡候事
- 「廿四」 一 御一門并独礼之面々御城代御家老を始諸士以下之者共迄妻手札帳面等
書様之次第被相究候事
- 「廿五」 一 御分国堅横并廻町間之事
- 「廿六」 一 他領境目番所并辺路番之事
- 「廿七」 一 津口番所之事
- 「廿八」 一 異国方番所并遠見番所之事
- 「廿九」 一 火立番之事
- 「三十」 一 御武具之事
- 「三十一」 一 御納戸御道具之事
- 「三十二」 一 御馬并御馬具之事

- 「三十三」 一 塩硝并硫磺員數之事
 - 「三十四」 一 御數寄屋御道具之事
 - 「三十五」 一 置米置銀之事
 - 「三十六」 一 高式百石以上士人數并依人躰持高員數被相究候事
 - 「三十七」 一 諸役座より相納寄銀之事
- 要 用 集 四 目 録
- 「三十八」 一 御家老組并御小姓組番頭小番新番御小姓組人躰之事
 - 「三十九」 一 宗門手札御改人數給之事
 - 「四十」 一 前々移地頭在番被 仰付置候郷并當時移地頭押等被 仰付置候郷之事
 - 「四十一」 一 御飯屋并御茶屋之事
 - 「四十二」 一 誓詞日之事
 - 「四十三」 一 御家老寄合日之事
 - 「四十四」 一 評定所式日之事

「四十五」
一 犬追物稽古日之事

「四十六」
一 御使式口之事

「四十七」
一 表方支配諸御役座等之事

「四十八」
一 御勝手方支配諸御役座等之事

「四十九」
一 御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事

「五十」
一 御役被 仰付次第之事

「五十一」
一 御城代御家老御側詰若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘定奉行御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事

「五十二」
一 諸御役人御役料米被下様之事

「五十三」
一 諸御役座書役小役人持高依員数役料米并支度料銀等不被下候事

「五十四」
一 先祖之勲功且又其身依功代々御切米被下候人之事

「五十五」
一 御扶助米被下置候人之事

「五十六」
一 一世御養料被下置候人之事

「五十七」
一 諸御役分高員数之事

「五十八」
一 諸御役料米并御切米御扶持米其外御國中諸松銀米員数之事

「五十九」
一 琉球拝借銀之事

「六十」
一 御国藥種之事

「六十一」
一 諸士跡目并隠居家督嫡子成養子之儀定被置事

「六十二」
一 達 貴聞縁与之事

「六十三」
一 諸士子共半元服前髮取之事

「六十四」
一 諸人訴訟之事

要用集五目錄

「六十五」
一 諸郷郡分地頭附並郷士人跡持高之事
附琉球道之島道程之事

要用集六目錄

「六十六」
一 鹿兒島中諸屋敷数之事

「六十七」
一 濃州勢州尾州川々御普請御手伝之事

「六十八」
一 兩御目附衆被差越候事

「六十九」
一 諸座附与力并足輕御口之者御小人御広敷附足輕御數寄屋仕坊主其外諸座附人數之事

「七十」
一 御牧數諸郷牛馬數并御馬追日執之事

「七十一」
一 御船數之事

「七十二」
一 浦數并浦人數之事

「七十三」
一 年々江戸御統米并江戸大坂行船數之事

「七十四」
一 金山之事并金山有所之事

「七十五」
一 銀山有所之事

「七十六」
一 銅山有所之事

「七十七」
一 錫山有所之事

「七十八」
一 鍍山有所之事

「七十九」
一 鉛有所之事

「八十」
一 水晶有所之事

「八十一」
一 硫磺并明礬有所之事

「八十二」
一 椎皮炭粉山餅山之事

「八十三」
一 甌島網方之事

「八十四」
一 母駄他国^五不出事

「八十五」
一 他国^五不出品々之事

「八十六」
一 御勝手方証文を以他国出品々之事

「八十七」
一 他国^五出御利潤有之品々之事

「八十八」
一 桜島并諸所垂蠟方御利潤銀員數之事

「八十九」
一 樟腦方御利潤銀之事

(注) 「」内番号はすべて朱書。

「二」 御判物高並御目錄高之事

薩摩大隅兩國並日向諸縣郡高六拾万五千石余
外硫球高拾貳万三千七百石

右 將軍家光公之御判物寬永十一年八月四日於京都御頂戴

將軍家綱公之御判物寬文四年四月五日御頂戴

將軍綱吉公之御判物貞享元年九月廿一日御頂戴

將軍家宣公之御判物正德二年四月十一日御頂戴

將軍吉宗公之御判物享保二年九月十二日御頂戴

將軍家重公之御判物延享三年十月十一日御頂戴

將軍家治公之御判物寶曆十一年十月廿一日御頂戴

將軍家齊公之御判物天明八年三月五日御頂戴

將軍家慶公之御判物天保十年三月五日御頂戴

右八行

家光公之御判物御高不相替候

貞享元年九月廿一日牧野因幡守様本多淡路守様より出候目錄高之事

薩摩國一円

伊佐郡

五拾貳箇村

高三万八千四百壹石三斗六升貳合四勺七才

(朱)

「但寛文四年之御目錄ニ伊佐郡を伊作郡と書違有之候付、伊佐郡と御

改被 仰付度旨、光久公御代依御願貞享元年九月廿一日 將軍綱吉公

御代之御目錄伊佐郡と被相改候」

薩摩郡

三拾三箇村

高四万貳千七百拾九石壹斗三升四合七勺五才

鹿兒島郡

貳拾七箇村

高三万三千三拾九石六斗九升四合二勺

日置郡

四拾八箇村

高五万六千六百四拾八石四升三合九勺

阿多郡

貳拾箇村

高貳万三千五百七拾石四斗七升五勺

河辺郡

三拾五箇村

高三万五千四拾五石七斗壹升八合

甕島郡

貳箇村

高貳千七百九拾壹石三斗八升五合

顯娃郡

七箇村

高壹万五千九百三拾九石三斗八升四合七勺

揖宿郡

七箇村

高壹万六千八百五拾七石五升六合七勺

給黎郡

六箇村

高壹万四千六百四拾四石貳斗七合

(朱)

「但寛文四年 將軍家綱公御代之御目錄ニ知覧郡を給黎郡と被相籠、

薩摩拾三郡と御書附出候付、貞享元年 將軍綱吉公之御判物出候

節、知覧郡之儀可被 仰上哉之由達 貴聞候処、太閤秀吉公之御

朱印、節用集ニ薩摩拾四郡と有之迄ニ而慥成証文無之、其上御取

持之和名鈔ニ無之上ハ相達間敷候間、被 仰上間敷候、拾三郡ニ

成候と而御高減ニ而も無之候、郡持杯ニハ相替候旨、光久公被

仰出御願御延引候」

谿山郡

六箇村

高壹万五千四拾七石八斗九升五合五勺

出水郡

七箇村

高貳万三千七百三拾五石貳斗五升六合

高城郡

八箇村

高八千四百四拾五石九斗九升壹合四勺

大隅國一円

菱刈郡

拾三箇村

高九千九百八拾六石八斗五升六合

桑原郡

三拾貳箇村

高貳万八千八百四拾四石四升三合

始羅郡

三拾九箇村

高貳万六千六百四拾三石四斗六升貳合

(朱)

一 但寛文四年之御目録ニハ始羅郡を始羅と書違候而有之候付、右之
詔光久公御代被 仰上、貞享元年九月廿一日出候 將軍綱吉公御
代之御目録始羅郡ニ被相改候

一 右之通ニ候処、正徳二年四月十一日出候御目録始羅郡と又々被書
記候、然処同年秋浦々々添御高札被相建候、右書揚帳始羅郡と書
記可差出候哉、始羅郡と書記可差出候哉、此以前より鉄炮改帳又
ハ御国絵図等始羅郡と書記被差出事候得共、右相違ニ付、書揚帳
式通ニ相調被差上候処、右跡之儀諸方々も有之、段々被申出御方
有之候得共、不埒明候得ハ此御願有之候而も急々片付間敷候、
追付御判物御改可有之候、其節御願可然と此節ハ何之無沙汰、始
羅郡之帳差出可然と於江戸相談相究、始羅郡と書候帳差出相納候
由到來有之候

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目録ニハ
右相違之誤被 仰出、始羅郡と書記相渡候事」

嚙啖郡

六拾六箇村

高四万三千八百八拾四石四斗八升

肝属郡

三拾八箇村

高四万貳千拾五石九斗八升八合

大隅郡

三拾貳箇村

高貳万百九拾貳石三斗壹升三合

熊毛郡

九箇村

高五千貳百五石七斗壹升九合

馭謨郡

四箇村

高千八拾石五斗九升

日向国

諸県郡之内

百六拾四箇村

高拾貳万貳拾四石五斗八升

都合六拾万五千八百六拾三石六斗三升

外琉球国諸島拾五島

高拾貳万三千七百石

右拾五島左ニ相記

大島

島廻五拾九里拾町

鹿兒島より百四拾三里

高壹万四千五百貳拾石壹斗貳升九勺五才

徳之島

島廻七里三町

鹿兒島より百七拾九里

高壹万三千六百九拾九石壹斗九升貳合八才

沖永良部島

島廻拾里十八町

鹿兒島より貳百三拾四里半

高五千八百貳拾八石八斗壹升四合五勺壹才

与論島

島廻三里五町

鹿兒島より貳百四拾七里半

高貳千四百貳石七斗五升九合壹勺八才

喜界島

島廻六里貳拾町

鹿兒島より百五拾八里

高壹万四百八拾六石六斗九升壹合四勺三才

合高四万六千九百三拾七石五斗七升八合八勺七才

但万治二年御引並卒

沖繩島

島廻七拾四里

鹿兒島より貳百九拾五里半

高六万貳千九百九拾九石六斗壹升六合七勺四才

恵平屋島

島廻四里貳拾六町

鹿兒島より貳百八拾貳里半

高五百四拾壹石六斗貳升五合五勺四才

伊是那島

島廻貳里拾八町

鹿兒島より貳百八拾里三拾四町

高七百五拾石貳斗六勺四才

伊恵島

島廻四里七町

鹿兒島より貳百七拾四里半

高三千六百四拾三石四升貳合九勺七才

計羅摩島 島廻三里

鹿兒島より三百式里半

高式百三石四合壹勺三才

戸無島

島廻壹里六町
鹿兒島より三百式里半

高四拾五石壹斗五升四合九勺

栗島

島廻貳里拾貳町
鹿兒島より貳百九拾四里半

高七百貳拾七石四斗三升六合四勺六才

宮古島

島廻拾壹里
鹿兒島より三百八拾八里半

高壹万貳千四百五拾八石七斗八升八合八勺七才

久米島

島廻六里貳拾町
鹿兒島より三百四拾三里半

高參千六百七拾七石七斗九合九勺六才

八重山島

島廻拾六里拾七町
鹿兒島より四百四拾壹里半

高六千六百三拾七石三斗貳升壹合六才

合高九万八千八百八拾三石九斗壹合貳勺七才

右之拾島ハ国司領

〔二〕 京竿以来御検地高作様之事

文祿五年之京竿高總帳之惣高

一 高頭六拾万五千八百六拾三石余

薩隅並日向諸県郡

右京竿之御検地帳無御座候付、高之作様委細ニ相知不申候、乍然日州飯野杉水流村京竿御検地帳壹冊于今有之候付、右杉水流村高頭を以京竿之高總ニ引合候得ハ田畠ニ相掛候分米壹石を高壹石ニ為相定と相見得申候、但琉球国並道之島ハ京竿之御検地帳無御座候付、高之作様相知不申候

慶長十五年之竿

一 高頭拾壹万三千四拾壹石九斗六升余

琉球国

右如京竿上中下之村田畠位、分米大豆を以相定高如此之由古帳相見得申候

慶長之新竿粗三俵石にして壹石五升ニ而高壹石ニ作ル

一 高頭六拾壹万九千五拾五石八斗余

薩隅並日向諸県郡

右慶長十六七年之間ニ内検御竿入有之、御検地帳高究之通、粗大豆貳石を分米壹石ニ成ル、高作候得ハ惣高三拾七万七千九百七拾四石八升六合五勺之筈ニ而大分ニ御高引入候付、御検地以後粗壹石五升ニ而高壹石ニ賦、高頭右之通六拾壹万九千五拾五石八斗余ニ為被相究ニ而可有之哉、慶長十九年五月十四日之付付ニ而右高頭並高之作様を書付候一紙御支配所江有之候を以右之通相考申候、因田帳無御座候付、委細之儀不相知之由候

寛永十年竿并慶安五年御船手竿

一 高頭五拾七万貳千六百八十八斗六升余

薩隅並日向諸県郡

右寛永十年之御検地帳ニハ粗壹石五升ニ而高壹石ニ為相究帳有之候得共因田帳ニハ粗九斗六升ニ而高壹石ニ相究有之候、然ハ最前ハ粗壹石五升ニ而高作候得ハ御高引入候付、御検地以後ニ粗九斗六升ニ高作替為有之と考申候、且又慶安五年御船手竿と申儀、諸浦町屋敷並塩浜高計を御船手方より御検地為有之と因田帳ニ相見得申候

寛永元年新竿内検粗壹石五升ニ而高壹石ニ作ル

一 高頭四万三千貳百五拾石七斗六升余

琉球道之島

右寛永元年より御蔵入之故、為收納内検高壹石付粗三俵賦之高ニ相定候由古帳相見得申候

寛永十二年元高百石付七石三斗六升五合壹才宛盛増

一 高頭九万八千八百八拾三石九斗余

琉球国司領

御朱印高二不足二付如是盛増為有之由古帳相見得申候

万治御内檢竿粗大豆九斗六升を以高壹石二作ル

一 高六拾万九千三百七拾八石八斗七升余

薩隅並日向諸県郡

享保御内檢竿粗大豆九斗六升を以高壹石二作ル

一 高七拾貳万四千四拾石貳斗貳升余

薩隅並日向諸県郡

万治御内檢竿元高百石二付三石六斗八升貳合五勺宛盛増

一 高九万四千貳百三拾石七斗余

但高之作様不相知候、享保御内檢竿無之候

琉球国司領

享保御内檢竿粗大豆壹石五升を以高壹石二作ル

高五万七千七百五拾六石六斗四升余

琉球道之嶋

〔三〕 神社仏閣寺院数之事

一 神社四千六百六拾三社

内 三拾壹社 鹿兒島
貳拾壹社 諸郷

御物修甫

三百拾四社

内 貳拾貳社
貳百九拾貳社

鹿兒島 寺社方修甫
諸郷

四千貳百九拾七社

内 百拾五社
四千五拾貳社

鹿兒島 修甫無構
諸郷

一堂四千貳百七拾貳字

内 貳拾貳字
貳拾六字 四宇

御物修甫

八拾九宇

内 貳拾四宇
六拾五宇

鹿兒島 諸郷

寺社方修甫

四千五百五拾五宇

七拾貳字

鹿兒島

修甫無構

一 寺院九百九拾三ヶ寺

内 貳拾ヶ寺 鹿兒島
三拾壹ヶ寺 拾壹ヶ寺 諸郷

御物修甫

貳百八拾壹ヶ寺

内 三拾三ヶ寺 鹿兒島
貳百五拾八ヶ寺 諸郷

寺社方修甫

六百八拾壹ヶ寺

内 八拾四ヶ寺 鹿兒島
五百九拾七ヶ寺 諸郷

修甫無構

〔四〕 諸事門首並山伏袈裟頭之事

附神主之事

天台宗武州東叡山寛永寺円頓院直末法曼派山門玉照院兼帶

鹿兒島 大雄山 仏日寺 着座 南泉院

真言宗小野方京都醍醐三寶院殿而末寺大覚寺院家尊壽院兼帶

鹿兒島 經田山 宝成就寺 着座 大乘院

天台宗本山派山伏薩隅日袈裟頭飯隈山別當職

大崎 飯隈山 飯福寺 着座 照信院

曹洞宗能州諸嶽山総持寺末寺我山五哲之内通幻派下石屋派

鹿兒島 玉龍山 着座 福昌寺

真言宗郡山厚地花尾権現別當職当分大乘院兼帶

郡山 花尾山 着座 平等王院

浄土宗京都華頂山大谷寺智恵院末寺鎮西派

鹿兒島 養泉山 無量寺 着座 不斷光院

時衆宗相州藤沢山清浄光寺無量壽院末寺

鹿兒島 松峯山 無量壽院 着座 浄光明寺

山州宇治黄檗山末寺禪宗黄檗派下木庵派

鹿兒島 万徳山 着座 千眼寺

真言宗広沢方京都大内山仁和寺宇多院末寺
 坊津 如意珠山 竜巖寺 着座 一乘院
 天台宗武州東叡山寛永寺円頓院末寺法曼派国分正八幡宮別当
 国分 鷲峯山 靈鷲山寺 着座 弥勒院
 臨濟宗五山派京都惠日山東福寺末寺
 鹿兒島 瑞雲山 着座 大龍寺
 律宗黄檗派山州宇治黄檗山万福寺末寺南源派
 鹿兒島 元持山 着座 寿国寺
 律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺
 志布志 秘山 密教院 宝満寺
 天台宗武州東叡山寛永寺円頓院末寺穴太派日州天台宗一寺
 高原 霧島山 華林寺 神徳院
 天台宗江州比叡山延暦寺止観院末寺穴太派薩州天台宗一寺
 野田 亀翁山 西性院 山内寺
 真言宗
 鹿兒島 護国山 大栗寺 安養院
 臨濟宗五山派京都東山建仁寺末寺
 国分 靈鷲山 正興寺
 臨濟宗京都正法山妙心寺末寺関山派
 志布志 龍興山 大慈寺
 臨濟宗五山派京都瑞雲山太平興國南禅寺末寺当分大竜寺兼帶
 伊集院 奉定山 法濟寺
 臨濟宗五山派京都惠日山東福寺末寺
 野田 鎮国山 感応寺
 法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺
 鹿兒島 本長山 正建寺
 真言宗小野方京都五百仏山根来寺智積院末寺
 出水 加志久利山 惣特院 幸善寺

法華宗富士門派宇頭職房州中谷山妙本寺末寺
 高岡 松尾山 本永寺
 法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺
 国分 鷲峯山 観持院 門首 遠寿寺
 浄土宗鎮西派京都華頂山大谷寺智恩院末寺
 帖佐 如意珠山 願成寺
 律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺
 国分 梅靈山 無量寿院 門首 正国寺
 本山州派山伏
 鹿兒島 補陀洛山 佛母寺 普門院
 本山派山伏小林瀬戸尾権現別当
 吉松 新熊山 三蔵院 内小野寺
 浄土宗京都智恩院末寺
 加治木 松月山 靈鷲院 本誓寺
 鹿兒島福ヶ迫諏訪神主
 井上 出雲守
 福ヶ迫諏訪権神主一往兼帶
 村山 肥後
 水引八幡新田宮執印職
 執印 吉左衛門
 宮内八幡山
 右惣山号之儀上野より御尋有之候得共、惣山号無之旨、弥勒院より申出
 置候、享保六廿七月
 「五」勅願所之事附一國一ヶ寺之事
 当禁裏御所仙洞御所勅願所真言宗小野方京都醍醐三宝院殿嵯峨大覚寺殿
 阿末寺大覚寺院家尊寿院兼帶

鹿兒島 經開山 宝成就寺 着座門首 大乘院
後奈良院勅願所曹洞宗能州諸嶽山總持寺末寺幾山五哲之内通幻派下石屋派

鹿兒島 玉龍山 着座門首 福昌寺

後奈良院勅願所真言宗広沢方京都大内山仁和寺宇多院末寺

坊津 如意珠山 竜巖寺 着座門首 一乘院

華嚴帝勅願所律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

志布志 秘山 密教院 門首 宝満寺

正親町院勅願所時衆宗相州藤沢山清淨光寺無量壽院末寺

出水 行法山 一心院 専修寺

臨濟宗京都正法山妙心寺末寺関山派

志布志 龍興山 門首 大慈寺

右由緒書人王九十七代 光明院依 勅願、曆三年御建立、広惠之二字を賜 勅号大慈広惠禪寺と号、開山ハ 勅謚仏智大通禪師と申候由、然

共勅書ハ無之候、為祈願所可致精誠旨 尊氏卿 義詮卿御直判之書附有之、就中文安元年八月可為十刹列旨古文書有之由御記録所相和、且又

龜山帝御不之節、於京都東山寺開山降魔之儀有之、其以後十刹列之御教書并尊氏卿より御制札等于今有之、古来より 勅願所と申伝候

真言宗大乘院末寺

水引 医王山 正知院

右寺四海泰平万民為利益とて人皇四十三代 元明天皇御草創靈窟にして

天皇御手自藥師如来之像を御彫刻、和銅元年当寺に御安置則泰平を以寺号と被成、比叡山中堂藥師、京都因幡堂之藥師、当寺之藥師を日本之三

藥師と崇敬候由泰平寺由緒書相見得候

右通 天皇御草創候得ハ 勅願所無疑候得共、往古之事候得ハ文書之内

勅書ハ不相見得候

曹洞宗清水楊巖寺末寺隅州之一ヶ寺

国分 円通山

真言宗大乘院末寺薩州之一ヶ寺

水引 国山 威徳院

国分寺

国分寺

国分寺

国分寺

右式ヶ寺 聖武帝之 勅願ニ而日本国裏一國一ヶ寺御建立之内ニ而御座候

臨濟宗関山派京都妙心寺末寺隅州之一ヶ寺

加治木 太平山 安国寺

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺薩州之一ヶ寺

中郷 太平山 安国寺

右式ヶ寺 將軍尊氏公御願ニ而一國一ヶ寺御建立之内ニ而御座候

天台宗武州東叡山寛永寺門頼院末寺穴太派

高原 霧島山 華林寺 門首 神徳院

天台宗江州比叡山延暦寺止観院末寺穴太派

野田 龜翁山 西性院 門首 山内寺

右両寺寛文五年神徳院より山内寺を末寺と書出候付而其以後山内寺より

由緒古跡之訳を以申出趣有之、達 貴閑候處、山内寺ニハ由緒有之古跡

候条神徳院末寺と難申候、御領内ニ而ハ神徳院ハ日州之一寺、山内寺ハ

薩州之一寺ニ被仰付、両寺別立候様有之度旨、上野明王院に被仰聞、両

執当覺王院・仏頂院に右之趣相達候處、思召之通、両國之一寺御極可被

成旨而執当より被申候由明王院より被申遣候故、両國天台宗之一寺元禄

四年被仰渡候

「六」御先祖様御菩提所並有由緒寺院之事

附御家御代々御正忌日御夫人御正忌日之事

天台宗武州東叡山寛永寺門頼院直末法曼派山門玉照院兼帶着座門首

一 大雄山 仏日寺 鹿兒島 南泉院

一 東照宮大権現御鎮座 家康公元和二丙辰四月十

御影御東帯 七日 薨御

一 台徳院贈正一位大相國 秀忠公寛永九壬申正月廿

一 大猷院贈正一位大相國 四日 薨御

家光公慶安四辛卯四月廿

日 薨御

- 一 嚴有院贈正一位大相國 家繼公延宝八庚申五月八日 薨御
- 一 常憲院贈正一位大相國 綱吉公宝永六己丑正月十日 薨御
- 一 文照院贈正一位大相國 家宣公正德二壬辰十月十四日 薨御
- 一 右 御五代之 御牌銘八束叡山第五世大明院 品公介親王准三后御真跡
- 一 有意院贈正一位大相國 家繼公正德六丙申四月晦日 薨御
- 一 右 御牌銘右同第六世崇保院准三后一品公寬親王 御染筆
- 一 有德院贈正一位大相國 吉宗公寬延四年辛未六月廿日 薨御
- 一 右 御牌銘右同第七世隨自意院准三后一品公遵親王 御染筆
- 一 淳信院贈正一位大相國 家重公宝曆十一年辛巳六月十二日 薨御
- 一 右 御牌銘右同第八世一品公啓法親王 御染筆
- 一 澄明院贈正一位大相國 家治公天明六年壬午九月八日 薨御
- 一 右 御牌銘右同第十世一品公延法親王 御染筆
- 一 文恭院贈正一位大相國 家齊公天保十二丑閏正月晦日 薨御
- 一 右 御牌銘右同第十二世自在心院准三后一品公猷親王御染筆
- 一 右之通 尊牌御安置
- 一 將軍家公文五通
- 一 大願寺記錄寫卷
- 一 右大願寺文書二而候處、南泉院之儀廢跡御再興之儀故、右文書相納有之候
- 一 大雄山 御宮並南泉院御位牌殿之儀薩州鶴田紫尾山大願寺元米之天台宗二而 足利將軍 義滿公御自筆區王宝殿之額迄為被遺置寺 光久公雖被引移置、地面も挾、彼是不宜候付、依 吉貴公之命、宝永七年庚寅四月御再興、寺山院号東叡山准后より被改候、和州吉野山学頭願王

- 院權僧正智周住職ニ而常院室被仰付、且御領国天台宗触頭ニ而御座候
- 一 高五百五石九斗六升四合五勺八才 鹿兒島 実相院
- 一 右三ヶ寺高百石宛 右同 觀樹院
- 一 愛宕山 十輪院 右同 吉祥院
- 一 紫尾山 神興寺 小林 円岳寺
- 一 高式拾八石壹斗六升六合六勺六才 龜田 祢答院
- 一 清泰山 普慶寺 伊集院 来迎院
- 一 高式拾九石九斗九升六合六勺七才 右来迎院之儀ハ高原神德院末寺廢寺之号跡を以正徳五未年再興
- 一 寬陽院様御位牌享保元申九月来迎院ニ御安置
- 一 岩劔山 神宮寺 重富 円明院
- 一 霧島山 金剛院 都城 明觀寺
- 一 高三拾八石四斗五合 円寛山 法界寺 花岡 真如院
- 一 高三拾石 右九ヶ寺南泉院門中
- 真言宗小野方京都醍醐三宝院殿嵯峨大覚寺殿向末寺大覚寺院家尊寿院兼帶着座門首
- 一 經田山 宝成就寺 鹿兒島 大乘院
- 一 高九百拾石四斗七合四勺九才 内 七石六升七合七勺壹才 弘化四年新竿增高
- 一 開山俊盛法印
- 陸奥守貴久公天文年中御創建国家之御祈願所と御定候、此寺伊集院宝莊嚴寺を移し大乘院と被号候
- 一 伊集院宝莊嚴寺之儀、応永廿五年 久豊公御代御創建 尊像書籍等御安置、小野嫡流始祖と御定、薩隅日三州之法務支配仕候様被仰付置候處、忠治公御代ニ至り宗門年々繁榮、毎年十月十四日門徒集会般

若理趣之真文を誦誦仕来候処、貴久公御代遠方御祈禱之 御志趣 思召二難叶、天文年中本尊并書籍法流迄被召移、大乘院と被号、国家之御祈願所と御定、当分之門前地二御建立有之、第三世久譽代、只今之地二被引移置、宝永年中本堂護摩堂鐘當仁王門等都而御建立有之候

一 右院永々僧正地被仰付、寺格不断光院次被仰付置候得共、嵯峨御所より無御趣趣有之 勅願所被仰出候付 思召を以寺格南泉院次二被仰付、何篇南泉院同様被仰付旨、文政八酉九月被仰付候

但 南泉院、大乘院、一乘院三ヶ寺共僧正之節ハ、順席可為先官旨被仰渡候

御影殿

齊興公御像御法鉢

右思召を以文政十亥年御安置

一 錢式百六貫六百式拾文

右御供物料として年々御納戸藏より御渡方有之候

大乘院僧正

松齡様

御肖像 御一鉢

右ハ從 義弘公泉州堺居住田那辺屋道与江、御直二 拝領被仰付置候

処、摂州住吉辺二而草庵致建立、号松齡院と御安置申上置候処、其後道与子孫京都相国寺之内林光院江亦々御安置申上置候段 宰相齊興公被 聞召上、此度右御肖像御画像江御引替被遊御取返候、尤 松齡様御寺伊集院妙円寺之御事候得ハ、別段厚 思召之御訳被為、在御手許御取計二而此節御帰国之上、大乘院御内仏殿江被遊 御安置旨、於敷舞台御家老衆より被仰渡候

天保十二年丑十一月九日

大興殿

松齡様御肖像御安置之御仏殿、右之通相唱候様被仰付候旨、安房殿より被仰渡候

天保十四年卯六月

一 右 大興殿、以来御修甫等之節御作事計被仰付候、量敷替等之儀ハ

御春屋役請持被仰付候旨、央殿より仰渡候、弘化二年巳四月

一 近比大身以下諸士倍臣迄も 松齡様関ヶ原御難儀之御事情奉慕、例年九月十四日伊集院妙円寺江參詣相企候様之為鉢三而、多人数差越候段被為 聞召通、関ヶ原 御帰路御危難之御、田那部屋道与無二之忠節為仕依訳、 松齡様御存生中京都より仏工被召奇 御形容無御相違様、於御前御自像御作セ、直二拝領被仰付置候処、先年以 思召大乘院江御遷座被遊置、関ヶ原之御由緒付而ハ、右様格別成御訳柄之御影像二候間、右御靈様江致參詣候儀当然之事二被 思召上候、依之以来士以上致參詣度者ハ、毎年九月十四日十五日両日中改服二而、右 御像前江拜礼被 仰付旨、被 仰出候段、御家老衆御連名を以、嘉永二年酉九日被仰渡候

鎮国殿

御影殿之儀右之通此節唱被相替候旨、安房殿より天保十四年卯六月被仰渡候

一 金子千百兩

右ハ 鎮国殿 大興殿護摩所五大尊御供料として、御手許計を以寺社方江被相渡、相当之利付を以貸付置、年々右利錢大乘院江相渡、御祭札相勤候様被仰付候旨、笑左衛門殿より弘化二年巳十月被仰渡候

一 当禁裏御所

一 仙洞御所

右 勅願所二而御座候

真言宗大乘院末寺

一 神志山 金胎寺

鹿兒島 抱真院

一 高百拾五石三斗三升四合六才

一 高三拾石 神明領

真言宗大乘院末寺

一 霧島山 花林寺 高原錫杖院

一 高百拾六石四斗壹升四合五勺七才天保十四年卯十月順席抱真院次被仰付候

真言宗大乘院末寺

一 如意山 願成就寺

伊作 海藏院

一 開山広範律師、小野三寶院定濟方之法派伝来、御当国ニ相伝、灌頂
於当寺始而執行有之、御当国灌頂之始ニ而候由寺伝有之候

一 高五拾九石

真言宗大乘院末寺

一 白鳥山 金剛乘院

飯野 満足寺

一 開山性空上人康保年中開基

一 白鳥神社六座ハ 日本武尊を奉崇候、性空上人康保年中、此山ニ来
而修法練行す、時ニ老翁老人忽然と現、性空ニ向而曰、我ハ日本武尊
也、白鳥と化而此山ニ来住事久と云々、於此上人山之半腹ニ靈廟を建
而祭之、山を白鳥と申候ハ此謂也、性空此寺を建而為別当寺、其後天
台之徒、致退転、応永十五戊子年真言宗光尊法印再興

一 高百四拾三石五斗貳升三合

真言宗大乘院末寺

一 神護山 觀音寺

鹿兒島 宝持院

一 高五拾石

真言宗大乘院末寺

一 愛宕山 宝幢寺

鹿兒島 勝軍院

一 高拾五石

真言宗大乘院末寺

一 神照山

鹿兒島 普賢院

一 高三拾石

真言宗大乘院末寺

一 高五拾石

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 潮音院

一 太岳山 垂護寺

鹿兒島 善聚院

小城権現

忠国之御霊

右明応六年十月從 忠昌公 忠国公御霊を被遊御崇安養院ニ執務被仰付
置候処、其後 惟新公御崇敬被遊、善聚院江別当寺被仰付候筋、由緒帳
ニ相見得申候

一 高五拾石

真言宗大乘院末寺

一 高五拾石

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 延寿院

鹿兒島 護国院

鹿兒島 柿本寺

鹿兒島 千手院

鹿兒島 文珠院

鹿兒島 善行院

鹿兒島 西寿院

鹿兒島 威光院

鹿兒島 宝珠院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

鹿兒島 福藏院

一 宝珠山 威徳院	高岡	高福寺
一 高拾六石		
真言宗大乘院末寺		
一 医王山	鹿兒島	薬師院
一 高三拾五石式斗八升九合七才		
真言宗大乘院末寺		
一 真言宗大乘院末寺	鹿兒島	永福寺
一 平安山 上宮院	鹿兒島	松本寺
真言宗大乘院末寺		
一 円融院	郡山厚地	曼荼羅寺
一 高式拾五石		
真言宗大乘院末寺		
一 高式拾五石	郡山厚地	本地院
真言宗大乘院末寺		
一 高式拾五石	郡山厚地	多聞院
真言宗大乘院末寺		
一 高式拾五石	郡山厚地	普賢院
真言宗大乘院末寺		
一 高式拾石	今和泉	福寿院
真言宗大乘院末寺		
一 平安山 八流寺	帖佐	増長院
一 高式拾七石		
真言宗大乘院末寺		
一 五峯山 龍護院	国分	金剛寺

一 高五拾三石		
真言宗大乘院末寺		
一 大勝山 聖御院		伊集院 莊嚴寺
一 高四拾三石		
真言宗大乘院末寺		
一 摩尼山 千手院		始良 幸田寺
一 高三拾六石		
真言宗大乘院末寺		
一 觀現山 平嶺石寺		隈之城 金剛院
一 高三拾壹石		
真言宗大乘院末寺		
一 冠嶽山 鎮国寺		串木野 頂峰院
一 高四拾三石八斗式升八勺		
真言宗大乘院末寺		
一 稻荷山 西方寺		飯野 保寿院
一 高式拾七石九斗壹升八合七勺五才		
真言宗大乘院末寺		
一 狗留孫山 多宝院		飯野 端山寺
一 開山、葉上僧正、開基年間不相知候		
一 当山麓より三里、山上ニ至而其長さ拾五尋、囲七尺四方、又高き事五尋にして囲ハ相同じき自然之ニ長石、深谷之中より屹立而空裏ニ聳ユ縁記口、是ハ上古ニ健盤婆謂ニ龍王之ために狗留孫仏、觀音大士建給ふ石卒都婆也、仍山を狗留孫と号、後建仁寺開山、葉上僧正、中華ニ有之日、於医王山、觀音大士之蒙示、帰朝而此山ニ来り、卒都婆を拝し、谷傍之山嶺、一宮を立而弥陀薬師觀音之尊像を安置し、号三所権現、又宮傍に右寺を建而為別当寺、始天台宗、今ハ新義之密宗ニ而候		
一 高三拾四石式斗七升八勺四才		
真言宗大乘院末寺		
一 春日山 三摩地院	諸県郡高城	東竜寺
一 高九石三斗六升六合		

真言宗大乘院末寺
 一 東霧島山 金剛仏作寺 諸県郡高城 勅詔院
 一 高拾貳石
 真言宗大乘院
 一 馬連山 福性院 加久藤 二宮寺
 一 高五拾石
 真言宗大乘院末寺
 一 医王山 正知院 水引 泰平寺
 一 開山并開基之年月不詳
 一 本尊樂師ハ 元明帝御手自医王善逝之像を彫刻給而和銅元年 勅を降而御安置候一國一仏由候、鹿苑院義満公台翰之医王宝殿之額有之
 一 高貳拾壹石八斗
 真言宗大乘院末寺
 一 無量寿山 深川院 末吉 光明寺
 一 高貳拾六石
 真言宗大乘院末寺
 一 小牧山 法藏寺 財部 仏性院
 一 高拾四石
 真言宗大乘院末寺
 一 宝来山 淨菩提院 国分宮内 正高寺
 一 開山一慶上人、貞和四戊子年開基
 一 正八幡宮御本地所、三ヶ所之内准臨觀音
 一 高四拾三石余
 真言宗大乘院末寺
 一 密嚴山 丈陸寺 志布志 大性院
 一 高六拾五石七斗七升六合四才
 真言宗大乘院末寺
 一 雲林山 宝龜院 加世田 今泉寺
 一 高貳拾七石

真言宗大乘院末寺
 一 野間山 龍泉寺 加世田 愛染院
 一 高八石
 真言宗大乘院末寺
 一 牛王山 密教院 大日 郡山寺
 一 高貳拾六石
 真言宗大乘院末寺
 一 神龜山 水引 觀樹院
 一 高四拾六石余
 真言宗大乘院末寺
 一 国山 威徳院 水引 国分寺
 一 開山不詳、養老元年創立
 一 聖武帝之 勅願ニ而日本國裏一ヶ寺、御建立之内ニ而御座候
 一 右寺格護之 天満天神宮ハ往古 天曆帝依 勅、応和年中御建立、其後及破損之時、可造營之旨、国司_正賜 院宣、其外 御教書等之写数通有之候
 真言宗大乘院末寺
 一 光林山 吉祥院 加久藤 不動寺
 一 開山光林法印、開基之年月不相知候
 一 涼山幻生_{義弘公御子}、靈壽_{御遺骨}一壺、奉納御座候
 一 高貳拾五石貳斗九升壹合六勺六才
 曹洞宗能州諸嶽山總持寺末寺、巖山五哲之内通幻派下石屋派
 天台宗本山派山伏飯隈山別当薩隅日袈裟頭
 一 飯隈山 飯福寺 大崎着座門首 照信院
 一 開山覺進上人弘安三年叡山より来而新熊野権現を建立、其後歴數代妻帶期元別当職相統、日本国中本山二拾八人之先達所ニ而、從往右勅住ニ而候、期元別当職之年間不相知候
 一 文政十亥年代々正院家僧正家 勅許候付、寺格大乘院次被仰付候

一 高四百七拾壹石三斗九升三合七勺五才
本山派山伏大崎飯隈山坊中

大崎 仲之坊

一 高百壹石壹斗四合壹勺七才

真言宗当山派山伏薩隅日袈裟頭

一 雲海山 宝泉坊 鹿兒島着座門首 般若院

一 文化二年丑七月 三宝院御門跡より御山内学侶席中堂院永兼帶寺格

昇進被仰付候

一 弘化三年午四月 醍醐御殿より当院家中性院永兼帶家 御推許候

一 着座門首

右三宝院御門跡より院家中性院兼帶家 御推拳且 大乘院御門跡より

三輪山大門坊住職正先達被 仰付、殊重キ御祈禱をも被仰付候処、抽

丹誠或末派興隆寺務心掛宣敷段被 聞召上、旁別段厚以 思召寺格右

之通被仰付、席順飯隈山蓮光院次被 仰付候旨弘化四年未正月被仰渡

候

但南泉院大乘院・蓮光院・一乘院其外逆も僧正官成之者ハ、順席可為

先官旨も被仰渡候

一 家格代々寄合並被仰付家筋連名之次第、井上駿河守次被仰付候旨、

弘化四年未四月被仰渡候

一 寺格着座門首被仰付候付、入院御礼等之節進上物且下乘所其外何篇

蓮光院同様被仰付候旨、弘化四年未四月被仰渡候

嘉永元年申十一月 醍醐御殿より三輪山先達兼帶被仰付置候得共、他

山之掛合多分之事故三輪山先達被召放候

一 嘉永元年申十一月 醍醐御殿より中性院二而大先達職蒙、御推許候

一 嘉永二年酉二月般若院權僧正蒙 勅許候

一 嘉永二年酉二月万里小路中納言猶子成被仰付候

一 御高三百石

右深 思召之詔被為 在寺格等昇進被仰付置、此節寺家御取建 御軍

神勸請被仰付、追々重御祈禱も被仰付事候二付、小録二而ハ旁難行届

管候付、別段之以 思召右之通御高被召付、直取納被仰付候条、御祈

禱ハ勿論平日勤行抽丹誠相勤、一派興隆之取計可致旨被 仰付候段、
嘉永元年申八月被仰渡候

一 尊威御軍神

一 白鳩大権現

一 金毘羅大権現

一 右御社江御相殿

一 愛宕勝軍地蔵

一 右本堂江相殿

右ハ異賊為降伏以 思召、右之通般若院江勸請被仰付候条、御祈禱

ハ勿論日々勤行無怠慢相勤候様可申渡旨、嘉永元年申八月被仰渡候

般若院門中

一 西海山 向岳寺

右千秀院二而御座候處別段 思召之御詔被 在、代々山伏家筋被仰

付、右之通山号等被成下候、左候而慶連院と致改名、以来院号昇進

等之節ハ右之通代々名乗候様被仰付候、弘化二年巳五月被仰渡候

一 大門口

一 稻荷社

一 秋葉社

一 弁天社

右別当被仰付候旨弘化二年巳五月被仰渡候

一 御切米拾石

一 大門口弁天社守屋數百五拾坪畦にして五畦、永々被成下候旨弘化

二年巳五月被仰渡候

一 弘化二年巳正月本山より御直末並別觸格被仰候旨被仰渡候

一 大門口稻荷社並秋葉社・弁天社別当被仰付置候得共、御看經方被

仰付置別段御用向等相勤候付、嫡子照山院江別当相勤候様弘化二年

巳五月被仰渡候

一 大照山 聖無動寺

右厚 思召之御詔被為 在、山号等右之通被成下候旨、弘化二年巳

五月被仰渡候

一 弘化三年正月本山より御直末並別觸格被仰付候旨被仰渡候
普門山 如意輪寺 鹿兒島 存龍院

右円清院二而御座候処別段厚 思召之御沢被為 在、代々山伏家筋
被仰付、右之通山号等被成下候、左候而存龍院と致改名、以来院号
昇進等之節ハ、右之通代々名乗候様 被仰付候旨、弘化二年巳五月
被仰渡候

一 弘化二年巳正月本山より御直末並別觸格被仰付候旨被仰渡候
一 高麗町橋口屋敷七百八拾貳坪畦にして式反六畦式歩
右永々被成下候旨弘化二年巳五月被仰渡候

一 右古来より由緒有之一山をも被下置候付、別段厚 思召を以、以来
年頭一度中紙三束致進上、於御対面所独礼三而 御目見被仰付候旨、
弘化二年巳五月被仰渡候

一 玉龍山 鹿兒島若座門首 福昌寺

一 開山石屋裏梁和尚 伊集院長門忠國之十一男応永二十年
癸卯五月十一日丹州永沢寺寂年七十九

一 応永元年戌年、元久公御建立

一 高千三百六拾壹石四斗七升九合壹勺三才

一 内百七拾石、享保六年辛丑十二月廿四日增高

一 右ハ從 元久公御寄附

一 後奈良院勅願所

但勅願所之由緒、後奈良院御宸書有之候

一 勅額之文字、勅願所福昌寺之六字、後奈良院宸翰

一 氏久公 嘉慶元年丁卯閏五月四日、御逝去

一 元久公 御法名齡岳玄久大禪定門、御位牌殿に被遊御安置候

一 元久公 應永十八辛卯八月六日、御逝去 御影御廟所福昌寺

一 貴久公 元龜一、辛未六月廿三日、御逝去

一 昌寺 御法名大中良等庵主 御影御廟所南林寺、御廟所福

一 義久公 慶長十六辛亥正月廿一日、御逝去 御画像御影御牌所妙谷寺、御

一 廟所福昌寺

一 義弘公 元和五己未七月廿一日、御逝去 御牌所伊集院妙円寺、御廟所

一 福昌寺

一 久保公 文祿二癸巳九月八日、御逝去 御牌所谷山皇徳寺、御廟所福

一 昌寺

一 歳久 天正二十壬辰七月十八日、御卒去 御牌所帖佐心岳寺、御廟所福

一 昌寺

一 家久公 寛永十五戊寅二月廿三日、御逝去 御影堂福昌寺ニ被成御座、御

一 仏前高 三百石被召附置候得共、為御引替安永四末七月、銀三百枚被
召附置、右利銀壹貫五百目年、御渡方被仰付候

一 光久公 元禄七年甲戌十一月廿九日、御逝去 御牌御廟所福昌寺、御仏前高

一 百五拾石被召附置候得共、為御引替、安永四末七月銀百五拾枚被召
附、右利銀壹貫目年、御渡方被仰付候

一 綱久公 寛文十三癸丑二月十九日、御逝去 御牌御廟所福昌寺、御仏前高

一 百五拾石被召附置候得共、為御引替、安永四末七月、銀百枚被召附、
右利銀八百目宛年、御渡方被仰付候

一 綱貴公 宝永元年甲申九月十九日、御逝去 御牌御廟所福昌寺、御仏前高

一 百五拾石被召附置候得共、為御引替、安永四末七月銀百五拾枚被召
附置、右利銀壹貫目年、御渡方被仰付候

一 綱豊公 宝曆十庚辰九月廿日、御逝去 御牌御廟所福昌寺、御仏前高

一 百五拾石、御香銀六貫七百拾六匁三分八厘九毛、御祠堂銀同前被
召附置候得共、為引替御銀百五拾枚被召附、為利足御銀壹貫目ツ、
年々被相渡候

一 宗信公 寛延二己巳七月十日、御逝去 御牌御廟所福昌寺、御仏前高

百五拾石、御香燐銀六貫六百九十九分四厘壹毛、御祠堂銀同前被召
附置候

重年公 宝曆五乙亥六月十六日、御逝去
御法名円徳院殿覺満良義大居士 御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石、御香燐銀五貫九百拾七匁三分壹厘、御祠堂銀同前被召附
置候

重豪公 天保四癸巳正月廿日、御逝去
御法名大信院殿榮翁如証大居士 御牌御廟所福昌寺

一 真米貳拾三石五斗三升六合五才先

一 赤米貳石八斗貳升

一 銀九百貳拾目六分四厘四毛

一 右三行御仏餉高百五拾石所務

大信院様御像

右御在世中江戸大中寺住持安山依願、福昌寺仏殿東側、惣翁様御像
御同様之向を以文政十一子年御安置

一 齊宣公 天保十二年丑十月十日、御逝去

御法名大慈院殿舜翁溪山大居士 御牌御廟所福昌寺、御仏餉

高百五拾石御香燐銀九百貳拾目六分四厘四毛、御祠堂銀同前被召附置
候

一 觀光院殿玉影電明大禪童子 文政十二己丑九月十一日、御天亡
齊彬公御子菊三郎様

御位牌御石搭福昌寺御仏餉米貳石、銀三枚

一 敬外欽公大姉 氏久公御夫人御逝去年月不相知、伊集院
長門守忠国女、御牌仏殿被遊御座候

一 久山妙榮大姉 元久公御夫人、応永九壬午十二月十
一日、御逝去、伊集院氏娘之由候 御牌殿被遊御

座候

一 心応慶安大姉 家久公御夫人、光久公御実母寛永二乙丑
七月廿二日、御逝去 御牌所惠燈

院、御廟所福昌寺

輪桂貞玉大姉 家久公第三
之御女 御牌福昌寺、室之間二被成御座候、御仏餉

米貳斗四升八年、御渡方有之候

一 曹源院殿惠山水泉大姉 光久公前御夫人、綱久公御実母、万治元戊戌
六月十一日、御逝去、伊勢大隅守貞豊女

御牌所惠燈院、御廟所福昌寺、御靈屋之儀八宝永六年己丑三月吉貴公
御建立

一 陽和院殿本嶽自勝大姉 光久公御夫人、宝永八辛卯八月十二日
御逝去、平松中納言時庸卿御女

御牌御廟所福昌寺、御仏餉米六石、銀十枚

一 蘭室院殿身安貞法大姉 吉貴公御実母、二階堂十左衛門宣行女
天和三癸亥二月十九日、御逝去 御牌御廟所

福昌寺、御仏餉米六石、銀拾枚

一 靈龍院殿洗頭妙能日淵大姉 吉貴公御夫人、松平越中守定重女、
元文四己未八月五日御逝去 御牌御廟

所福昌寺、御仏餉米六石、銀十枚

一 智光院殿心願貞鏡大姉 重年公御夫人、宝曆四甲戌閏二月二
日、御逝去、島津大学久尚女 御廟所江戸大

円寺、御牌所福昌寺、御仏餉米六石、銀五枚

一 正覺院殿貞範妙雅大姉 重年公加治木家被成御座候節、御夫人、重豪公御実
母、島津備中貴儀女、延享二乙丑十一月七日、御逝去

御廟所加治木長年寺、御牌所福昌寺

一 右 正覺院様御位牌、惠燈院 御安置有之候得共、明和五年戊子六

月六日福昌寺御靈屋 御遷座

一 御仏餉米五石八御香燐銀四拾四匁貳分八毛

一 右 正覺院様御仏餉米并御香燐銀として福昌寺被召附置候

一 慈照院殿円心靈珠大姉 重豪公御夫人、明和六己丑九月廿六日
御逝去、徳川刑部卿宗尹卿女 御牌所福昌

寺、御廟所 江戸大円寺、御仏餉米三石、銀五枚

一 淨岸院殿信譽清仁祐光大禪定尼 繼豊公御夫人、前大樹綱吉公御養女、
実清閑寺大納言毘定卿御女、安永元壬

辰十二月五日

御牌御廟所福昌寺、御仏餉高百石被召附置候得共為引御逝去

替御銀百枚被召附利銀三百六拾毫匁式分ツ、年々被相渡候

玉貌院殿華山妙巖大姉 重豪公後御夫人、安永四乙未十月廿六日御逝去、甘露寺前大納言矩長卿女 御牌所福

昌寺、御廟所 江戸大円寺、御仏餉米三石、銀五枚

嶺松院殿寒心貞操大姉 重年公御実母、島津求馬久房女、天明八戊申十一月十九日、御逝去

御牌御廟所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚、御仏餉米三石被召附置候得共、引替として御銀拾枚三拾七匁三分九厘毫毛被召附、利銀三拾九匁式分六厘毫毛ツ、年々被相渡候

芳蓮院殿華葛清心大姉 齊宣公御夫人、佐竹右京太夫義和女 寛政八年丙辰六月八日御逝去 御廟所江戸大

円寺、御牌所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚

春光院殿心月清涼大姉 齊宣公御実母、堤中納言代長卿女、文化八年辛未六月十三日御逝去 御廟所江戸大

円寺、御牌所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚

賢章院殿玉輪恵光大姉 齊興公御夫人、松平相摸守齊邦妹、文政七年甲申八月十六日御逝去 御廟所江戸大

円寺、御牌所福昌寺

宝鏡院殿円爾妙鑑大姉 齊興公御実母、弘化三年丙午 御牌御廟所福昌寺 閏五月十八日御逝去

御仏餉米三石、銀五枚

広太院殿從一位超譽妙勝貞仁大姉 重豪公御女大樹家齊公御簾中 天保十五年辰十一月十日御逝去

御牌浄岸院様御靈屋御相殿正御安置、御仏餉料四貫三百目

福昌寺門中

曹洞宗丹州永沢寺末寺

一 法智山

伊集院 妙円寺

一 開山石屋和尚、明德元庚午年創立

一 義弘公 元和五己未七月廿一日、御逝去、御牌御影、妙円寺 御安置 法名、松齡自貞庵主、御廟所福昌寺

高三百七拾五石

京都相国寺内林光院 義弘公御木像被成御座候、子細ハ泉州鏡之田那辺屋道与申者平生被掛 御目を、其上関ヶ原乱後別而御懇意申上候、夫より節々御国江罷下候、道与事、老衰仕、罷下儀難成由申上候得ハ、御肖像御作セ可被下と被 仰聞、仏師康殿と申者を被召寄、毎日御鎖之間ニ御出候而御作セ、御名判迄被遊被下候、惟新様御逝去之後、庵室を建立仕、号 松齡院と、奉安置 御肖像、道与一世奉拝候、道与死後、俗家ニ奉安置候事恐多存候而、道与孫栗津右近弟致出家、右林光院住持ニ而候付、彼寺江奉 安置候由御座候右之段 宰相齊興公被 聞召上、右 御肖像御御画像御引替被遊御取返大乘院御内仏殿 天保十二丑九月十四日被遊御安置候

曹洞宗福昌寺末寺

一 松原山 鹿兒島 南林寺

一 開山心巖良信和尚、弘治三丁酉年創立

一 貴久公 元龜二辛未六月廿三日、御逝去、御牌御影南林寺 御安置 法名、大中良等庵主、御廟所福昌寺

右御影殿之儀徳豊殿と相唱候様被仰付、御額御手許計ニ而被遊御寄進、以来御修覆之儀ハ御物計被仰付候旨、弘化二年巳十二月被仰渡候

一 円信院殿寒溪妙蓮大姉 元龜三壬申十二月廿四日御逝去、義久公後御夫人、種子島左近將監時亮女 御牌

并御石塔御座候

一 高四百六石、御仏餉料

一 内式拾五石、妙蓮様御茶湯元

大中様御牌、志布志永泰寺ニも被遊 御立候様子ハ石 御代三ヶ国乱候付、一統被遊 御下知度旨、被 思召上候処、無程治り候故、一ヶ国一所ツ、大中様御牌御立可被成由、御遺言ニ而永泰寺ハ薩隅ニ相向候寺地故、三ヶ国御守護之由候

曹洞宗福昌寺末寺

一 覚照山

鹿兒島 妙谷寺

一 開山桂山和尚、文正・応仁之間、上伊敷村当分之不動堂地^ニ創立

一 義久公 慶長十六辛亥正月廿一日、御逝去、御建立^ニ而御牌・御画像妙谷寺^ニ御安置、御影ハ本尊釈迦如来

一 寺^ニ御安置、御影ハ本尊釈迦如来

一 高三百八拾五石五斗式升五勺三才、御仏餉料

一 此寺初ハ只今之不動堂地^ニ有之候を慶長元年^ニ御引せ被成、新地^ニ御建立之由申伝候

一 三ヶ國ニ登ヶ寺ツ、龍伯様御寺^ニ可被成由^ニ而薩州ハ出水龍光寺、

一 隅州ハ國分龍昌寺、日州ハ高岡之龍福寺之由候得共、龍昌寺計、御牌御立候、龍光寺ハ上代より有之寺^ニ候、龍昌寺・龍福寺ハ 龍伯

一 様御建立之寺^ニ而候、大龍寺ハ当 御城被為移候時、大中様・龍伯様被成御座候所故、両公之 御名之上之字を取、号大龍寺と、國

一 分宮内正興寺文之和尚住職被仰付候、両公御牌有之候

一 貫明様御影像

一 右嘉永三戌十二月御影殿御造立^ニ而被遊御安置、照國殿之文字御額被相掛候

曹洞宗福昌寺末寺

一 太平山

鹿兒島 興國寺

一 開山泰雲和尚、永正五戌辰年創立

一 忠昌公 永正五戌辰二月十五日、御逝去、御牌并御石塔御座候

一 御仏餉料、古銀拾枚

一 持明影室庵主 寛永七庚午十月五日、御逝去、国分様と申候 御牌並御画像

一 被成御座候

一 高式百石

一 右御高之儀ハ持明様御牌田宝永十四歲御寄附候旨給蒙撰津守外三人之御書附為有之由由緒帳ニ相見得申候、然処元禄六酉十一月興國寺より

願申出候ハ持明様御菩提料高式百石御寄附之御文書無之候間御老中御書物被下置度、左候ハ、任替之節右を以次渡度願之趣有之達 貴間候處、右高持明様御仏餉料^ニ而ハ無之 忠昌公御仏餉料相加候間委曲興國寺江申聞、御兩牌疎略無之様可仕候、右ニ付御証文書^ニ不及由、同七戌十一月被仰出候旨、高橋左門御取次を以被仰渡候筋相見得申候間、右式百石之儀ハ当分御兩靈様御仏餉之筋御座候

一 常照院殿觀了日脱大姉 寛文十三癸丑正月五日、御逝去、綱 御牌御安置、貴公前御夫人、松平左兵衛督信平女

一 御仏餉米六石

一 常照院殿御位牌最初惠燈院江御安置^ニ而候處、天和三年亥四月興國寺

一 江御遷座^ニ而、其節迄ハ高式拾石之所務米七石ツ、年々被相渡來候、其後貞享元子十一月被仰渡候ハ右御仏餉料此中米七石ツ、被相渡來候

一 得とも表方御相談之上^ニ而御女性方御先祖御仏餉料米六石と被相究候間、当八月より右員數ツ、向後年中可被相渡旨、新左衛門殿御差圖之段興

一 國寺江被仰渡候筋相見得申候、尤知行式拾石所務ハ其節之御書附^ニ茂相見得申候

一 円了院殿惠心幻智禪童女 享保二十乙卯十月七日 御牌・御廟所興國寺、御逝去、繼豐公御女

一 御仏餉料銀廿五枚

一 右寺、初ハ只今之大興寺之地^ニ有之、中比当御城之近辺^ニ而候由申

一 伝候

曹洞宗福昌寺末寺

一 開山石屋真梁和尚、応永年中創立 鹿兒島 惠燈院

一 久豐公 応永三十二乙巳正月廿一日、御逝去、御法名 義天存忠大禪定門、穆佐悟性寺^ニも御牌 御安置

一 寿山妙久大姉 久豐公御夫人、伊東大和守祐安女 御逝去年月不相知

一 無染了心大姉 久豐公後御夫人、寛政三亥四月 御逝去

一 光相院殿宝岳惠勝大姉 正徳五乙未十一月廿九日、御逝去、御石塔京都大徳寺、吉貴公御女、近衛右大臣家久公後御簾中、御仏

六石 御牌惠燈院

心広慶安大姉 寛永二乙丑七月廿二日、御逝去、家久公御大 御牌所惠燈院

御廟所福昌寺、御仏餉料高五拾石

曹源院殿惠山永泉大姉 万治元戊戌六月十一日、御逝去、光久公前御 御牌

所惠燈院、御廟所福昌寺、御仏餉料高五拾石

天真院殿蘭溪洞大禪童子 宝永五戊子十月廿三日、御早世、御石塔蘭室院 殿御廟所賜三有之候、吉貴公御二男忠五郎様

御牌所惠燈院、御廟所福昌寺、御祠堂古銀式貫目

明巖院殿霜蕚輝光大禪童女 宝永四丁亥十月廿九日、御逝去、御石塔蘭室院 殿御廟所賜三有之候、吉貴公御女 幹姫様

御牌所惠燈院、御廟所福昌寺、御祠堂古銀式貫目

幻花大禪童女 承応二癸巳五月廿六日 御牌所惠燈院、御石塔不相知 御逝去、光久公御女

幻覺大禪童子 延宝九辛酉六月廿三日、御逝去、綱貴公御子 御牌所惠燈院 御石塔福昌寺、綱貴公御廟所賜三有之候

御祠堂料銀拾枚

照雲院殿桂巖惠月大禪童女 重豪公御女、倍姫様、明和元年申七 月廿六日、御逝去 御牌所惠

燈院、御廟所福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、 御祠堂錢六拾九貫三百五拾貳文被召附候

真如院殿月峯妙輝大姉 真合院様御女、明和八 辛卯八月一日、御逝去 御牌所惠燈院、御祠堂銀

貳枚被召附置候

蓮心院殿清質妙香大禪童女 安永七戊戌五月二日、御天 亡、重豪公御女於克様 御牌所惠燈院、

御石塔福昌寺、御仏餉料銀廿五枚

翠黛院殿松屋惠吟大禪童女 安永七年戊戌六月十三日、 御天亡、重豪公御女、於厚様 御牌所惠燈院、

御石塔福昌寺、御仏餉料銀貳拾五枚

青林院殿幻質靈苗大禪童子 天明二年壬寅三月廿三日 御牌所惠燈院、御 御天亡、重豪公御子

石塔福昌寺、御仏餉料銀貳拾五枚

芙蓉院殿牧窓知玉大禪童女 天明四年甲辰七月廿六日、 御天亡、重豪公御女、牧姫様 御牌所惠燈院、

御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御仏餉 料銀貳拾枚

香樹院殿秋露幻清大禪童子 天明四年甲辰七月廿九日、御 天亡、重豪公御子龜五郎様 御牌所惠燈

院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

義光院殿天真佑明大禪童子 天明六年丙午四月十一日、御 天亡、重豪公御子感之助様 御牌所惠燈

院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

淨信院殿本因即妙大師 天明八年戊申四月廿日、御逝去、 重豪公御女 敬姫様 御牌所惠燈

院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀貳拾枚

麗珠院殿本光忠明大禪童子 寛政八年丙辰七月五日、御天亡、重 豪公御子為次郎様 御牌所惠

燈院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

天苗院殿玉質潤光大禪童子 寛政九年丁巳三月七日、御天亡、重 豪公御子乘之助様 御牌所惠

燈院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

幻住院殿真如淨空大禪童子 寛政十年戊午三月廿九日、御天亡、 齊宣公御子剛之進殿 御牌所惠

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀貳拾枚

蓬窓院殿惠旭秀光大禪童子 寛政十一年己未七月廿日、御天亡、 重豪公御子蓬之進様 御牌所惠

燈院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

燈院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

燈院、御石塔福昌寺御座候処、天保十四年卯四月惠燈院御引直、御 仏餉料銀貳拾枚

- 一 宝池院殿蓮岸清心大禪童子 享和元年辛酉四月十二日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚
- 一 光容院殿妙台惠鏡大禪童女 享和元年辛酉八月十七日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 宝台院殿瑞琴幻洞大禪童子 文化元年甲子三月二日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 瑞光院殿月心秋桂大禪童女 享和二年壬戌九月十七日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 香雲院殿華實幻舜大禪童女 文化六年己巳八月十四日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 麗苗院殿紅露雪顯大禪童女 文化八年辛未正月八日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 靈舍院殿義相理演大禪童子 文化九年壬申二月廿日、御逝去、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 蓮珠院殿夢幻実如大禪童子 文化十三年丙子六月三日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 智桂院殿妙雲幻香大禪童女 文化十三年丙午八月十日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 陽台院殿春岸幻明大禪童子 文政二年己卯正月廿日、於江戸、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚

- 一 燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 瑤池院殿綠台淨惠大禪童子 文政二年己卯四月十三日、於江戸、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 智源院殿蓮草泡心大禪童女 文政三年庚辰六月十七日、於江戸、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 麗苗院殿秋實幻香大禪童子 文政三年庚辰八月十六日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 光臨院殿浮玉幻藻大禪童子 文政四年辛巳四月七日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 寶珠院殿浮光幻影大禪童子 文政六年癸未二月十一日、御天亡、高輪大奥左
近様御方二而御出生之御男子、齊興公御養善次
郎様御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院
江御引直、御仏餉料銀式拾枚
- 一 天如院殿紅山玉露大禪童子 文政九年丙戌十月廿六日、御天亡、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 本光院殿瑞巖永祥大居士 天保五年甲午五月廿三日、御卒去、御牌所惠
燈院、御石塔福昌寺、御座候處、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御
仏餉料銀式拾枚
- 一 觀寺院実相如幻大禪童子 文政十年丁亥九月十日御天亡、御牌所惠燈院、
齊宣公御子夙之丞様

御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

光前院殿知見絶後大禪童女 文政十二年巳丑四月七日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

松涛院殿夢窓了吟大禪童女 天保二年辛巳六月八日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

淨台院殿玉露蓮香大禪童女 天保十二年庚子五月廿三日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

蓮相院殿実法幻鑑大禪童女 天保十一年庚子六月晦日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

麗光院殿天質惠明大禪童子 嘉永元年戊申五月七日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

惠燈院、御仏餉料銀式拾枚 嘉永二年己酉六月廿日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

篤入院殿実相記信大禪童子 嘉永三年戊戌十月四日御天亡 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

盛光院殿廓然惠照大禪童子 齊彬公御子盛之進様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

燈院、御仏餉料銀式拾枚 齊彬公御子盛之進様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

高七拾石 齊彬公御子盛之進様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺江御座候処、天保十四卯四月惠燈院江御引直、御仏餉料銀式拾枚

一 惠燈院之儀ハ福昌寺後見職ニ而鹿兒島三ヶ寺並之格式ニ被仰付置候、惠燈院ハ福昌寺之西方丈ニ而石屋禪師開基ニ而惠燈院之号ハ福昌

寺院号之由寺伝候

曹洞宗田布施常珠寺末寺

龍護山 加世田 日新寺

開山泰翁有仙和尚、開基年月不詳

忠良公 永祿十一戊辰十二月十三日、御逝去 御在世之時、保泉寺薩州家寺之由候を日新寺と御改号候而御牌御立被成候、常潤院ハ、日新公御影堂御廟所ニ而御座候

但常潤院ハ日新寺隱居之地ニ而諸御用筋当住より引請、相勤來申候、寺役勤行之儀ハ隱居有之候節ハ隱居より相勤、鑑司之節ハ鑑司之僧より相勤申事御座候

一 高三百三拾五石壹斗六升六合六勺六才 日新寺

一 高六拾九石六斗八升九合五勺八才 常潤院

曹洞宗能州總持寺末寺

一 永谷山 谷山 皇徳寺

一 開山無外円照和尚、貞治五壬寅年創立、無外和尚ハ為皇子之故、皇帝之皇之字を以号皇徳寺

一 久保公 文祿二年癸巳九月八日、御逝去、御法名一唯廻參大禪定門、義弘公御嫡男 御牌所皇徳寺、御廟所福昌寺於朝鮮国御逝去故、御遺骸御帰朝被成候

一 高百石、御仏餉料

曹洞宗福昌寺末寺

一 太平山 田布施 常珠寺

一 開山仙翁和尚、応永十八辛卯年開基

一 天勇玄機大禪定門 相模守友久主、明応二年癸巳三月十日御卒去、相州家之元祖 御牌・御石塔御座候

一 高拾六石

曹洞宗福昌寺末寺

一 法城山 市来 竜雲寺

一 開山心巖良信和尚、寛正三千年創立

一 立久公 文明六年甲午四月朔日、御逝去、御牌・御石塔御座候

一 淺山妙才大姉 文明十七年乙巳十一月十七日、御逝去、立久公御牌・御石塔御座候

一 高參拾七石 曹洞宗福昌寺末寺

一 福寿山 伊集院 梅岳寺

一 開山三枝舜右和尚、開基年月不詳候

一 日新公 永祿十一戊辰十二月十三日、御逝去、御影・御牌御座候

一 寬庭芳有太姉 日新公御夫人、永祿六癸亥十一月九日、御逝去、御牌・御石塔御座候

一 高七拾五石

曹洞宗福昌寺末寺

一 新豊山 志布志 永泰寺

一 開山代賢守仲和尚、天正七己卯三月建立

一 貴久公 元龜二辛未六月廿三日、御逝去、大申良等庵主、御牌御立被成候

一 御仏餉米四石

一 高拾七石九斗五升貳合壹勺

曹洞宗能州總持寺末寺、峨山五哲之内大源派

一 万年山 市米 金鐘寺

一 開山了堂真覺和尚、永和三丁巳年建立

一 高八石

曹洞宗福昌寺末寺、福昌寺内

深固院

一 開山石屋真榮和尚、開闢之地薩州吉利岩井田深固院初開之地二而候得共、文明三辛卯年福昌寺東嶺当分之地二被引移候

一 忠国公 文明二庚寅正月廿日、御逝去、御法名大岳玄誓大禪定門、御廟所加世田杉本寺格護六角堂

一 心華開安太姉 忠国公御夫人、新納、御牌・御石塔御座候

一 莫光院殿寶樹門明太姉 綱貴公御女、近衛大納言家久卿前御簾中、宝永三乙酉十月五日、御逝去、御仏餉米六石、京都大徳寺江有之、御牌御座候

一 智性院殿月寿相太姉 光久公御女、織田因幡守信盛室、正徳元辛卯七月廿日、御逝去、智性院様御牌ハ、御兄弟中様より被建置候、御石塔江戸大田寺立有之

一 高七石

曹洞宗福昌寺末寺

一 仏智山 鹿兒島郡 津友寺

一 開山竹居和尚、応永二十癸巳年創立

一 忠治公 永正十二乙亥八月廿五日、御逝去、御牌・御廟所御座候

一 吉田氏、初吉田領地之時、此寺了心寺と申候処、吉田入 御手候刻

一 御寺ニ被召成、寺号御改被成候由

一 高式拾石

一 内高拾石文化十四寅十二月被召附

曹洞宗福昌寺末寺

一 西峯山 鹿兒島 隆盛院

一 開山天祐和尚、永正十六己卯年創立

一 忠隆公 永正十六己卯四月四日、御逝去、御牌・御画像・御石塔御座候

一 伊作興焉寺二伊作家より、忠隆公御牌御建被置候

一 勝久公 御法名、豐後沖之浜ニ而天正元癸酉十月十五日、御逝去

一 大翁妙蓮

御牌何方ニも無御座候故、中將綱貴公より、勝久公之御牌、隆盛院ニ御安置

一 勝久公御石塔

重豪公思召を以、御再興被 仰出、文化十一年甲戌九月御成就

- 一 高九石式斗老升四合五勺九才
- 一 御切米六石、文化十四丑十一月被召附置候
- 曹洞宗福昌寺末寺

一 文明山 國分 竜昌寺

- 一 開山石屋和尚、慶長十年、開基石屋和尚を勧請為開山
- 一 義久公貫明存忠庵主御牌有之候
- 一 御牌御安置之訳、相知不申候
- 一 高三拾三石
- 曹洞宗福昌寺末寺

一 松齡山 加治木 長年寺

- 一 開山勅諭仏光普照禪師代賢守仲和尚、寛文九己酉閏十月、兵庫忠朗殿、中興之施主ニ而御座候
- 一 松齡自貞庵主 義弘公
- 一 実窓芳真大姉、家久公御母堂
- 右 御両靈御位牌、從 家久公御安置被遊候
- 一 源室林桃大姉、家久公御女
- 一 月清妙心大姉、家久公御女寛永十一年
甲戌八月十八日
- 右 御両靈御位牌并御廟所、從 家久公御安置被遊候、此以前ハ御靈屋小坂薙、唐戸ニ而候由書留相見得申候得共、当分ハ 御靈屋破壊仕、御石塔迄ニ而御座候
- 一 輪桂貞玉大姉、家久公御女、寛永九年壬申三月五日、御位牌、從家久公被遊御安置候
- 一 花心琴日大居士 家久公
- 一 持明彭窓庵主 家久公御夫人
- 右、御両靈御位牌、兵庫忠朗殿より御安置有之候
- 一 寛陽院殿泰雲慈温大居士 光久公
- 一 泰清院殿関山良無大居士 綱久公
- 一 真修院殿幸延妙栄日長大姉 綱久公御夫人
- 一 大玄院殿昌道元新大居士 綱貴公

- 右、御牌三代目之兵庫久住殿より御安置有之候
- 一 正覚院殿貞範妙雅大姉 延享二乙丑十一月七日、
御逝去

御牌・御廟所長年寺、銀拾枚御香花並金燈炬一對宛、取仕立料として宝曆七丑年、被召付置候、寛政八年辰四月、從 重豪公、御祠堂銀之 思召ニ而銀百枚被召付候

長年寺之儀本ハ鳳凰山大樹寺と申候而加治木城之下ニ御座候、其時分ハ開基之年月、開山施主、相知不申候、加治木菩提所として、松齡様御位牌御立、家久公毎々被遊 御仏詣候処、寺地不勝手、殊御屋形より鬼門ニ相当候付、家久公御意を以、寛永十四年之秋、当分之地ニ被召移候

一 松齡山長年寺と被相改候儀ハ寛文九己酉閏十月、御分國中、寺院本末御改之時分、兵庫忠朗殿より福昌寺持峯和尚ニ被申達、右之通被相改候、旨趣ハ大樹寺帖佐天福寺末寺ニ而候処、松齡様・琴月様御牌被成 御立、加治木菩提寺之儀候故、天福寺末寺を被相除、福昌寺十八世、勅諭仏光普照禪師代賢守仲和尚、長年寺開山ニ勸請ニ而御座候、持峯和尚書物有之候、然ハ兵庫忠朗殿、中興之施主ニ而御座候

- 一 十王繪十幅
- 右、從 義弘公、被遊御寄附候
- 一 義弘公肥後表 御出陣之節、御手ニ入候為 御証拠土庄鎮守三所大明神ニ有之候洪鐘一口被遊 御寄進、于今長年寺ニ格護仕候
- 一 高石八斗三升九合五勺八才
- 曹洞宗福昌寺末寺

一 広海山 地藏院 鹿兒島 良英寺

- 一 寛延四年未九月、中興開山、福昌寺先住修門竜鱗和尚
- 一 慈徳院様御引導相動候一筋を以、配下之廢寺地藏院再興之願申出、引移建立、改号良英寺
- 一 宥邦院様御牌、妙心院様思召有之、御安置

- 一 慈徳院様御牌、福昌寺修門和尚 御安置申上候
- 一 妙心院殿実法道徹大禪定尼 大明四年甲辰正月廿三日、御牌・御石塔御座候
- 一 高百七拾石
- 一 右從 妙心院様、御寄附
- 一 銀拾枚
- 一 米五石
- 一 右為御祠堂料、年々御物方より被相渡候
- 曹洞宗福昌寺末寺福昌寺内
- 一 開山人王百七代 正親町院勅諭、仏光普照禪師代賢守仲和尚、開基之年月不詳候
- 一 月香妙雲大師 元和九年癸亥六月十四日、家久公御妾中丸と 月申候相良日向長辰女、島津安芸久雄母堂
- 一 釋露童子 寛文六丙午十一月十六日 光久公御子
- 一 右兩 御牌御安置候、此寺初ハ良等院と号、歳久御建立之由候得共
- 一 右 御牌御立被成候付、被改月香院と候由ニ候
- 一 貴久公御牌并御画像御安置
- 一 歳久御牌御安置
- 一 高三拾石
- 曹洞宗福昌寺末寺福昌寺内
- 一 開山喜冠竜慶和尚、開基年月不詳候
- 一 花舜妙香大師 永禄二己未十一月十八日、御逝去、御牌所として此寺御建立
- 一 花窓貞春大師 寛永十三丙子正月十七日、死去、家久公御妾、家村彦岐守重治女
- 一 右位牌も御座候
- 一 高三拾石
- 曹洞宗福昌寺末寺

- 一 高三拾石
- 曹洞宗福昌寺末寺
- 一 重宝
- 曹洞宗福昌寺末寺
- 一 達磨山
- 一 開山在天和尚、開基年月不詳候
- 一 施主薩州家園久
- 一 高拾石
- 曹洞宗田布施常珠寺末寺
- 一 千秋山
- 一 開山二株桂林和尚、永禄十丁卯十二月、貴久公御創建之由棟札相見得申候
- 一 雪窓妙安大師 義久公、義弘公御母堂、天文十三甲辰八月十五日、御卒去、入来院禪正重聯女 御位牌所ニ而御座候
- 一 高百石
- 曹洞宗福昌寺末寺
- 一 智額山
- 一 高拾石
- 曹洞宗越前宅良慈眼寺末寺
- 一 仏頂山
- 一 高六石
- 曹洞宗能州總持寺末寺
- 一 兜卒山
- 一 高式拾石
- 曹洞宗飯野長善寺末寺
- 一 龜城山
- 一 開山常室梵庸和尚、開基年月不相知候
- 一 涼山幻生 天正四年丙子十一月廿二日、御早世 義弘公御子、龜寿様御牌所
- 鹿兒島 源舜庵
- 鹿兒島 上山寺
- 出水 龜光寺
- 伊集院 雪窓院
- 大口 成就寺
- 清水 楞嚴寺
- 飯野 長善寺
- 飯野 幻生寺

御牌御建被成候、加久藤不動寺ニハ、幻生様御遺骨一壺奉納有之候

一 高式拾石

曹洞宗福昌寺末寺

帖佐 総禅寺

一 竜護山

開山起宗興和尚、文明年中開基

一心恬良空大禪伯 天正二十年壬辰七月十八日、御卒去 御牌・御石塔有之候
左衛門督歳久入道晴養

一 高三拾式石 御仏餉料

曹洞宗福昌寺末寺

一 福城山

栗野 徳元寺

一 開山竹居和尚、開基年月不相知候

一 蘭桂純香大禪定門 文祿四年乙未七月四日、御早世、
義弘公御子久四郎忠清主

一 高式拾石

曹洞宗能州總持寺末寺

一 大定山

蒲生 永興寺

一 高五拾四石七升三合

曹洞宗市米金鐘寺末寺

一 忠徳山

川辺 宝福寺

一 開山字堂寛禪師ハ薩州日置郡藤原氏より出、父を久木崎光恵入道と申候、母懷妊之時、胸間「子」之相を現す、依之刺染して卍を為諱、禪師加州瑞川寺之竹窓智嚴に随從して法を學ひ、智嚴之法を嗣て応永二十一年甲午年本國に還り、先鳥帽子岳に居、又熊嶽に入而後遂に此寺を建立、其年月不詳候

一 高五拾八石六斗式升式合七勺壹才

曹洞宗田布施常珠寺末寺

一 龍豊山

川辺 玉泉寺

一 開山弟婦祚庵和尚

一 陸奥守忠國公御女玉泉智芳大姉明応五年丙辰七月三日 御逝去、此寺為 智芳大姉御建立

一 高七石五斗

曹洞宗福昌寺末寺

一 安泰山

指宿 源忠寺

一 高拾式石

曹洞宗川辺宝福寺末寺

一 如意山

谷山 清泉寺

曹洞宗福昌寺末寺

一 平源山

顯姓 証恩寺

一 高式拾五石三斗八合三勺

曹洞宗肥後悟真寺末寺明峯派

一 永谷山

川辺郡山田 善積寺

一 開山東峯和尚、大源和尚之弟子、開基年月不詳候

一 伝称、東峯此山に住時、山中に毒蛇有而人民を悩、毒蛇烟火燃降伏するものなし、東峯彼窟前に座禪すること三日、毒蛇忽脱苦身、生天と云々、今件之窟寺裏にあり、俗に蛇を呼謬而此寺を鬼窟寺と唱、上総介貞久公法徳を 御感有而薩隅日三州に勧化御免為被仰付置事候得共、延享元子年迄勧化取揃有之、同二丑年御引取被仰付候

一 高拾三石七斗壹升六合式勺五才

曹洞宗伊集院妙門寺末寺

一 瑞氣山

伊作 善勝寺

一 開山愚岳妙智和尚、文明年中創立

一 徳瑞輝公大禪定門 伊作河内守久逸主御菩提所、御牌・御影御安置、久逸主於加世田御戦死被成、園田新右衛門と申者奉討候、其時御着御鎧之袖致拝領、子孫治左衛門と申者頂戴仕置候由

一 高三拾壹石壹斗

曹洞宗田布施常珠寺末寺

一 千手山

阿多 大平寺

一 開山吸江善願和尚、天文八年創立

一 忠幸主 日新公之御養父、大任道登号一瓢斎 御牌・御石塔御座候
天文八年己亥七月朔日、御逝去

一 高式拾壹石七斗五升

曹洞宗福昌寺末寺

一 滝水山

帖佐 心岳寺

一 開山代賢和尚、慶長四年己亥開基

一 心岳良空大禪伯 天正廿年壬辰七月十八日、御卒去、
左衛門督歳久入道晴養

右 歳久御切腹之所故、義久公此寺を御建立被遊候、御牌并御切腹之所御石塔有之候、御死骸ハ帖佐總禪寺ニ葬り、御石塔有之候、御廟所ハ福昌寺ニ御建被成候、依 台命御首上京被成、聚楽戻橋ニ梟首候、島津図書入道紹益在京仕候故、十余日過候而 殿下之執權ニ得内意、忍取候而淨福寺内宝林庵ニ葬り御石塔御座候

曹洞宗福昌寺末寺

一 宝陀山

始良 舍利寺

一 開山福昌寺三代仲翁和尚、元久公、正長二己酉年創立
御嫡子、

一 久山妙栄大姉 元久公之御夫人、御牌并御妹之御牌御座候、仲翁和尚右仲翁和尚之御母堂

寺ニ遷化共、又伊集院之内徳重村ニ遷化共而説申伝候

一 高拾三石

曹洞宗能州總持寺末寺

一 曹溪山

高山 瑞光寺

一 高式拾石

曹洞宗福昌寺末寺

一 真金山

高岡 法華嶽寺

一 開山代賢守仲和尚、開基年月不詳候

一 薬師如来ハ百濟国之沙門日羅安置共、又ハ伝教大師作共有之、難一

決候、異他靈仏ニ而御座候

一 高八拾壹石壹斗四升壹合六勺七才

曹洞宗天真派下上野長源寺末寺希明派下

一 永泰山

福山 大安寺

一 開山勝藏和尚、開基年月不相知候

心翁大安人居士 右馬頭忠將、永祿四辛酉七月十二日 御牌所
福山於廻之域戦死

一 高拾九石七斗五升九合式勺九才

曹洞宗福昌寺末寺

一 医王山

鹿兒島 樂王寺

一 高拾五石式斗八合三才

曹洞宗飯野長善寺末寺

一 月照山

飯野 宗江院

一 開山梵芳永紹和尚、開基年月不相知候

一 湖月宗江大禪定門 義弘公御子、万千代様
御牌被成御立候

一 高拾八石

曹洞宗福昌寺末寺

一 太平山

鹿兒島 大徳寺

一 実峰妙恵大姉 忠国公 伊集院大隅守濕久ニ嫁せられ候処、濕久出奔之

後、為尼、永正四丁卯年此寺を創建、開基ニ而御牌御座候

右御石塔之儀川北孫左衛門屋敷内江有之候処、依願弘化五年申四月

大徳寺ニ寺役ニ致御改葬候

曹洞宗伊集院梅岳寺末寺

一 宝蔵山

鹿兒島 笑岳寺

一 高式拾石壹合

曹洞宗川辺宝福寺末寺

一 久木山

破鞋庵

一 開山字堂寛忠和尚、応永九年建立、字堂之事跡宝福寺由緒之場相見

得候故略之

一 高八斗

曹洞宗谷山皇徳寺末寺

一 補陀山

谷山 慈眼寺

一 高拾五石式斗四升六勺式才

曹洞宗福昌寺末寺

慈眼寺

一 高拾五石式斗四升六勺式才

曹洞宗伊集院妙円寺末寺塔司

芳真軒

一 開山妙円寺十五世昌庵祐繁和尚、慶長十五年庚戌十一月創立

一 実窓芳真大姉 家久公御母堂、慶長十二丁未二月朔 御牌御安置御願所所有
日御逝去、宰相様と申候

一 義弘公御影御安置、京都大仏師光嚴作

一 高七拾五石

曹洞宗鹿兒島郡吉田津友寺末寺

国分 徳持庵

一 貫明様御靈骨御奉納并御牌御立有之候

一 御仏餉米式石

曹洞宗出水龍光寺末寺

一 太平山

出水 大通寺

一 義虎位牌所

一 施餼鬼料米式石

曹洞宗大口成就寺末寺

一 小苗代山

大口 永福寺

一 開山并開基之年月不相知候、中興開山法道景伝和尚

一 薬師如来ハ伝教大師之作ニ而往古より一國一仏と称候、依之 道忍
公父永元年甲子二月八日田地御寄進被成、且又源直冬貞和六年正月
七日薬師田地寄進有之候処、天正年中毀破之節被召上候

曹洞宗清水楞嚴寺末寺

一 円通山

国分 国分寺

一 開山行基菩薩之由、其後代春と申僧中興、年月不相知候、今ハ越前

宅良慈眼寺末寺、天真派楞嚴寺末寺ニ而御座候

一 聖武帝之 勅額ニ而日本國裏一國一ヶ寺 御建立之中ニ而御座候

曹洞宗福昌寺末寺

一 洗心山

穆佐 悟性寺

一 開山龍慶和尚、開基年月不詳

一 義天存忠大禪定門久豊公御牌以前より被成御座候、

御石塔も悟性寺境内ニ有之候段申伝之場所所有之候得共、窵而不相知
候処、安永三申午年右場所ニ而骸骨堀出候付、右之所ニ相埋石碑被
相建、御牌をも御調替、屹と御安置有之、御仏餉米として御米三石
ツ、御物方より年々被下候旨、同六年丁酉五月被仰渡候、寺高相込
都合六石ニ而御座候

一 高三石

曹洞宗国分安舟軒隔庵

一 虎岳山

国分 円竜院

一 蓮昌妙守庵主 慶長八年癸卯十一月十二日、御卒去、義
久公御嫡安薩州義虎室御平様と申候

御牌所 龍伯公御建被成候

真言宗厚地花尾権現別当職当時大乗院兼帶

一 花尾山

郡山若座門首 平等王院

一 開山永金阿闍梨建保六年開基

一 花尾山御建立之時、三拾六坊を御建、本寺を平等王院と被号、御本
尊ハ從 頼朝公 忠久公ニ御附屬之御家御相伝谷波五指量愛染明王
弘法大師作御安置候処、勝久公御代致廢壞、本尊之儀ハ鹿兒島護摩
所ニ御安置、毎年六月朔日於 御城開帳御祈禱有之候

一 丹後御局御牌御安置有之候得共、勝久公之御時、寺院及破壊御牌坏も
紛失仕候哉、御局之御法名相知不申候

御石塔・御茶毗所有之候、市来金鐘寺ニ從古代御局之御牌有之、御
法名桃源妙悟大師、嘉禄三年丁亥十二月十二日 御逝去と書記有之
候由、金鐘寺由緒帳ニ相見得候

一 三拾六坊之内円融院一ヶ寺之寺跡為有之由候

一 貴久公御治世ニ罷成 神廟ハ御修覆候得共、寺院御再興不相調候、
弘治二年伊集院宝莊嚴寺を鹿兒島ニ御移被改大乗院、厚地村被成御
寄附、神廟を擁護御させ恒例之御祭于今御座候、前中將綱貴公花尾
山ニ平等王院并臨坊本地院・円融院・多聞院・普賢院此五院御再興
可被遊旨、元禄十七甲申二月被 仰出置候、依之宝永五年之春 吉貴

公平等王院一字御再興被成、大乘院兼帶二而佐多豐前久達より被差上候愛染明王 弘法大師作、毎年六月朔日、一鉢平等王院御安

於平等王院御祈禱有之候

御安

置、同年六月本地院御再興、同六年二月曼荼羅寺 前骨内 御再興、同

年十一月普賢院御再興、享保八年卯四月多聞院御再興、一ヶ寺高式

拾五石宛御寄附被成候

一 高式拾石

右大將頼朝卿

一 御笏 一本

此御笏ハ平産并田地虫除之符と唱、鎌倉法善堂御別当相承院に伝来之處、昔年薩州之仏工鳥井如見より院主良探法印に内々遂所望、守下り致筭藏来候、産符に用る時ハ流川之水を川下りに汲取、水を管物に移し、管中江御笏を浸し其水を産婦に飲しめて、不致平産者無之、又田地之虫を除く二此御笏を守りて其田間を歩行すれハ、悉ク虫除て稲苗繁靈驗如此依著明、文化十二年亥十二月如見五代之孫鳥井長八献上之

右今度 太守宰相齊興公思召之御詔被為在、華尾山に被遊御奉納候条、到後年宜宝護旨御家老衆御添状を以、弘化四年丁未九月被仰渡候

一 勢至菩薩 一 軀

但御厨子伽羅箔内磨仏師康湛作、七条左京康敬極狀相添

右 太守宰相齊興公多年御側御安置別而被遊御信仰、靈驗新成御像ニ候處、今度思召之御詔被為在、花尾山御内陳に被遊御安置候条謹而奉

得其旨、到後年勤行無怠慢可令修行之旨、弘化四年末九月笑左衛門殿より被仰渡候

浄土宗鎮西派京都智恩院末寺

一 養泉山 無量寺

鹿兒島著座門首

不斷光院

一 開山清誉上人、永祿五壬戌年開基

一 忠良公 貴久公 義久公御相談之上、為被遊御建立寺二而候

一 実窓芳真大姉 久保公 家久公御母堂慶長十二年丁未二月朔日、御卒去、義弘公御夫人宰相様と申候、広瀬某女実園田清左衛門女

御牌御建被成候、本堂之阿弥陀ハ 家久公之御意ニ而大姉之為御影御造立被遊候由ニ而仏鉢之内御証書有之由候

一 將軍家宣公之御父 清陽院殿 甲府宰相從三位 左馬頭綱重公延宝

御牌殿吉貴公御建立被遊、正徳二年辰九月十四日御牌御安置、文化

十四丑年 重豪公思召を以御再建被 仰付候

一 護国權現

右ハ重豪公御寿像文政九戌年御安置、御神殿と奉唱候處、御逝去後江戸高輪御屋敷内福寿亭に御神殿被相建 護国權現と被遊御崇候旨被仰渡候付、不斷光院儀も右御同様奉崇候様被仰渡度旨、依願天保四年巳

八月願之通被仰付候旨被仰渡候

一 高式百石

浄土宗鎮西派不斷光院末寺

鹿兒島 称名院

不斷光院塔中宝樹院

知月院

鹿兒島諏訪大宮司

本田加賀守

右出羽守ニ而候處嘉永二酉四月蒙 勅許加賀守と致改名候

一 席順平等王院次被仰付候

一 代々寄合并着座門首格式

右ハ大宮司職蒙 勅許、殊ニ諏訪社之儀三州之惣社被崇置、惣支配之儀ニ付 別段之思召を以天保二卯年家格右之通被仰付候

一 宰相齊興公御画像御束帶一軸

右宗源殿に天保十亥十二月御鎮座ニ而、御金貳百両被召付、右利足を

以御神供等奉備候様被仰渡、杜家之内より而三人昼夜御番相勤候

一 御高三百石

右ハ深 思召之詔被為在、追々家格并官位昇進等被仰付置差建行届候付、別段之 思召を以諏訪社并 宗源殿御像様を御藏入、給地高之内右之通被召附、直取納被仰付候条、御祈禱ハ勿論平日勤行猶又拙丹誠候様

被仰付候旨、嘉永二年酉十二月將曹殿より被仰渡候

一 天保九戌二月京都吉田家より猶子成被仰付候、同年戌十月代々惣大宮司職家被仰付候

權大宮司

佐藤大和守

中馬出雲

前田長門守

右三人文政十亥年京都吉田家より推許有之候、尤諏訪社其外御參詣御神事等三付惣大宮司差支候節ハ、名代相勤候様被仰付候

一 右三人之儀ハ天保二卯年嫡々迄代々御小姓与格被仰付候、尤当所社家之儀も同年郷士社家上席ニ被仰付候

右長門守儀弘化二巳正月被召出一代御小姓与被入置候旨、石見殿より被仰渡候

郡山花尾山大宮司

井上駿河守

右駿河守之祖父駿河守事、天明七年未八月神主職被仰付、家順ハ諏訪大宮司ハ官有無之無差別而家上被仰付、花尾山神主右之通被仰付、座席ハ時々可為官順旨被仰渡候

一 右駿河守親志摩守代大宮司職家 勅許候、尤惣大宮司之儀京都吉田家より推許有之候、御札席等何篇本田出羽守同様被仰付候旨、文政十二丑年於江戸被仰付候、家格代々寄合并着座門首之格式天保三辰年於江戸被仰付候

一 右駿河守順席之儀本田出羽守次被仰付候旨、天保四年子三月於江戸主水殿より被仰渡候

一 御高百石

右別段深 思召之訳被為 在、花尾大權現社江御藏入、給地高之内右之通被召附、直取納被仰付候条、勤行等猶又抽丹誠候様被仰付候旨、嘉永二年酉十二月將曹殿より被仰渡候

花尾山權大宮司

有屋田美作輔

花尾山權大宮司

園田 但馬輔

右式人天保三辰年代々御小姓与格被仰付候

時衆宗相州藤沢山清淨光寺末寺

一 松峯山 無量壽院 鹿兒島着座門首 淨光明寺

一 開山宣阿説誠和尚、文治年中創立

一 忠久公 御元祖御法名得仏道阿弥陀仏、嘉祿三年丁亥六月十八日、御逝去

御尊像從 吉貴公享保八癸卯六月 御安置

一 忠時公 二代御法名道仏仁阿弥陀仏文永九年 千申四月十日、御逝去

一 久經公 三代御法名道忍義阿弥陀仏弘安七年 申申閏四月廿一日、御逝去

一 忠宗公 四代御法名道義仲阿弥陀仏正中二年 乙丑十一月十二日、御逝去

一 貞久公 五代御法名道鑑道阿弥陀仏貞治二年 癸卯七月三日、御逝去

右御五代之御牌寺ニ而御座候

一 貞嶽院殿元光明一房 忠久公御夫人島山次郎重忠第六女、十一月朔日、御逝去

一 得合院殿忍西生一房 忠時公御夫人伊達判官入道念性妹、正月廿三日、御逝去

一 淨溫院殿妙智神一房 久經公御夫人相馬小次郎左衛門尉胤綱第三女、八月廿二日、御逝去

一 理玄院殿忠照見一房 忠宗公御夫人、三池本助入道道智女、四月十日、御逝去

一 梅林院殿法顯聞一房 貞久公御夫人、大友因幡守親時入道道徳女、七月九日、御逝去

右御五代之 御夫人御逝去年月并御法名不相知、御牌無御座候處、享保十一年午十一月淨光明寺寂翁依願御法名致追号 御牌奉安置候、同十二年未八月又々寂翁より御忌日之御回忌分而難仕 神勅之御聞、宗門之法式を以御月日相究申出、弥御聞之通御月日 御

牌二記置、自今御廻向仕候様被 仰渡候

吉貴公 淨國院殿鑑阿天清道照大居士、延享四丁卯十月十日、御逝去、御仏餉高百五拾石被召附置候得共、為引替天

保九戌十二月銀百五拾枚被召附右利銀壹貫目年々御渡方有之候

吉貴公御牌并御廟所淨光明寺被 召建候儀ハ 御家御元祖様御五代御位牌被成御座事候得ハ到後年御寺之為を被為 思召為被 召建事二候

玉泉院殿澄玄心光大童女 吉貴公御女、享保十二丙午五月三日、御天亡

瑞仙院殿松嶺貞高太姉 繼豐公前御夫人、松平長門守吉元女、享保十二丁未三月廿日、御逝去、御仏餉料米三石銀五枚

御銀拾枚三拾七匁三分九厘壹毛

右ハ御仏餉料三石被召附置候得共、此節引替右之通御銀被召附、為利足御銀三拾九匁式分六厘壹毛ツ、年々可被相渡旨、天保十三寅九月被仰渡候

月桂院殿心一献珠太姉 繼豐公御実母名越右膳恒渡妹、延享元年甲子七月三日、御逝去、御仏餉料高式拾五石被召附置候得共、為引替天保十三寅九月御銀式拾五枚被召附、為利銀九枚同三分ツ、御渡方有之候

右御四靈御牌并御廟所淨光明寺

一 慈光院殿仏心惠証太姉御牌所淨光明寺 御廟所江戸大円寺

享和元年辛酉十月晦日御卒去、重豪公御妾太樹家育公御簾中、茂姫様御母堂市田喜内貞行女、御仏餉米三石銀五枚

一 淨光明寺ハ 御五代之御牌所ニ而弘安七年 忠時公十三年之忌景二

当リ 久経公御建立被成候、御廟所ハ本立寺ニ而御座候

一 遊行五十世快存上人、享保十七子十一月御領内巡行之節、淨光明寺二十世寺門 寺格永足下転位日本國中於時衆宗門三四ヶ寺之内之由候

一 高四百四石六斗六升式合四勺九才

時衆宗淨光明寺末寺

一 清水山 五道院 鹿兒島 本立寺

開山不知中興開山寛阿智海和尚

一 得仏様

一 道仏様

一 道忍様

一 道義様

一 道鑑様

右 御五代之御廟所ニ而御座候、御法名御逝去之年月淨光明寺之場ニ有之、此寺初ハ 御道号之上字を取玉道院と号、院号迄ニ而候廻光久公より君子務本、本立而道生と有之故、本立之両字を以寺号を御付被遊、夫より本立寺と唱申候

時衆宗淨光明寺末寺塔司

海藏院

時衆宗淨光明寺末寺塔司

江月院

時衆宗淨光明寺末寺塔司

護信院

時衆宗相州藤沢山末寺

曾喉郡 念仏寺

一 吉水山 称名院

時衆宗相州藤沢山末寺

志布志 海徳寺

一 福寿山 無量院

時衆宗相州藤沢山末寺

国分 常念寺

一 仏光山

伊集院 龍泉寺

時衆宗相州藤沢山末寺

一 竹林山

時衆宗相州藤沢山末寺

一 高七斗

時衆宗相州藤沢山末寺

一 白龜山 安養院

一 応永元甲戌年遊行十二世尊觀法親王開基

- 一 寬庭芳有大姉 貴久公御母堂、永祿六癸亥十一月九 御位牌所として
日、御卒去、島津薩摩守重久女
- 一新公御建立被遊候、伊集院梅岳寺 御牌・御石塔御座候
- 一 高七斗
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 法昌山 福寿院 隈之城 称名寺
- 一 曆応三年庚辰正月遊行七世陀阿上人開基
- 一 宗久公 貞久公之御嫡子、曆応三年庚辰正月
廿四日、御早世、御法名久阿弥陀仏
永和二年丙辰三月廿一日、御逝去、
御法名定山道貞大禪定門
- 一 師久公 右御牌所二而 宗久公之御石塔御茶毗所有之候
師久公御石塔
- 一 重豪公 思召を以御再建被 仰出、文化十一甲戌年十月御成就
- 一 高三石
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 大法山 口称院 大口 専念寺
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 弥勒山 宝泉院 末吉 光福寺
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 現王山 正覚院 本城 大林寺
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 海宝山 清水院 泊 法光寺
- 一 高三斗
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 法水山 梅窓院 伊作 西福寺
- 一 開山覚阿三念、大永六丙戌年開基
- 一 梅窓妙芳大姉 日新公御母堂、大永五年乙酉十月十
日、御卒去、新納駿河守是久女
- 一 御牌・御石塔御座候
- 一 高三拾石三斗

- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 大河内山 西方院 谷山 妙楽寺
- 一時衆宗相州藤沢山末寺
- 一 行法山 一心院 出水 専修寺
- 一 開山其阿上人、永正七年創建
- 一 正親町院勸願所
- 一 高壺石九斗四升七合九勺三才
- 一 山州宇治黄檗山末寺禪宗黄檗派下木庵派
- 一 万徳山 鹿兒島門首 千眼寺
- 一 文化二年丑九月依願大幻江再興被仰付候
- 一 重豪公御寿像文化三年寅四月七日御安置被遊候
- 一 金子三百両
- 一 右 御隠居料之内より 重豪公御寄附
- 一 同五拾両
- 一 右為修甫料右同断 御寄附
- 一 寿国寺末寺二而候処、黄檗山直末文化二年乙丑十一月被仰付候
- 一 千条山を万徳山と山号依願文化二年丑二月被仰付候
- 一 文化六年巳十一月寺家 思召を以御物御修甫所被仰付候
- 一 仏殿 御物御修甫
- 一 右観音堂二而候処、文政十三寅年開修甫二而仏殿御造立被仰付候
- 一 重豪公御位牌巻基
- 一 右御在世中思召を以被召建置候処、御逝去後住持依願天保四巳年御
法名并年月御書入相成候、御点眼御供養寺役二修行被仰付候、尤御
年回之節ハ於福昌寺御物御法事執行被仰付候付、千眼寺二而ハ寺役
一日御法事執行被仰付候
- 一 重豪公御在世中厚 御趣意被為 在再興被仰付、殊御影御安置も有
之候付、旁別段之 思召寺格着座門首被仰付、席順一乘院頭二被仰
付候旨天保八酉年被仰渡候
- 一 寺格着座門首被仰付候付、年頭并入院之御礼等之節進上物且下乗所
之外、都而一乘院同様被仰付候旨天保八酉年被仰渡候

- 高三百石
- 右文化七年正月高百五拾石被召附置候処、及不足又々文政八酉十月百五拾石、合三百石被召附候
- 太守齊興公御寿像
- 右弘化二年巳九月六日御安置
- 太守様御寿像
- 右千眼寺 大信院様御影御相殿江被遊 御安置候付、以來護國殿と相唱候様被仰付候旨、弘化二年十一月被仰渡候
- 御高貳百石
- 右 三位様御寿像等も御安置付而ハ、寺務旁難決ニ付追々寺領高三百石被召附、右を以取統居候処、寺家廻手広御再建殊 太守様御寿像等御安置候付而ハ、猶更年中之御祭料等難決之答候付、此節右之通被相重都合五百石被召附候条、所務之儀ハ是迄被召附置候御高仕向同様取計候様被仰付候旨、弘化二年巳九月被仰渡候
- 宰相齊興公御祈禱御神牌一基
- 御歷代様惣御牌一基
- 右依願天保十一年子八月仏殿中央江御安置申上候
- 千眼寺
- 右ハ此節別段 思召之訳被為 在、以來寿国寺兼帶被仰付、何篇大龍寺より広濟寺兼帶之振合通被仰付候旨、嘉永二酉六月被仰渡候
- 豐国山 千眼寺門中 西田寺
- 右弥勒院末寺二而候処、文化四年卯十一月 思召を以改宗被仰付、千眼寺末寺被仰付候
- 高貳拾六石八斗壹升壹合六才
- 天寿山 右同 延命院
- 右大乘院末寺二而候処、文化四年卯十一月右同断末寺被仰付候
- 右同 了性寺
- 右廢破寺二而候処、文化十三年右同断被仰付候
- 右同 蘭桂院
- 右蘭桂庵二而候処文政十二丑年依願蘭桂院と改号被仰付候

- 右同 東岳院
- 右天保三辰年依願寺地ニ御免被仰付候
- 右同 智福院
- 右妙谷寺末寺随翁院を改号改宗、寺格是迄之通二而千眼寺末寺被仰付候旨、弘化四年末十一月被仰渡候
- 真言宗広沢方京都仁和寺末寺
- 如意珠山 龍巖寺 坊津着座門首 乘院
- 右寺ハ百濟国之沙門日羅之創建、年月不相知候
- 中興成門上人
- 後奈良帝勅願所ニ而 宸翰之 勅額を下賜、西海金剛峯寺と被号候
- 御室御所院家摩尼珠院兼帶
- 清和天皇勅書 一乘院六代頼政法印独座堂上、忽然と而一僧手小束子來而謂曰、斯是置一乘院書也、政曰公誰、默而不知所去、繼之則以大法師空海贈法印大和尚勅書
- 近衛信輔公自ラ般若心經并唯識三十頌を書而御寄附、且復 天満天神之像一軀を自刻而鎮護之神に御崇候
- 一 高貳百七拾石貳斗六升三合六勺八才
- 真言宗坊津一乘院末寺
- 開闢山 普門寺 額娃 瑞応院
- 一 開山智通僧正、白雉三壬子年開基
- 一 開闢宮別当職
- 一 高貳百六石
- 真言宗坊津一乘院末寺
- 金峯山 觀音寺 田布施 金藏院
- 一 開山日經、推古天皇之御宇創建
- 一 金峯山別当職
- 一 本尊日羅之作、弥勒菩薩之石像二而候
- 一 高百貳拾石
- 真言宗坊津一乘院末寺
- 千台山 真乘院 鹿兒島 大興寺
- 一 開山頼政僧都、永正五年辰六月創建

一 將軍 義教公御舍弟嵯峨大覺寺御門跡 義昭大僧正御隱謀致露頭候付、日州福島^五落下、忍御座候段、將軍家江相聞得、忠国公^五御下知有之、福島於永徳寺、僧正御切腹^二而候、其後 忠治公為御菩提所、右寺御建立^二而僧正之御牌御立被成候、僧正之坊官別垂讀岐坊有替殉死仕、彼牌も有之候

一 大覺寺殿御仏餉料、琉米拾五石

一 右同為御法事料、三月十三日、七月十三日米四石兩度相渡候

一 高三拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 摩尼山 五大院 高山 高崇寺

一 高拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 竜溪山 神照寺 鹿兒島 智恵光院

一 高七拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 水精山 華藏院 阿多 上宮寺

一 高式石五斗

真言宗坊津一乘院末寺

一 明星山 淨蓮院 加世田 杉本寺

一 開山法印広範、開基年月不詳

一 忠国公 文明二庚寅正月廿日、御逝去 御廟所六角堂、御牌所福島寺内深固院 御法名大岳玄誓

一 鹿兒島 松樹院

右ハ本尊毘沙天之儀 龍伯様被遊 御信仰、段々御用緒も有之、先般依願奉秋兩度御祈禱相勤、御守札等差上候様被仰付、御願文^五ハ導師名前書載儀二候処、御目見寺^二而無之候而ハ差支候間、以來御目見寺被仰付度旨一乘院上り願申出趣有之、願之通 御目見寺被仰付御茶五袋進上被仰付候、左候而住替之節ハ寺社奉行所証文を以住職被仰付候旨、嘉永三年戊十二月被仰渡候

天治宗武州東叡山寛永寺門頼院末寺法曼派国分正八幡宮別当

一 鷲峯山 靈鷲山寺 国分宮内 彌勒院 着座門首

一 開山性空上人、開基年月不相知、中古廢壞

一 吉貴公依 御志願、享保六丑二月御再興之儀、於武州江府被仰出伊集院來迎院憲英^五住職被仰付、東叡山院室格^二而大僧都 勅許之儀御願且猶父之儀石井宰相行康卿^五御頼被成候事

一 住持憲英、享保六年丑二月廿四日東叡山御本坊^五院室并住職之御礼申上、院室大僧都之令旨頂戴、東叡山六世一品公寛親王

一 同年十二月彌勒院寺格着座門首大竜寺之上被仰付候

一 陽和院殿本嶽自勝大姉 宝永八辛卯八月十二日、御逝去、光久公御夫 御位 人、平松中納言時庸郷御女

牌弥勒院より御安置仕、御廻向可申上旨享保九辰十二月被仰付候、御牌御廟所福島寺^二而御座候

一 高三百壹石九斗五升三合壹勺貳才

天台宗国分弥勒院末寺

一 慈雲山 安寧寺 鹿兒島 竜洞院

一 高百六拾壹石六斗六升四勺三才

天台宗国分弥勒院末寺

一 竹林山 衆聚院 清水 台明寺

一 高拾三石八斗二升三合三勺三才

天台宗国分弥勒院末寺

一 高牧山 願成院 小根占 安樂寺

天台宗国分弥勒院末寺

一 菩提山 西雲寺 国分宮内 正善院

天台宗国分弥勒院寺

一 補陀落山 正護寺 右同 密常院

天台宗国分弥勒院末寺

一 芳野山 法輪院 鹿兒島 憲英寺

一 高三拾石貳斗七升八勺三才

臨濟宗五山派京都東福寺末寺

一 瑞雲山 鹿兒島看座門首 大龍寺

一 開山文之和尚 慶長七年創建

一 右寺ハ当御城被為移候時、大中公・龍伯公被成御座候地故、寺地被

召成、而公之 御名之上之字を御取、被号大龍寺、国分宮内正興寺

文之和尚住職被 仰付候

而公之御牌被成御座候

一 日本国中一派十刹之寺ニ而 將軍家公文頂戴

一 御切米三拾石

一 禪宗黄檗派下南源派山州宇治黄檗山万福寺末寺

一 元持山 鹿兒島看座門首 寿国寺

一 開山宇治黄檗山万福寺天光普照国師隱元和尚を勧請、享保十四酉五

月開基

一 二代南源・三代鉄梅 玄黙本師 為中興 四代千指 玄黙受 右隠元より千指迄勧請住

持

一 五代之住持玄黙、江州彦根生縁、同所国昌寺千指之学業弟子、大坂

福島妙徳寺鉄梅之伝法弟子

一 山号寺号之儀住持玄黙より元持山寿国寺と願申出、願之通被成御免

候、享保十四酉八月

一 本寺山城宇治黄檗山万福寺直末寺成、享保十四酉五月黄檗山十二世

唐僧果堂和尚代

一 本尊釈迦座像一鉢從 繼豊公御寄進、享保十六亥三月

一 大玄院様御牌住持より 御安置仕候様被 仰渡候、享保十四酉十月

一 信証院殿寿国綱宗元持大禪尼 綱貴公後御夫人、宝曆六丙子正月晦 御肖像

御僧形御位牌光嚴堂 御安置、御廟所寿国寺

銀拾五貫目

一 右ハ 信証院様御祠堂銀として御存生之内より寺社方 被相渡置、

脇方借付相成、右利銀年々寿国寺 相渡来申候

一 信解院殿方広浄玄大禪尼 綱貴公御女、予州松山城主松平飛騨守定英夫

人、後御離別、明和八年卯六月八日、御逝去

御肖像御位牌双輝堂 御安置、御廟所寿国寺、御仏餉料銀五枚、米

三石ツ、年々御物方より相渡候

一 顯徳院殿順香和光慈観大居士 信解院様御子、予州松山城主松平隠岐守定

喬、宝曆十三癸未三月十九日、御死去

一 御牌 信解院様 御存生之内双輝堂 御安置

一 御祠堂銀百貫文

一 右 信解院様より 御寄附

銀壹貫五百目

一 右 顯徳院様為御法事料 信解院様より明和七寅正月寺社方 被差

出置、右之利足を以御法事執行被 仰付候

一 蓮亭院殿香顔玉容大姉 齊宣公後御夫人、丹羽加賀守長貴女 御廟所江戸瑞

聖寺 御牌所寿国寺

一 真米 三石

一 銀三百式拾式匁五分

一 但古銀五枚分

一 右式行 蓮亭院様御仏餉料として文化十三年被召附、年々物奉行並

より相渡候

一 右寺ハ御領国 綱貴公黄檗宗門御取建之 御志を被為繼、信証院

様より 吉貴公 被 仰進訳有之、雖為 御隠居、為 御名代真言

宗大乘院末寺西田了性寺末院庵寺地蔵院を被成御再興、寺格之儀ハ

着座無之門首出水幸善寺同格之門首被仰付、寺高四百八拾石被召付

候、享保十四酉年より元文元辰秋之間、寺家并光嚴堂天王堂惣門迄

成就、文化十二年亥八月 重豪公 恩召を以着座門首被仰付候

一 高四百八拾石

一 大磯山

一 元禄十二卯十二月造立

一 開山愚門

一 寺領高式拾石

一 右開山高式拾石買地御免被仰付、右之通買入表方御代官所江付高被

仰付置候

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

一 秘山 密教院 志布志門首 宝満寺

一 開山英基和尚、正和五年開基

一 花園帝之 勅願所

一 如意輪觀音ハ運慶作、元應二年南都西大寺より為奉降臨、殊勝之靈仏、且又弘舎利ハ曆応三年左兵衛督源朝臣直義奉 院宣於扶桑一國一基之塔婆を建安置之、其一ニ而御座候

一 御讓位付 院參可仕旨申来、寛延元戊辰七月宝満寺二十世住持円秀上京仕、奉拝 龍額候、且又寛延三年午四月 仙洞様 御院号

一 節、御焼香之儀申来、翌四年未六月円秀上京仕、於泉涌寺献経御焼香仕候、禁裏^五 御目見仕候儀無御座候

一 高四拾五石三斗六升八合三勺三才

一 仙洞様御院号校町院と 奉申上候

一 金子三百両

一 右古来 勅願所ニ而段々由緒之訳も有之、格別成寺柄ニ候処別而少高二而、近來難洪之段相聞得奉 御内膳趣有之候処、右之通御内々被召附本金之儀ハ寺社方致格護置、相当之利銀を以諸人^五貸付、年々利銀宝満寺^五相渡、往々屹と取続方相居候様可致取扱旨 御内沙汰被為 在候条、此旨申渡置後年致永続候様可取計旨、嘉永二年酉十月被仰渡候

一 天台宗武州東叡山寛永寺円頓院末寺穴太派

一 霧島山 花林寺 高原門首 神徳院

一 右日州天台宗一寺

一 性空上人開基以來十八世迄天台之別院として無本寺ニ而候処、寛文五乙巳年 將軍家綱公台嶺之御門首ニ被仰達、諸山之台徒本末を定諸寺之法派奥旨を御極候、仍同年八月東叡山御門跡輪王寺宮一品親王尊敬之直末ニ被属候

一 高百六拾四石八斗六升七合七勺一才

一 神徳院院号古来錫杖院と相唱候時節も有之、山門法流正覺院僧正よ

り参候書簡留有之候、年号ハ不相知候、当山之棟札之写ニも相見得候、右住職交替之節ハ達 貴聞於敷舞台被仰渡候

一 天台宗近江北叡山延暦寺止観院末寺穴太派

一 龜翁山 西性院 野田門首 山内寺

一 右薩州天台宗一寺

一 兩寺寛文五年神徳院より山内寺を末寺と書出候付而其以後山内寺より由緒古跡之訳を以、段々申出趣有之、達 貴聞候処、山内寺ハ有由緒古跡候間、神徳院末寺とハ難申儀候条、御領内ニ而神徳院ハ日、州之一寺、山内寺ハ薩州之一山、被仰付、兩寺別立候様有之度旨、上野明王院^五被仰聞、兩執当党王院仏頂院^五右之趣相達候処、思召之通兩國之一寺御極可被成旨兩執当より被申候由明王院より被申遣候故、兩國天台宗之一寺ニ元禄四年被仰付候

一 開山性空上人、康保年間創立

一 御元祖忠久公御入国之時、此寺を御祈願所ニ被成候、住職世々叡山之免狀を賜而僧官昇進有之候

一 野田若宮別當 御神像并社頭建造立付、山内寺を別當寺ニ被仰付候、文政八酉八月

一 高式石

一 真言宗

一 霧島山 錫杖院 曾於郡門首 華林寺

一 高五百四拾四石九斗七合式勺九才

一 開山慶胤上人欽明帝之御宇慶胤上人此山を開て神殿を建立、其後神火発山悉焼失、歷多年、性空上人登當嶺再興す、然其性空上人を為開山、其後文明十六年迄退転之間、凡式百六拾年

一 中興開山兼慶法印、文明十六年甲辰年真言密宗之徒兼慶 忠昌公之命を受而此山ニ登、社跡を求而神殿を再興と旧記に相見得申候

一 門首

一 右古来よりの御寺ニ而 御先代様御立願等も段々有之別段之以思召、右之通被仰付席順安養院頭被仰付旨、天保十四年卯閏九月廿六日被仰渡候

真言宗

一 護国山 大樂寺

龜尾島門首 安養院

一 右寺初号東福寺 開山并開基年月不詳候

一 陸奥守氏久公信州諏訪大明神を鹿府ニ 御勧請ニ而崇社と被成候、

此時此寺を御修造ニ而饒阿和尚を為中興開山、別当職ニ被補、大樂

寺安養院と被号候ハ貞和年間ニ而御座候

一 正一位諏訪別当職

一 高百九拾九石九斗九升七合四勺九才

一 右院大乘院末寺ニ而候処、古来より之御寺ニ而諏訪社別当職をも相

勤候訳を以、文政八年酉十一月門首寺順山内寺次ニ被仰付候

真言宗安養院末寺

一 鳳凰山 遍照院

市来 大日寺

一 高三拾九石壹升四勺壹才

一 右寺大乘院末寺ニ而候処、安養院門首被仰付候付、文政九年戊正月

安養院末寺被仰付候

臨濟宗五山派京都建仁寺末寺

一 靈鷲山

園分宮内門首 正興寺

一 開山門底禪師、永仁年中創建十刹之寺ニ而 將軍家代々公文御座候

一 正八幡宮御本地三ヶ所之内本地釈迦如来

臨濟宗園分宮内正興寺末寺

一 雲長山

大村 大応寺

一 高六石

臨濟宗関山派京都妙心寺末寺

一 龍興山

志布志門首 大慈寺

一 開山勅諭仏智大通禪師

一 右寺ハ 光明院依 勅願、曆応三年御建立、宏恵之二字を賜、大慈

広恵禪師と号候旨申伝候

一 高五百八拾壹石七斗五升五合壹才

臨濟宗関山派志布志大慈寺内

即心院

一 開山剛中和尚創立年間不詳候

一 氏久公 齡岳玄久大禪定門、嘉慶元年丁卯閏五月四日、御逝去 御牌所

一 敬外欽公大姉 氏久公御夫人御逝去年月不相知候

御石塔有之候、御仏餉米八石

一 大始良龍翔寺ニモ 氏久公御夫婦并御姫溪月宗江大姉御石塔有之候

、氏久公御靈骨奉納置候、溪月宗江大姉尼ニ御成候而龍翔寺御住職

為被成由候、京都東福寺内即宗院ニモ 氏久公御牌 御安置、右即

宗院ハ御当家より御建立共、又は即心院開山剛中自分之遺宮共、不

詳候、剛中ハ 氏久公御婦依僧之由候

一 高拾五石

臨濟宗志布志大慈寺末寺

一 高壹石

大始良 龍翔寺

一 御仏餉米三石

一 文政七年申閏八月 齡岳様・其外様御取建被仰付候処、別而貧寺ニ

而掃除方等も不行届趣ニ而被召付置候寺高并御仏餉米、外ニ御切米

三石六斗被召付置候旨、被仰渡候

一 金子五百両

右齡岳様其外様御納之地ニ而 御位牌も被為在、今般手広御造立被

仰付候処、少高而難決之趣内意申出趣有之、達 貴聞候処、右之通

被召付候条、本金之儀ハ寺社方致格護置、相当之利銀を以諸人ニ

貸付年々之利銀龍翔寺ニ相渡、往々屹と取続方相居候様可致取扱旨

御沙汰被為 在候条此旨可申渡旨、嘉永四年亥十二月被仰渡候

臨濟宗志布志大慈寺末寺

一 高拾貳石

高山 昌林寺

臨濟宗五山派京都端雲山太平興國南禪寺末寺
当分大竜寺兼帶

一 奉定山 伊集院門首 広濟寺

一 壁山蒙山智周和尚、日本申刹之一二而候、開基之年月不詳候、二代
南仲和尚開基二而蒙山ハ勸請開山之由候

一 高式百三拾三石壹斗壹升七合七勺壹才

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 東光山 坊泊 海卯寺

一 開山光叟和尚、延文二丁酉年創建

一 忠国公 大岳 御牌御立被成候

一 高拾石八升三合三勺三才

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 瑞雲山 伊集院 善禪寺

一 高式石

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 仏母山 伊作 多宝寺

一 開山荏堂和尚、開基年月不相知候

一 越山道超大禪定門 明應二年庚七月十八日、御卒去、日
新公御美父、伊作又四郎善久主 御牌并御石塔其外

伊作家代々之 御牌被成御座候

一 椿窓妙英大師 天正十一年癸未閏正月十八日、御卒
去、日新公御女 御牌被成御座候、如治

木椿窓寺も御牌所二而御座候

一 高式拾八石八斗四升五合八勺四才

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 海雲山 山川 正龍寺

一 開山虎森和尚、為入唐薩州下着、此時 陸奥守元久公此寺を御創建
二而虎森住職有之候、開基年月不相知候

一 高三拾七石六斗六升九勺六才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 瑞香山 阿久根 蓮華寺

一 開山高標和尚、応永五年草創

一 中興開山南溪和尚 將軍義輝公之公帖を賜、從是相統而 將軍家之
公文を賜、雖然致断絶候、準住例其以後 御当家之公文を賜而住職
相勤候

一 高式石式斗七升八勺四才

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 清月山 坊津 広大寺

一 高四石

一 臨濟宗五山派伊作多宝寺末寺

一 青峯山 伊作 天徳寺

一 開山美松玄昌和尚、建保元年八月造建

一 伊作氏忠親主下野守及伊作家代々御菩提所二而候、御石塔有之候、
代々之御牌雖有之、度々火災二而今ハ無御座候

一 臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 太平山 中郷 安國寺

一 開山淨妙通叟和尚、曆応二年創建

一 右寺ハ 將軍尊氏公御願二而一國一ヶ寺御建立之中薩州之内一寺二
而御座候

一 高壹石

一 臨濟宗京都妙心寺末寺

一 太平山 加治木 安國寺

一 開山嵩山大本禪師、康永年中創建

一 右寺ハ 將軍尊氏公御願二而一國一ヶ寺御建立之内隅州之一寺二而
御座候

一 臨濟宗五山派京都東福寺末寺

一 鎮国山 野田門首 感応寺

一 建久年中本田石見寺親常草創

- 一 開山千光國師
忠久公 忠時公 久經公 忠宗公 貞久公御五代之御石塔御座候
得仏大禪定門 嘉祿三年丁亥六月十八日
- 一 道仏大禪定門 文永九年壬申四月十日
- 一 道忍大禪定門 弘安七年甲申閏四月廿一日
- 一 道義大禪定門 正中二年乙丑十一月十一日
- 一 道鑑大禪定門 貞治二年癸卯七月三日
- 一 右文化十年酉十月 重豪公 思召を以御位牌殿御造次 御五代様御
位牌御安置被仰出、御成就有之、翌戌十月廿八日右之通御安置
- 一 忠宗公 貞久公
右御牌被成御座候処、右之通被相改、御安置有之候
- 一 御元祖忠久公初而御入国之時野田之内ニ 御着船被遊候而曹野田之
木牟礼之城ニ被成御座、鹿兒島^五 御在城被遊候而も掛而木牟礼
御在城之由候、夫故 御石塔御座候哉、感応寺ハ御下向前本田氏罷
下、建立為仕寺ニ而大伽藍之由申伝候
- 一 高式石
法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺
一本長山 鹿兒島門首 正建寺
- 一 開山蓮信院日尚、慶長年中開基
- 一 華鮮院殿妙尊大師 續久公御母堂曹源院様御母堂
- 一 両足院殿妙覺大師 妙尊大師母堂
- 一 右両牌明曆三酉年十一月從 曹源院様御安置御寄附高有之候処、当
時ハ右高御代官支配ニ而納米御代官より申請事御座候
- 一 高式拾九石式斗壹合七勺五才
- 一 一乘山 鹿兒島 妙頭寺
- 一 一高百石 今和泉 日潤寺
- 一 真言宗京都智積院末寺出水加志久利別當
- 一 加志久利山 惣持院 出水門首 幸善寺

- 一 開山京都智積院僧正快存、為中興二代鹿兒島安養院有敝、享保六丑
年御再興
- 一 幸善寺ハ栗野^五 有之候懸寺ニ而元來鹿兒島大乘院末寺ニ而候処、享
保六丑年從 吉貴公御再興ニ而智積院宜末寺ニ被成候
- 一 高式百五拾八石五斗八升六合七勺壹才
内六拾石ハ加志久利神領
- 一 真言宗幸善寺末寺
- 一 宝池山 無量壽院 出水 成願寺
- 一 高三拾壹石八斗七升三合九勺六才
- 一 法華宗富士門派房州妙本寺末寺
- 一 松尾山 高岡門首 本永寺
- 一 開山日蓮上人弟子日周上人
右寺ハ日蓮上人文応元庚申年身延山ニ寺家建立之時、法華富士門徒
之本寺脇之惣門ハ学頭職政所と被定置候、其後富士山ニ本寺を被立
置時、学頭も右同前被立置候、其時之住持大少輔阿闍梨日堅、其後
上総国長狹石学頭を被引直候時、中興開山日朝上人ニ而候、其比西
国方之末寺本寺遠国故、諸事不自由ニ付、為押仕置、本寺代として
右日朝上人被差下候付、学頭之靈仏本尊諸遺物等被笈下、建武年中
佐土原因師山に学頭建立ニ而長享二年都於郡城下池之尾ニ被立置、
夫より又天文二年之此、日泉上人代ニ内山ニ被引直候、於此所寺家
炎上ニ而諸文書学頭之遺物等悉焼失候、其後高岡之内浦之名^五相立
候、身延山学頭建初之時被定置候役故、東西諸国法華富士門徒之諸
寺本永寺より支配掟仕例法ニ而只今迄勤米候
- 一 御切米拾石寺続料として年々相渡候
- 一 日蓮上人木像
- 一 右天保十亥年 齊興公より被遊御安置候
- 一 法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺
- 一 鷲峯山 勸持院 国分門首 遠壽寺
- 一 開山極大僧都日実法印、永祿三庚申年開基

一 龍伯様御牌
一 持明様御牌

一 円信院殿夷溪妙蓮大師 元龜三年壬申十二月廿三日、御逝去、御牌・御種子島左近將監時堯女、義久公御夫人

石塔、御仏鉢米八石

一 浄土宗京都智恩院末寺

如意珠山

帖佐門首 願成寺

一 開山運譽上人

一 文祿四未十月 惟新公栗野より帖佐 御移之節、只今之寺地ニ朝鮮御出陣為御祈禱、阿弥陀堂御建立可被遊旨被 仰出置、朝鮮より御婦朝ニ而御建立

一 惟新公御牌本堂^五 被遊御座候

一 芳真様御牌客殿^五 御安置

一 千駄阿弥陀仏之内式鉢 惟新様御自作、五拾六鉢ハ島津兵庫入道女并宰相と御書付有之、殘ハ朝鮮御供之衆其外志有之寄進ニ而裏ニ銘々施主之仮名書付有之

一 高三拾石

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

一 梅靈山 無量寿院

園分宮内門首 正国寺

一 開山円秀和尚、元徳年中創建

一 正八幡宮御本地所三ヶ所之内本阿弥陀如来

本山派山伏

一 補陀洛山 仏母寺

鹿兒島門首 普門院

右別段厚恩召之御訳被為在代々山伏家筋被仰付、以来院号昇進等之節ハ右之通代々名乗候様被仰付候旨、弘化二巳五月被仰渡候

御切米式拾俵

右今度厚恩召を以飯隈山後見職且亦代々山伏家筋被仰付候付、別段之御取訳を以右之通永々被成下旨被仰渡候

一 屋敷一ヶ所

右永々被成下候旨被仰渡候

一 弘化二年普門院徳母^五先達職伊予坊旧号被預之先達列被 仰出御令旨被下候

一 本山より伊予坊旧号被預之先達職被仰付候付、以来三ヶ年ニ老度入峯被仰付候旨、弘化三年午正月被仰渡候

門首

右從本山正大先達職伊予坊永世御預被仰付、御会釈向格別相替大僧都勅官迄も被仰付候付而ハ、於御当地も今形難召置、別段之思召を以右通寺格昇進被仰付、席順正国寺次被仰付候旨、嘉永三年戊四月將曹殿より被仰渡候

本山派山伏小林瀬戸尾権現別当

一 新熊山 三藏院

吉松門首 内小野寺

一 門首

右古来由緒有之一山をも被下置 御先代様方御立願等之御祈念相勤、殊ニ近年御手許御用重御祈禱被仰付置候処、抽丹誠出精相勤候付旁別段之思召を以右之通寺格昇進被仰付、席順普門院次被仰付候旨嘉永三年戊四月被仰渡候

浄土宗京都智恩院末寺

一 松月山 靈鷲山

加治木 本誓寺

一 開山運譽上人、慶長二年開基

一 右運譽事筑後國善道寺住職ニ而罷在、天正十二年龍造寺隆信没落之後、彼國之僧俗諸方^五致退散候、其時分新納旅庵事、出家ニ而肥後國八代庄嚴寺住持ニ而御座候、右運譽旅庵^五心易候付、庄嚴寺^五參、旅庵許状を取、薩州^五龍下、泊法光寺^五罷居、翌十三年如肥州、罷歸候処、肥後國最早屬 御家候而運譽事、甲斐宗運館ニ而始而 惟新様^五 御目見仕候、然処肥後之内合志之郡、住吉光明寺を被下候、此寺智恩院末寺之由御座候、天正十五年関白秀吉公肥後限元^五 御動座之内、運譽重而薩州^五下向仕、不断光院^五罷居、翌十六年飯野江參上仕、新納旅庵御取次を以、寺地之願申上候処、御免被仰付、帖佐願成寺開基仕、慶長元年不断光院^五入院、其翌年加治木本誓寺開基仕、右外ニも寺地之願段々申上候由

一 義弘公 御牌并御影像御建被遊御座候

右之由緒を以元文二年巳九月 御目見寺ニ被仰付候

一 重豪公御像

右御在世中天保二卯年住持法譽於江戸奉願御安置申上候

一 高拾四石五升

鹿兒島福ヶ迫諏訪神主

一 井上出雲守

一 右出雲守亡曾祖父左膳事、天明七年未八月神主職被仰付、家順ハ諏訪大宮司ハ官有無之無差別両家上ニ被仰付、福ヶ迫諏訪神主・花尾山神主家順右之通被仰付、座順ハ時々之可為官順旨被仰渡候
一 右出雲守事致欠落候付、本田加賀守神前向御祈禱共外万端兼帶同様相心得候様被仰付候旨、嘉永二年酉十二月被仰渡候

福ヶ迫諏訪神主

一 往兼職

村山肥後

水引新田八幡宮執印職

執印 吉左衛門

御代々御忌日

御元祖

一 忠久公

嘉祿三年丁亥六月十八日

御逝去

二代

一 忠時公

文永九年壬申四月十日

御逝去

三代

一 久經公

弘安七年甲申閏四月廿一日

御逝去

四代

一 忠宗公

正中二年乙丑十一月十二日

御逝去

五代

一 貞久公

貞治二年癸卯七月三日

御逝去

貞久公御嫡子

一 宗久公

曆応三年庚辰正月廿四日

御早世

六代

一 師久公

永和二年丙辰三月廿一日

御逝去

六代

一 氏久公

嘉慶元年丁卯閏五月四日

御逝去

七代

一 元久公

応永十八年辛卯八月六日

御逝去

八代

一 久豊公

応永三十二年乙巳正月廿一日

御逝去

九代

一 忠国公

文明二年庚寅正月廿日

御逝去

十代

一 立久公

文明六年庚寅四月朔日

御逝去

十一代

一 忠昌公

永正五年戊辰二月十五日

御逝去

十二代

一 忠治公

永正十二年乙亥八月廿五日

御逝去

十三代

一 忠隆公

永正十六年巳卯四月四日

御逝去

十四代

一 勝久公

天正元年癸酉十月十五日

御逝去

十五代 一 貴久公 元龜二年辛未六月廿三日 御逝去	十六代 一 義久公 慶長十六年辛亥正月廿一日 御逝去	十七代 一 義弘公 元和五年乙未七月廿一日 御逝去	義弘公御嫡子 一 久保公 文祿二年癸巳九月八日 御早世	十八代 一 家久公 寬永十五年戊寅二月廿三日 御逝去	十九代 一 光久公 元祿七年甲戌十一月廿九日 御逝去	光久公御嫡子 一 綱久公 寬文十三年癸丑二月十九日 御逝去	二十代 一 綱貴公 宝永元年甲申九月十九日 御逝去	二十一代 一 吉貴公 延享四年丁卯十月十日 御逝去	二十二代 一 繼豊公 宝曆十年庚辰九月廿日 御逝去	二十三代 一 宗信公 寬延二年己巳七月十日 御逝去	二十四代 一 重年公 宝曆五年乙亥六月十六日 御逝去
------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	--	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

二十五代 一 重豪公 天保四年癸巳正月廿日 御逝去	二十六代 一 齊宣公 天保十二年辛丑十月十日 御逝去	御代、御夫人御忌日 忠久公御母堂比企判官能員妹 一 丹後御局 嘉祿三年丁亥十二月十二日 御逝去	忠久公御夫人畠山次郎重忠第六女 一 貞嶽院殿元光明一房 御忌日 安貞二年戊子十一月朔日	忠時公御夫人伊達判官入道念性妹 一 得台院殿忍西生一房 御忌日 正月廿三日	久經公御夫人相馬小次郎左衛門尉胤綱第三女 一 淨溫院殿妙智神一房 御忌日 八月廿二日	忠宗公御夫人三池奎助入道道智女 一 理玄院殿惠照見一房 御忌日 四月十日	貞久公御夫人大友因幡守親時入道道德女 一 梅林院殿法麗聞一房 御忌日 七月九日
------------------------------------	-------------------------------------	---	---	---	--	--	---

師久公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

氏久公御夫人伊集院長門守忠国女

一 敬外欽公大姉

右 御逝去年間不相知

元久公御夫人伊集院氏娘之由候

一 久山妙榮大姉

応永九年壬午十二月十一日

久豊公御夫人伊東大和守祐安女

一 寿山妙久大姉

久豊公後御夫人御父姓名不相知

一 無染了心大姉

忠国公御夫人新納近江忠臣女

一 心華開安大姉

立久公前御夫人御父姓名不相知

一 鏡堂妙円大姉

右 御四靈様 御逝去年間不相知

立久公後御夫人梶原三郎太郎弘純女

一 茂山妙才大姉

文明十七年乙巳十一月十七日

忠昌公御夫人大友豊前守政親女

一 天真妙幸大姉

右 御逝去年間不相知

忠治公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

忠隆公

一 御夫人不相知

勝久公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

貴久公御夫人入来院禪正重聰女

一 雪窓妙安大姉

天文十三年甲辰八月十五日

義久公御夫人 日新公御女

一 華舜妙香大姉

永祿二年己未十一月十八日

義久公後御夫人種子島左近將監時薨女

一 円信院殿実溪妙蓮大姉

元龜三年壬申十二月廿四日

家久公御母堂広瀬某女実岡田清左衛門女

一 実窓芳真大姉

慶長十二年丁未二月朔日

家久公御夫人 光久公御養母 義久公御母

一 持明彭窓庵主

寛永七年庚午十月五日

家久公後御夫人 光久公御母堂島津備前忠清女

一 心応慶安大姉

寛永二年乙丑七月廿二日

光久公前御夫人 綱久公御母堂伊勢大隅守貞豊女

一 曹源院殿惠山永泉大姉

万治元年戊戌六月十一日

光久公後御夫人平松中納言時庸女

一 陽和院殿本嶽自勝大姉

宝永八年辛卯八月十二日

綱久公御夫人松平隠岐守定頼女

一 真修院殿孝延妙栄日長大姉

天和二年壬戌十一月七日

御逝去

綱貴公前御夫人松平左兵衛督信平女
 一 常照院殿觀了日脫大姉 寛文十三年癸丑正月五日 御逝去
 吉貴公御母堂二階堂十左衛門宣行女
 一 蘭室院殿身安貞法大姉 天和三年癸亥二月十九日 御逝去
 綱貴公後御夫人江田五兵衛国重女
 一 信証院殿寿国總宗元持大禪尼 宝曆六年丙子正月晦日 御逝去
 吉貴公御夫人 繼豐公御養母松平越中守定重女
 一 靈菴院殿潜顯妙能日淵大姉 元文四年己未八月五日 御逝去
 繼豐公御養母名越右膳恒渡妹
 一 月桂院殿心一献珠大姉 延享元年甲子七月三日 御逝去
 繼豐公前御夫人松平長門守吉元女
 一 瑞仙院殿松嶽貞高太姉 享保十二年丁未三月廿日 御逝去
 繼豐公後御夫人 大樹綱吉公御養女実清閑寺大納言濕定卿女
 一 淨岸院殿信譽清仁祐光大禪定尼 安永元年壬辰十二月五日 御逝去
 宗信公御養母波谷喜三左衛門貴臣女
 一 妙心院殿実法道徹大禪定尼 天明四年甲辰正月廿三日 御逝去
 重年公御養母島津求馬久房女
 一 嶺松院殿寒心貞操大姉 天明八年戊申十一月十九日 御逝去
 重年公御夫人島津大学久尚女
 一 智光院殿心顔貞鏡大姉 宝曆四年甲戌閏二月二日 御逝去

重豪公御養母島津備中貴儔女
 一 正覚院殿貞範妙雅大姉 延享二年乙丑十一月七日 御逝去
 重豪公前御夫人徳川刑部卿宗尹卿女
 一 慈照院殿円応露珠大姉 明和六年己丑九月廿六日 御逝去
 重豪公後御夫人甘露寺大納言規長卿女
 一 玉貌院殿華山妙巖大姉 安永四年乙未十月廿六日 御逝去
 齊宣公前御夫人佐竹右京大夫義和女
 一 芳蓮院殿華蕙清心大姉 寛政八年丙辰六月八日 御逝去
 齊宣公御養母堤中納言代長卿女
 一 春光院殿心月清涼大姉 文化八年辛未六月十三日 御逝去
 齊宣公後御夫人丹羽加賀守長貴女
 一 蓮亭院殿香顔玉容大姉 文化十二年乙亥六月廿三日 御逝去
 齊興公御夫人松平相摸守齊邦妹
 一 賢章院殿玉輪恵光大姉 文政七年甲申八月十六日 御逝去
 齊興公御養母
 一 宝鏡院殿円爾妙鑑大姉 弘化三年丙午閏五月十八日 御逝去

要
用
集
二

「七」御目見寺社並山伏之事

附寺高之事

天台宗	著座門首鹿兒島	南泉院
一 大雄山 仏日寺		
高五百五十九斗六升四合五勺八才		
一 高百石	南泉院寺中	觀樹院
一 高百石	右 同	吉祥院
一 高百石	南泉院寺中	寒相院
一 愛宕山 十輪院	小林	円岳寺
一 紫尾山 神興寺	龜田	祁答院
一 高式拾八石壹斗六升六合六勺六才	伊集院	來迎院
一 清泰山 普慶寺		
一 高式拾九石九斗九升六合六勺七才	重 富	円明院
一 岩剣山 神宮寺	都 城	明觀寺
一 霧島山 金剛院		
一 高三拾八石四斗五合	華 岡	真如院
一 円覚山 法界寺		
一 高三拾石		
一 右九ヶ寺南泉院門中		
天台宗	門首高原	神德院
一 霧島山 華林寺		
一 錫杖院		
一 高百六拾四石八斗六升七合七勺壹才		
天台宗	門首野田	山内寺
一 龜翁山 西性院		
一 高式石		

天台宗

著座門首園分

一 鷲峯山 靈鷲山寺	彌勒院
一 高三百壹石九斗五升三合壹勺貳才	
一 竹林山 衆聚院	清 水
一 高拾參石八斗三升三合三勺三才	台明寺
一 慈雲山 安寧寺	鹿兒島
一 高百六拾壹石六斗六升四勺三才	竜洞院
一 高牧山 願成院	小根占
一 菩提山 西雲寺	國 分
一 補陀落山 正護寺	密常院
一 芳野山 法輪院	鹿兒島
一 高三拾石貳斗七升八勺三才	憲英寺
一 右六ヶ寺彌勒院門中	
真言宗広沢方	著座門首坊津
一 如意珠山 竜巖寺	一乘院
一 高貳百七拾石貳斗六升三合六勺八才	
一 開闢山 普門寺	願 娃
一 開闢宮神領高貳百六石	瑞心院
一 千台山 真乘院	鹿兒島
一 高三拾石	大興寺
一 摩尼山 五大院	高 山
一 高拾石	高崇寺
一 竜溪山 神照寺	鹿兒島
一 高七拾石	智恵光院
一 水精山 華藏院	阿 多
一 高貳石五斗	上宮寺
一 金峯山 觀音寺	田布施
一 高百貳拾石	金藏院
	鹿兒島
	松樹院

右七ヶ寺一乘院門中

真言宗

一 華尾山

高貳拾石

右大乘院兼帶

真言宗小野方

一 經田山 宝成就寺

高九百拾石四斗七合四勺九才

内七石六升七合七勺壹才弘化四年新年増高

一 神応山 金胎寺

高百四拾五石三斗三升四合六才

内三拾石神明領

一 霧島山 錫杖院

高五百四拾四石九斗七合貳勺九才

一 如意山 願成就寺

高五拾九石

一 神護山 観音寺

高五拾石

飯野趣訪別当寺
大乘院坊中

延寿院

飯野諏訪領高五拾石格護

鹿兒島 潮音院

高五拾石

一 五峯山 竜護院

高五拾三石

一 高貳拾五石

宝来山 淨菩提院

一 宝来山 淨菩提院

宝来山 淨菩提院

郡山厚地 平等王院

着座門首鹿兒島

大乘院

鹿兒島 抱真院

門首曾於郡 華林寺

伊 作 海蔵院

鹿兒島 宝持院

延寿院

鹿兒島 潮音院

鹿兒島 柿本寺

国 分 金剛寺

郡山厚地 多聞院

国 分 正高寺

宝来山 淨菩提院

宝来山 淨菩提院

高四拾三石余

一 雲林山 宝亀院

高貳拾七石

一 太岳山 垂護寺

小城権現領高五拾石

一 神照山

高三拾石

一 平安山 上宮院

高貳拾五石

一 大勝山 聖御院

高四拾三石

高四拾九石五斗七升貳合貳勺九才

高貳拾五石

医王山

高三拾五石貳斗八升九合七才

一 円融院

高貳拾五石

一 春日山 三摩地院

高九石三斗六升六合

一 観現山 平嶺寺

高三拾壹石

一 冠嶽山 鎮国寺

東嶽神領高四拾三石八斗貳升八勺

一 平安山 八流寺

加世田 今泉寺

鹿兒島 善聚院

鹿兒島 普賢院

鹿兒島 永福寺

鹿兒島 松本寺

郡山厚地 普賢院

大乘院坊中 文珠院

伊集院 莊嚴寺

大乘院坊中 善行院

郡山厚地 本地院

大乗院坊中 葉師院

郡山厚地 曼荼羅寺

諸県郡高城 東竜寺

隈之城 金剛院

串木野 頂峯院

帖 佐 増長院

一 野間山 竜泉寺	一 稻荷山 西方寺	一 摩尼山 千手院	一 高三拾六石	一 春日神領高拾石	一 医王山 正智院	一 高武拾壹石八斗	一 高武拾六石	一 神龜山	一 高四拾六石余	一 小牧山 法嚴寺	一 高拾四石	一 東霧島山 金剛仏作寺	一 高拾貳石	一 高四拾貳石	一 愛宕山 宝幢寺	一 愛宕領高拾五石	一 宝珠山 威徳院	一 高拾六石	一 医王山 多樂寺	一 高五拾石	一 大乗院坊中 千手院	一 鹿兒島 西寿院	一 水引 泰平寺	一 始良 幸田寺	一 飯野 保寿院	一 高武拾七石九斗壹升八合七勺五才	一 加世田 愛染院
霧島山 華林寺	高百拾六石四斗壹升四合五勺七才	無量寿山 深川院	高武拾六石	高原 錫杖院	末吉 光明寺	水引 觀樹院	財部 仏往院	諸県郡高城 勅詔院	大乗院坊中 威光院	鹿兒島 勝軍院	大乗院坊中 福蔵院	高岡 高福寺	鹿兒島 宝珠院	大乗院坊中 千手院	鹿兒島 西寿院	水引 泰平寺	始良 幸田寺	飯野 保寿院	高武拾七石九斗壹升八合七勺五才	加世田 愛染院							

一 秘山 密教院	一 高四拾五石三斗六升八合三勺三才	一 律宗	一 右壹ヶ寺幸善寺門中	一 高三拾壹石八斗七升三合九勺六才	一 宝池山 無量寿院	一 内六拾石加志久利神領	一 高武百五拾八石五斗八升六合七勺壹才	一 加志久利山 惣持院	一 真言宗	一 右壹ヶ寺安養院末寺	一 高三拾九石壹升四勺壹才	一 鳳凰山 遍照院	一 高百九拾九石九斗九升七合四勺九才	一 護国山 大樂寺	一 真言宗	一 右四拾九ヶ寺大乗院門中	一 高六拾五石七斗七升六合四才	一 密嚴山 丈陸寺	一 密留孫領高三拾四石貳斗七升八勺四才	一 狗留孫山 多宝院	一 高五拾石	一 馬連山 福性院	一 高武拾六石	一 牛王山 密教院	一 高百四拾三石五斗貳升三合	一 白鳥山 全剛乘院	一 高八石
門首志布志 宝満寺	門首出水 幸善寺	門首出水 成願寺	出水 成願寺	市来 大日寺	門首鹿兒島 安養院	今和泉 福寿院	志布志 大性院	飯野 端山寺	加久藤 二宮寺	大口 郡山寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺	飯野 満足寺

律宗

一 梅靈山	無量寿院	門首國分	正国寺
臨濟宗五山派		着座門首鹿兒島	大龍寺
一 瑞雲山			
臨濟宗五山派		門首國分	正興寺
一 靈鷲山		大村	大応寺
一 雲長山			
高六石			
右三ヶ寺正興寺門中			
臨濟宗五山派			
一 泰定山	門首伊集院	広濟寺	
高貳百三拾三石壹斗壹升七合七勺壹才			
一 瑞雲山	伊集院	善福寺	
高貳石			
一 仏母山	伊作	多宝寺	
高貳拾八石八斗四升五合八勺四才			
一 海雲山	山川	正龍寺	
高三拾七石六斗六升九勺六才			
一 東光山	坊泊	海印寺	
高拾石八升三合三勺三才			
一 瑞香山	阿久根	蓮華寺	
高貳石貳斗七升八勺四才			
一 清月山	坊津	広大寺	
高四石			
一 青峯山	伊作	天徳寺	
右七ヶ寺広濟寺門中			
臨濟宗五山派			
一 鎮国山	門首野田	感応寺	
高貳石			
臨濟宗関山派			

一 竜興山	門首志布志	大慈寺
高五百八拾壹石七斗五升五合壹才		
一 高拾五石	大慈寺山中	即心院
一 神護山	高山	昌林寺
高拾貳石		
一 高老石	大給良	竜翔寺
右三ヶ寺大慈寺門中		
曹洞宗		
一 玉竜山	着座門首鹿兒島	福昌寺
高千三百六拾壹石四斗七升九合壹勺三才		
一 法智山	伊集院	妙円寺
高三百七拾五石		
一 松原山	鹿兒島	南林寺
高四百六石		
一 覚照山	鹿兒島	妙谷寺
高三百八拾五石五斗貳升五勺三才		
一 太平山	鹿兒島	興国寺
高貳百石		
一 高七拾石	福昌寺内	恵燈院
一 竜護山	加世田	日新寺
高四百四石八斗五升六合貳勺四才		
一 永谷山	谷山	皇徳寺
内六拾九石六斗八升九合五勺八才常潤院		
一 高百石		
一 太平山	田布施	常珠寺
高拾六石		
一 法城山	市来	竜雲寺

高三拾七石	福壽山	伊集院	梅岳寺
高七拾五石	新豐山	志布志	永泰寺
高拾七石九斗五升貳合壹勺	万年山	市來	金鐘寺
高八石	高七石	福昌寺会中	深固院
仏智山	高貳拾石	鹿兒島郡 吉田	津友寺
西峯山	高九石貳斗壹升四合五勺九才	鹿兒島	隆盛院
文明山	高三拾三石	国分	竜昌寺
松齡山	高百石八斗三升九合五勺八才	加治木	長年寺
広海山	高百七拾石	鹿兒島	良英寺
高三拾石	福昌寺会中	月香院	
高三拾石	福昌寺会中	花舜軒	
竜護山	帖佐	総禪寺	
平源山	額雄	証愿寺	
高貳拾五石三斗八合三勺	川辺	宝福寺	
忠徳山	高五拾八石六斗貳升貳合七勺壹才	福山	大安寺
永泰山			

高拾九石七斗五升九合貳勺九才	千秋山	伊集院	雪窓院
高百石	千手山	阿多	大年寺
高貳拾壹石七斗五升	仏頂山	清水	楞嚴寺
高六石	太平山	鹿兒島	大徳寺
瑞氣山	高三拾壹石壹斗	伊作	善勝寺
		鹿兒島南林寺塔司	源舜庵
高三拾石	安泰山	指宿	源忠寺
高拾貳石	大定山	蒲生	永興寺
高五拾四石七升三合	竜豊山	川辺	玉泉寺
高七石五斗	宝蔵山	鹿兒島	笑岳寺
高貳拾貳石壹合	久木山	伊集院	破鞋庵
高八斗	医王山	鹿兒島	薬王寺
高拾五石貳斗八合三才	補陀山	谷山	慈眼寺
高拾五石貳斗四升六勺貳才	永谷山	川辺郡	善積寺
高拾三石七斗壹升六合貳勺五才	重宝山	鹿兒島	上山寺

一 滝水山	帖 佐 心岳寺
一 兜卒山	飯 野 長善寺
一 高式拾石	
一 月照山	飯 野 宗江院
一 高拾八石	
一 如意山	谷 山 清泉寺
一 真金山	高 岡 法華嶽寺
一 高八拾壹石壹斗四升壹合六勺七才	
一 智額山	大 口 成就寺
一 高拾石	
一 福城山	栗 野 徳元寺
一 高式拾石	
一 曹溪山	高 山 瑞光寺
一 高式拾石	
一 達磨山	出 水 竜光寺
一 高拾石	
一 宝陀山	始 良 含粒寺
一 高拾三石	
一 亀城山	飯 野 幻生寺
一 高式拾石	
一 右五拾々寺福昌寺門中	
浄土宗	
一 養泉山 無量寺	門首鹿兒島 不断光院
一 高式百石	
一 右壹々寺不断光院門中	
浄土宗	
一 如意珠山	門首帖佐 願成寺
一 高三拾石	
一 松月山 靈鷲院	加治木 本誓寺

高拾四石五升	法華宗	門首鹿兒島 正建寺
一 本長山		鹿兒島 妙顯寺
一 一乘山		
一 高百石		
一 右式々寺正建寺触下		今和泉 日潤寺
法華宗		
一 松尾山	門首高岡 本永寺	
法華宗		
一 鷲峯山 勸持院	門首国分 逸寿寺	
時衆宗	著座門首鹿兒島	
一 松峯山 無量寿院	淨光明寺	
高四百四石六斗六升式合四勺九才		
一 清水山 五道院	鹿兒島 本立寺	
一 竹林山	淨光明寺会中 海蔵院	
一 高七斗	鹿兒島 護信院	
一 福寿山 無量院	伊集院 竜泉寺	
一 高式石三斗四升三合五勺	志布志 海徳寺	
一 弥勒山 宝泉院	末 吉 光福寺	
一 海宝山 清水院	坊 泊 法光寺	
一 高三斗		
一 法水山 梅窓院	伊 作 西福寺	
一 高三拾石三斗		
一 白亀山 安養院	加世田 淨福寺	
一 高七斗		
一 吉水山 称名院	曾於郡 念仏寺	
一 高三拾石		

一 法昌山 福寿院	限之城 称名寺
一 高三石	
一 現王山 正覺院	本城 大林寺
一 仏光山	国分 常念寺
一 大法山 口称院	浄光明寺会中 江月院
一 大河内山 西方院	大口 専念寺
一 右拾六ヶ寺浄光明寺門中	谷山 妙樂寺
禪宗黄檗派	
一 元持山	門首鹿兒島 寿国寺
一 高四百八拾石	
一 大礪山	鹿兒島 月船寺
一 高式拾石	
一 右壹ヶ寺寿国寺触下	
禪宗黄檗派	
一 万徳山	門首鹿兒島 千眼寺
一 高五百石	
一 豊国山	鹿兒島 西田寺
一 天寿山	鹿兒島 延命院
一 鹿兒島 了性寺	
一 鹿兒島 智福院	
一 右四ヶ寺千眼寺門中	
本山派山伏天台宗	
一 飯隈山 飯福寺	着座門主大崎 照信院
一 高四百七拾壹石三斗九升三合七勺五才	大崎飯隈山坊中
一 高百壹石壹斗四合壹勺七才	仲之坊
一 新熊山 三藏院	吉松門主 内小野寺
一 右二ヶ寺照信院門中	

当山派山伏真言宗	
一 雲海山 宝泉坊	門首鹿兒島 般若院
一 高三百石	
一 補陀洛山 仏母寺	門首鹿兒島 普門院
一 高三百石	高岡 善哉坊
一 郡山華尾山大宮司	鹿兒島趣訪大宮司
一 高百石	本 田 加賀守
一 鹿兒島福ヶ迫趣訪神主	
一 井上 出雲守	
右出雲守事行衛不相知候附本田加賀守神前向	
御祈禱其外方万端兼帯同様被仰付候	
水引新田八幡宮執印職	
神領高式百五拾石三斗壹升貳合五勺	執 印 吉左衛門
「八」長日相勤寺之事	
鹿兒島 大乘院	鹿兒島 安養院
曾於郡 華林寺	飯 野 満足寺
田布施 金藏院	顯 娃 瑞応院
出 水 幸善寺	
右九ヶ寺毎年相勤候	
伊 作 海藏院	鹿兒島 大興寺
鹿兒島 勝車院	鹿兒島 智恵光院
右三ヶ寺四年目相勤候	
大乘院坊中 善聚院	
鹿兒島 宝持院	

大乘院坊中 文珠院 鹿兒島 宝珠院 鹿兒島 潮音院
伊集院 壯嚴寺 高 原 錫杖院 市 来 大日寺
国 分 金剛寺 鹿兒島 善行院

右拾壹ヶ寺五年目相勤候

大乘院坊中 藥師院 大乘院坊中 延壽院 鹿兒島 護國院
大乘院坊中 威光院 水 引 泰平寺 志布志 大性院
串木野 頂峯院 隈之城 金剛院 始 良 幸田寺
諸県郡高城 東竜寺

右拾ヶ寺六年目相勤候

水 引 觀樹院 諸県郡高城 勅詔院 国 分 正高寺
大 口 郡山寺 末 吉 光明寺 加久藤 二宮寺
帖 佐 増長院

右七ヶ寺七年目相勤候

鹿兒島 西壽院 鹿兒島 普賢院 飯 野 端山寺
高 岡 高福寺 飯 野 保壽院 加世田 今泉寺
財 部 仏性院 高 山 高崇寺 出 水 成願寺
鹿兒島 千手院 鹿兒島 福藏院

右拾壹ヶ寺八年目相勤候

合寺数五拾壹ヶ寺

右長日寺之内大乘院・一乗院・華林寺・満足寺・瑞応院・金藏院・安養院・幸善寺・抱真院此九ヶ寺、從前々、毎年長日番相勤申候、其外八正保四丁亥年より連々相増申候

一九一 達 貴聞住職被 仰付寺院之事

附御家老承住職申渡候寺院之事

鹿兒島 南泉院 鹿兒島 福昌寺 郡 山 平等王院

鹿兒島 大乘院 鹿兒島 淨光明寺 鹿兒島 千眼寺
坊 津 一乗院 国 分 弥勒院 鹿兒島 大竜寺
鹿兒島 寿國寺 南泉院 院 代 志布志 宝満寺
高 原 神徳院 野 田 山内寺 国 分 正興寺
志布志 大慈寺 伊集院 広濟寺 野 田 感心寺
鹿兒島 不斷光院 鹿兒島 正建寺 出 水 幸善寺
高 岡 本永寺 国 分 遠壽寺 帖 佐 願成寺
国 分 正國寺 大 崎 飯隈山 鹿兒島 般若院
曾於郡 華林寺 鹿兒島 安養院

右住職交替之節ハ達 貴聞、住職之儀於敷舞台、御家老より申渡有之
但平等王院住職之儀ハ大乘院兼帶被仰付置候、以後別立而住職被仰付候節ハ右之通申渡有之

伊集院 妙門寺 鹿兒島 南林寺 鹿兒島 妙谷寺
鹿兒島 興國寺 福昌寺会中 惠燈院 加世田 日新寺
鹿兒島 抱真院 鹿兒島 竜洞院 高 原 錫杖院
右住職交替之節ハ達 貴聞、住職之儀於虎之間、寺社奉行より申渡
但鹿兒島諏訪神主・水引新田宮執印職之儀も達 貴聞於虎之間、寺社奉行より申渡

南泉院寺中 実相院 南泉院寺中吉祥院 南泉院寺中 觀樹院
谷 山 皇徳寺 田布施 常珠寺 市 来 竜雲寺
伊集院 梅岳寺 志布志 永泰寺 市 来 金鐘寺
福昌寺会中 深固院 鹿兒島郡 津友寺 鹿兒島 隆盛院
国 分 竜昌寺 加治木 長年寺 鹿兒島 良英寺
福昌寺会中 月香院 鹿兒島 花舜軒 伊 作 海藏院
飯 野 満足寺 鹿兒島 本立寺 穎 娃 瑞応院
鹿兒島 大興寺 田布施 金藏院 清 水 台明寺
志布志 即心院 坊 泊 海印寺 加治木 本誓寺
右住職交替之節ハ御家老承、住職之儀、於虎之間寺社奉行より申渡
御家老承住職之儀於寺社所寺社奉行直ニ申渡候寺院之事

鹿兒島	妙顯寺	今和泉	日潤寺	伊集院	來迎院
小林	門岳寺	都城	明觀寺	今和泉	福壽院
華爾	真如院	重富	円明院	鶴田	祁答院
厚地	本地院	厚地	普賢院	厚地	曼茶羅寺
厚地	多聞院	国分	正善院	小根占	安樂寺
鹿兒島	西田寺				

〔十〕 御元祖以来 御居城之事

出水郡
出水之内山門院

一 木牟礼城

右城地文治二年 御元祖忠久公御下向之節より被成御座五代之 太守
貞久公迄御居城ニ而候

薩摩郡
平佐之内天辰村

一 碗山城

右城地、五代 太守貞久公も暫被成御座候趣相見得申候、其後 師久
公御居城ニ而候

鹿兒島郡
鹿兒島

一 東福寺城

右城地、曆応四年之時分より 太守貞久公被成御座候、東福寺と申候
ハ只今之安養院ニ而候

肝属郡

一 大始良城

右城地、六代之 太守氏久公御居城ニ而候

諸県郡

志布志

一 内城

右城地、氏久公御居城ニ而候

桑原郡

一 国分

一 咲隈城

右城地、氏久公御居城之地ニ而候

鹿兒島郡

一 清水城

一 清水城 或本城

右城地、七代之 太守元久公至徳年間志布志内城より清水城ニ被成御

移 久豊公・忠国公・忠昌公・忠治公・忠隆公・勝久公御在城ニ而候、

貴久公御事も御若年之時暫被成御座候

諸県郡

一 穆佐

一 高城

右城地、八代之 太守久豊公御二男之内御在城之地ニ而候

日置郡

一 伊集院城

右城地、十五代之 太守貴久公天文十四年之比暫被成御座候

鹿兒島郡

一 本御内

右 貴久公天文十九年伊集院之城より被成御移 義久公・家久公も被

成御座候

諸県郡

一 飯野城

右城地、永祿七年之比 義弘公被成御座候、加久藤之城ニハ 惟新様

之御前様被成御座、家久公御誕生之地ニ而候

始羅郡

一 帖佐

一 岩剣城

右城地、天文二十三年之比 義弘公被成御座候

桑原郡

一 栗野城

右城地 義弘公天文十七年飯野より被成御移、此御城より朝鮮国^五被成 御出陣候

始羅郡
一 帖佐城

右城地文祿四年 義弘公栗野より被成御移、慶長二年再朝鮮国^五此御城より被成御渡海候

曾於郡
国分之内浜之市
一 富隈城

右文祿四年 義久公鹿兒島本御内より被成御移候

鹿兒島郡
鹿兒島上之山
一 当御城

右慶長七年 家久公山下ニ御屋敷構ニ而本御内より被成御移、夫より

御代ニ様被成御座候
噓噓郡

国分
一 新城

右慶長十年 義久公富隈より被成御移候

始羅郡

一 加治木城

右慶長十二年之冬 義弘公帖佐平松より加治木^江被成御移候

阿多郡

一 伊作城

右代、伊作家之城地ニ而 日新公・竜伯公・惟新公御誕生之地ニ而候

阿多郡

一 田布施城

右 忠国公之長庶子相模守友久之領地ニ而友久嫡子相模守運久御養子相模守忠良公被成御座候

河辺郡

一 加世田城

右薩州家領地ニ而候処天文七年以来 日新公御領地龍成右城地之臨御

屋敷構ニ而被成御座候

「十二」 御閑狩并吉野御牧之事

一 御閑狩ハ十六代之 太守義久公御代天正四年近衛前久公御当国^五御滞在之節御馳走事と相見得、段々々条書有之候、右之内春山之御閑狩と書記有之候、其節前久公御一覽有之候儀究而相知不申候得共、右通御譜中被召載置候得ハ其初ニも御閑狩有之候と相見得申候

一 古老之者共申伝候ハ御閑狩之旧例ハ 頼朝卿御代富士牧狩有之候付、御家之儀も頼朝卿御子孫之儀御座候故、御閑狩之儀も御家ニ相殘候、尤武備之ならしニ而有之由候、且亦 惟新様・中納言様朝鮮御帰陣之節寺沢志摩守様・宇久^{後称}五島大和守様鹿兒島^五御見廻之節、被召列候人数踊有之候付、右之為御返礼、御家御旧式之御閑狩、於松島御張行有之、右御面人^五御馳走被成候由申伝候、右通古老之者口碑相伝候迄ニ而御閑狩起候基之儀ハ相知不申候得共、惟新様・中納言様朝鮮御帰陣之時分も右之通御旧式之御閑狩為有之儀御座候得ハ古来より之御旧式と相見得候由先役共書記置申候

一 右御閑狩場所之儀ハ最前吉野ニ而有之、其後伊集院春山又ハ谷山野ニ而為有之由ニ御座候、尤寛陽院様・泰清院様・大玄院様御三殿様共ニ数度被成 御登、琉球王子被召列見物被仰付候儀も為有之由古老之者共申伝候と是又先役共書記置候

一 一説ニ古老之者共申伝候ハ御閑狩御馬追之儀ハ軍事之習せニ而御閑狩ハ御出陣之御作法、御馬追ハ御帰陣之御作法と申伝候得共、古書付等ニ而ハ見当不申候付、此節段々相糺候得共、右之誤相知不申候、依之御包丁人頭方^五も右御規式之次第承合候処、御閑狩ニハ御盛塩御引渡有之、御馬追ニハ御盛塩式御三献之差別有之、右御規式之品を以御出陣御帰陣御三献共相見得不申、尤右通之申伝も無之由承届候、然共從前々右通申伝儀候得ハ、如何様由来有之事ニ而其通申伝候哉と相考申事候

吉野御牧

右川上家仕立召置候牧ニ而候処、慶長年中当川上久馬先祖川上上野久隅代右之牧、家久公^五被差上、家久公吉野御馬追被遊御登、久隅も参上為仕由ニ候、且亦慶長九年辰壬八月十九日吉野御牧毛付書老通、伊勢兵部所持之文書相見得申候、右を以ハ慶長年中より吉野御馬追相初候筋ニ相見得申候、吉野御馬追中古ニハ御名代無之、御家老老^一・惣奉行老^一・川上嫡家御目付式人、羽織袴ニ而罷登御規式無之候得共如旧例可被仰付旨宝永三年被 仰出置候、左候而御家老勤方有之候得共若御年寄勤被仰付候旨享保二十年卯八月相究申候、然ハ自古来 御名代并役、被差越、御規式為有之と相見得候得共、何年間より相始候儀相知不申候

右御記録奉行より申出候調書を以載置候事

〔十二〕 御城代相勤候人之事

一 御城代之儀前代被 仰付置候儀不分明候、黄門様御代俄ニ被遊 御出陣事も候ハ島津豊後守久賀御留守居可被仰付旨、為被仰付置由候、其後寛文六年 光久公御代数年右御役明^一候而御念遣ニ被 思召候由ニ而北郷佐渡守久加^江 御留守居役被仰付置候、御留守居役ハ今之御城代之由候事

黄門様御代御留守居

豊後守朝久子

島津豊後守久賀

後豊前守

從 光久公御代御城代

加賀守三久子

北郷佐渡守久加

寛永二十癸未年より明暦二丙申年迄御家老

但寛永十六己卯十一月より御旅御家老

寛文六丙午八月より御城代同九年酉二月御免

佐多丹波久利後嗣

正徳元年辛卯九月

久達島津賜 御名字

佐多内記久達

延宝四丙辰十月より御城代
延宝八庚申年より御家老職兼役
但御家老職之所ニも名書記之

後 備後

島津備前

元禄十丁丑年御家老職ハ御免
御城代役ハ如本享保三戌七月御免

吉貴公御代迄
從 吉貴公御代御城代

又六久峯後嗣

島津將監久当

貞享三寅年より御家老享保
四年亥十一月より御城代加判
御免御家老職如本享保十四
酉八月御役内死去
録豊公御代迄

但御家老職之場ニも名書記之

齊興公御代城代

久馬久致子

川上 久馬久芳

文政十二年丑五年朔日より
御家老職是迄之通、天保
三年辰五月十五日被聞召
通趣有之御免

勘解由盛常子

市田 長門義宣

後 美作

天保四年巳四月廿一日より同
年十月十六日御家老勤、

同七年申五月十日依頼御免

樵嵐久尹子

嶋津 但馬久風

後 和泉

天保八年西七月十九日より

御家老方御用取扱等

都而此内之通、同十五年

辰六月思召有之御免、以

来奥并大奥^江も罷通

御祝儀伺御機嫌等

可申上旨被仰渡

丹波 久長子

嶋津 主計久宝

後 豊後

弘化二年巳三月十七日

より御家老方御用取扱

等都而此内之通

嘉永四年亥二月廿一日

宰相様御附御家老兼務

「十三」 貴久公以来御家老職相勤候人之事

貴久公御代御家老

天文十四年より弘治永録十一年迄廿四年 御家督

伊集院家六代

彈正忠頼久四男

大和守信久大和守

忠公子

日新公御代より 義久公御代迄

伊集院大和守忠朗

入道孤舟

兵部少輔重平嫡子

重秋祖父遠江守

重秀ハ伊作家家老

日新公御代より 義久公御代迄

三原遠江守重秋

入道昌安

越前守武秀男

経定曾祖父肥前守

経安ハ 立久公より

忠昌公迄御家老

義久公御代迄

村田越前守経定

大和守忠朗入道

孤舟子

伊集院掃部介忠倉

後 大和守

川上家五代上野守

兼久三男左近将監

忠塞信濃守栄久子

川上上野介忠克

入道意釣

庶流

越前守兼演入道

以安子兼演ハ

勝久公御家老

義久公御代迄

肝付彈正忠兼盛

義久公 永禄十一年比より元龜天正十三年迄十八年御家督

御代御家老

義弘公 天正十三年より文禄慶長五年迄十八年御家督

上野介忠克入道

意釣子

天正二十癸丑年より永禄
十一戊辰年迄

永禄九丙寅年之比より慶
長四己亥年三月迄

永禄十二年己巳之比より

貴久公御代より

天正三乙亥年之比より

天正四丙子年之比より

天正八庚辰年之比

天正十壬午年之比より

川上左近將監久朗

大和守忠倉子

伊集院右衛門太夫忠金

後 入道幸侃

喜入家四代撰津介

忠俊子

喜入式部大輔秀久

後 撰津守

美濃守貞宗子昌宗

祖父美濃守兼宗迄四代

相統補御家老職

平田美濃守昌宗

美濃守昌宗子

平田左馬助光宗

後 美濃守

入道舜盛

武蔵守董兼子諏訪

甚六貴兼曾祖父

上井伊勢守覚兼

下野守親尚子本田

六左衛門親武曾祖父

本田下野守親貞

入道三省

越前守經定右衛門尉

季久子經平ハ村田五

郎左衛門經行曾祖父

村田右衛門尉經平

貴久公御舍弟

天正十一癸未年より
家久公御代慶長十五丁亥年迄

天正十八庚寅年之比

文祿之始より慶長五庚戌年迄

天正十六年之比より慶長
十四年六月迄

慶長四己亥年之比より

左兵衛尉尚久子

島津図書頭忠長

入道紹益

義濃守光宗子

平田左近將監藏宗

町田家十六代兵部左衛門尉

久徳子

町田出羽守久倍

入道存松

藏人有徳子

山田越前守有信

入道理安

左近將監時麿子

種子島左近太夫久時

入道一琢

庶流

因幡守親治子本田

市郎左衛門親昌曾祖父

庶流

宮内少輔国真入道

咲翁子比志島主膳国治養祖父

比志島紀伊守国貞

皇山中務大輔頼国

入道橋陰軒子島山

式部義扶養高祖父

長寿院盛淳

左近將監藏宗子

平田太郎左衛門尉増宗

庶流

下野守久通入道

後 英宗

家久公御代迄

魯笑子

伊集院下野守久治

入道抱節

図書頭政勝子

天正十九辛卯春より慶長十乙巳年九月迄 家久公御代迄

鎌田出雲守政近

樺山家十代兵部大輔忠助

入道紹劍二男後十三代之

家督を継

文祿元年辰年三月より
家久公御代迄

樺山權左衛門尉久高

後 美濃守

右之人數 義弘公御家督之節も御家老被相勤候、右之外 義久公義弘公御
隱居御家老御座候得共、御藏入計支配と相見得申候故除之

家久公御代御家老

慶長七年比より元和寛永十五年迄三拾七年 御家督

雅樂助貞真入道

任世二男

慶長十六辛亥年より寛永十八
辛巳四月迄 光久公御代迄

伊勢兵部少輔貞昌

出羽守久信子左京亮

忠綱子

慶長十六辛亥年より寛永元年
甲子六月十七日於江戸死去

町田勝兵衛尉久幸

後 図書頭

遠江守重益子

兵部少輔重宗子

慶長十七壬子年之比より元和四
戊午年迄

三原諸右衛門尉重種

後 備中守

図書頭忠長入道紹益

二男兄河内守久信早世

元和四戊午年より寛永二十癸
未年迄 光久公御代迄

以後家督相統

島津下野守久元

摂津助季久四男兄

式部大輔久通名跡

元和四戊午年之比より寛永十
癸酉年迄

喜入摂津守忠政

後 忠統

紀伊守国貞子

寛永元甲子年より同五戊辰
年迄

比志島宮内少輔国隆

左近將監久辰子

寛永五戊辰年之比より慶安
二己丑年迄 光久公御代迄

川上式部大輔久国

後 將監

下野守常久子

寛永十一甲戌年五月より同十八辛巳
年十一月迄 光久公御代迄

島津彈正大弼久慶

藏人頭政富子

寛永十四丁丑二月より同十八
辛巳年迄 光久公御代迄

鎌田出雲守政統

後 治部少輔

備中重種子三原

諸右衛門重尚祖父

寛永十二乙亥年之比より同十七
庚辰年迄 光久公御代迄

三原左衛門佐重饒

後 重庸

越前守有信入道

理安子

寛永十三丙子年三月より慶安
三庚寅年迄 光久公御代迄

山田民部少輔有榮

寛永十五戊寅五月八日

御家督

光久公御代御家老

寛永十五年より正保慶安承応明暦万治寛文
延宝天和貞享四年迄五拾年 御家督

弥一 郎久秀後嗣実父

鎌田出雲守政近

寛永十八辛巳年より正保三丙戌
年迄

顯娃 左馬頭久政

北郷家十一世加賀守三久子

寛永二十癸未年より明暦二丙
申年迄

北郷 佐渡守久加

但寛永十六年己卯十一月より御旅御家老

下野守久元子

正保二乙酉年より寛文十二壬
子年迄

島津 図書頭久通

但寛永年間御旅御家老

五郎右衛門尉入道遊浦

養子久詮祖父伊勢守

康久ハ

日新公御家老

正保二乙酉年より寛文
三癸卯年迄

新納右衛門佐久詮

敷根中務少輔立頼子

久頼賜 御名字

慶安二己丑年より寛文
四甲辰年迄

島津筑前守久頼

町田出羽守久信弟

源左衛門尉政子

慶安二己丑年より寛文二
壬寅年迄

町田勘解由久則

兵部少輔貞昌子

大隅守貞豊後嗣

慶安二己丑年より寛文三
癸卯年迄

伊勢兵部少輔貞昭

玄蕃充政朝養子

慶安二己丑年より寛文七
丁未年迄

鎌田源左衛門尉政有

但寛永八未年之比御旅御家老

治部少輔政統後嗣

明暦二丙申年より寛文丙午年まで

鎌田藏人正信

戊申年迄

下野守久元二男

万治元戊戌年より寛文八
戊申年迄

島津 中務久茂

但承応二年御旅御家老

勘解由久則子

寛文三癸卯八月より貞享
二乙丑年迄

町田勘解由久昌

後 忠代

忠貞

右衛門佐久詮子

寛文三癸卯年より元禄八
乙亥年迄 綱貴公御代迄

新納又左衛門久仁

後 久了

豊後守久賀二男

寛文六丙午年より元禄三
庚午年迄 綱貴公御代迄

島津 帶刀久元

仲右衛門尉兼安子

寛文七丁未年より同十一辛亥
年迄

諏訪奎右衛門兼利

但明暦二年之比御旅御家老

家久公御四男初而

立家準御三男家

寛文七丁未年より延宝七
己未年迄

島津 市正忠広

中務久茂子

寛文十庚戌年より貞享二
乙丑年迄

島津 新八郎久賢

但寛文九年正月六日より御旅御家老

後 久憑

寛文十庚戌年より宝永四丁亥
正月御免 吉貴公御代迄

寛文十二壬子年より元禄六癸
酉年迄 綱貴公御代迄

延宝二甲寅年より宝永七庚寅
正月御免 吉貴公御代迄

延宝七己未年より宝永七庚寅
六月御免 吉貴公御代迄

天和元辛酉年より貞享五戊辰
年迄 綱貴公御代迄

天和二千戌年より宝永三丙戌
年三月御免 吉貴公御代迄

延宝八庚申年より元禄十丁丑
年迄 綱貴公御代迄

貞享三丙寅年より御家老職享
保四亥十一月より御城代加判
御免御家老勤如本享保十四西
八月御役内死去 繼豊公御代迄

久武 新八 甲斐
伴兵衛兼屋男彈正忠
兼盛曾孫

肝付 彈正兼方
後主殿 久兼

島津 出雲久胤
後 図書 久竹

安芸守久雄子
島津 中務久輝

左近忠時子
種子 島藏人久時

作左衛門尉忠精子
北郷惣次郎忠昭

市正忠広子
島津 大学 忠守
後 助之亟

丹波久利後嗣
佐多 豊前久達
又六久岑後嗣

島津 伊賀久寛
後 縫殿 勘解由

將監 久当
振津介忠長後嗣
喜入右衛門久亮
後 又兵衛 安房

貞享三丙寅年より宝永二乙酉
九月御免 吉貴公御代迄

貞享四丁卯七月廿七日 御家督
綱貴公御代御家老
貞享四年より元禄宝永元年迄十八年 御家督

貞享五戊辰年より元禄十二己卯年迄 綱貴公
御部屋栖之節より二之御丸方御旅御家老
庶流 狩野介宗弘子 平田新左衛門宗正

元禄五壬申年より
同十二己卯年迄
右近重長子
彌寝孫左衛門清雄
後 丹波

元禄十丁丑年より
同十四辛巳年迄
図書久竹子
島津 図書久雅
後 久洪

元禄十丁丑年より宝永七庚寅二月御
役内死去 吉貴公御代迄
近江久辰子
新納四郎左衛門久珍
後 美作 市正

元禄十四辛巳年より享保二丁酉年四月
御役内死去 吉貴公御代迄
光久公之御十男初而
立家準御二男家

元禄十四辛巳年より宝永二乙酉十二月
御免 吉貴公御代迄
因幡久国曾孫
川上式部久重
宝永元年申十月廿九日 御家督

吉貴公御代御家老

宝永元申年より享保六年迄十八年 御家督

帯刀久元子

宝永元甲申年より正徳五乙未九月御免

島津帯刀忠雄
後 仲休

主殿久兼子

宝永六己丑年より享保三戌三月御役内死去

肝付主殿兼柄

中務久輝養子

宝永七庚寅年より元文四未七月御役内死去

島津中務久貫
後 内記

中務

主税

主殿

藏人久時子

宝永七庚寅六月より元文元辰十月御免 継豊公御代迄

種子島彈正伊時
後 久基

豊前久邦養子

正徳五乙未十月十八日より享保十六亥六月御免 継豊公御代迄

島津内膳久兵

孫太郎義頼後嗣

正徳五乙未十二月十八日より享保六丑年より

吉貴公御隠居御方勤延享四年卯十二月御免 比志島隼人範房
宗信公御代迄

惣次郎忠昭養子

享保二丁酉十月朔日より同八卯十一月御役内死去

北郷作左衛門久嘉

佐多備前久達子

享保三戌七月より延享二丑十月御役内死去 継豊公御代迄

島津 奎 久 武
後 久豪

刑部久弘子

享保五子九月より同二十年卯八月御免 継豊公御代迄

伊集院藏人久矩

享保五子十一月より同十巳九月御役内死去 継豊公御代迄

名越右膳恒渡

享保六年丑六月九日 御家督

継豊公御代御家老

享保六年より延享三年迄二十六年 御家督

大藏久明子

享保八卯十二月より延享三年寅二月御役内死去

島津左仲久春
後 大藏
久純

作助久伴後嗣

享保九辰正月より同十三申七月御役内死去 吉貴公御隠居御方勤

義岡 右京久守

島津織部久達子

享保十一年五月より同二十卯八月御免

平岡八郎太夫之品
後 内匠

相馬忠郷子

享保十一年六月より寛延三年午九月御役内病死 重年公御代迄

樺山主計久初

甚左衛門興善養子

享保二十卯八月より元文六酉二月十五日御免

堀四郎太夫興昌

長左衛門久明後嗣

元文元辰十二月より延享五年辰正月御役内死去 宗信公御代迄

顯娃左京久周
後 内膳

藏人久時二男

元文四未十二月より延享四年卯七月御免 宗信公御代迄

種子島織部時成
後 時守

改 北条

太郎右衛門政高子

寛保元年酉二月より延享四年
卯七月御免 宗信公御代迄

寛保三年亥閏四月より寛延二年巳
二月御役内死去 宗信公御代迄

寛保三年亥六月より明和四亥二月
十七日御役内死去 重豪公御代迄

鎌田太郎右衛門政直
左衛門久林子

島津左衛門久甫
左内久知子

島津右平太久郷
後 右京

主鈴
久品

兵部貞栄子

伊勢兵部貞起

延享二年丑十二月より宝暦四年戊
十月御役内死去 重年公御代迄

延享三年寅十一月廿一日 御家督

宗信公御代御家老

御家督

島津助之亟忠守二男

延享四年卯七月より同五年辰
正月御免

郷原転久雄

要人政躬子

延享四年卯七月より宝暦十一
年巳七月御免 重豪公御代迄

鎌田源左衛門政昌

後 典膳

新左衛門正房子

延享五年辰正月より宝暦五年亥
五月御役内死去 重年公御代迄

平田掃部正輔
後 靱負

大蔵久純子

延享五年辰二月より同年七月
御役内死去

島津大蔵久丘

伊織久近子

延享五年辰七月より寛延四年
未閏六月御免 重年公御代迄

島津矢柄久富

主殿久貫子

寛延二年巳六月より宝暦八年寅十
二月御役内死去 重年公御代迄

島津主殿久柄

後 久馮

右京久守子

寛延二年巳九月より宝暦十年辰
九月御役御免 重豪公御代迄

義岡相馬久中

後 彈正

次郎左衛門政芥子

寛延三年午十一月より宝暦四
年戌四月御免 重年公御代迄

市来左中政方

寛延二年巳十一月十日 御家督

重年公御代御家老

寛延二年より宝暦五年迄七年

御家督

左京久敦子

宝暦三年酉七月より同四年戊
九月御役内死去

新納内蔵久品

十蔵久達子

宝暦五年亥六月より同六年子十
一月御役内死去 重豪公御代迄

伊集院十蔵久東

後 織部

宝暦五年亥七月廿七日 御家督

重豪公御代御家老

宝暦五年より天明七年迄三拾三年

御家督

図書久倫養子

宝暦五年亥九月より同十三年
未九月御役内死去

島津図書久亮

七郎右衛門種房子

宝暦五年亥十一月より明和五
年子七月御役御免

高橋縫殿種寿

後 此面

主計久初子

樺山左京久倫

後 久智

宝暦六年子十二月より同十一年巳七
月依願御役御免 明和元年申十月再
役 安永二年未九月十五日依願御役
御免

藤馬重之子

宝曆九年卯六月より明和六年丑九月十三日御役内於江戸死去

菱刈藤馬実詮

小藤次正甫子

宝曆十年辰七月より同十四年申四月御役内死去

鎌田隼人正芳

後 藏人

左衛門久甫子

宝曆十一年巳八月より明和二年酉二月依願御役御免

島津若狭久定

後 山城

小平太久幸子

宝曆十一年巳八月四日より寛政五年丑五月十九日依願御役御免 齊宣公御代迄

島津左中久金

後 伊賀

助右衛門国陣子

宝曆十三年未十月より安永四年未七月依願御役御免

川田伊織国福

仲久隣子

明和二年酉七月より天明七年未五月依願御役御免後

島津仲久智

後 久健

太七郎久音子

明和四年亥四月三日より同八年卯九月廿一日依願御役御免

桂 織部久中

主膳久茂子

明和六年丑十二月朔日より寛政元年西八月廿九日死去 齊宣公御代迄

喜入主馬久福

後 安房

内記清方養子

明和六年丑十二月朔日より天明元丑閏五月十八日依願御役御免

小松帶刀清香

齋宮久房子

明和八年卯八月廿八日より安永九年子正月廿九日於江戸病死

山岡齋宮久澄

後 市正

甚右衛門則茂養子

安永四年未七月廿八日より同八年亥八月十五日依願御役御免

赤松造酒則正

林左衛門行通養子

後出右衛門行道家を兼統

安永五年申十月十一日より寛政二年戌九月十五日御役内死去 齊宣公御代迄

二階堂主計行且

十太右衛門久命子

安永九年子六月十一日より天明六年午五月十三日御役御免

島津大進久起

後 近江

甚五兵衛通興子

天明二年寅正月十五日より同七年未五月廿七日依願御役御免

宮之原主膳通直

小右衛門親安子

天明六年午五月十三日より同七年未五月廿七日依願御役御免

川上頼母久品

喜内貞行養子

天明六年午十二月十三日より寛政元年西十一月十一日齊宣公御代御役御免同四年子五月十九日より再役 文化五年辰二月四日御役御免 齊宣公御代迄

後 出雲

教国

盛常

天明七年未正月廿九日 御家督

齊宣公御代御家老

天明七年より文化六年迄貳拾三年

奎久峯子

天明七年未三月九日より寛政三年亥三月十九日御役内死去

島津豊前久邦

後 和泉

石見

藤馬実詮子

天明七年未三月九日より文化三年寅八月二日御役内死去

菱刈大炊実祐
後 下総
実邑
隆邑

天明七年未四月十一日より同八年申四月十一日御役内死去

軍兵衛金麻子

関山乳金暉

登久置子

天明八年申九月三日より寛政二年戌六月廿二日御役内死去

島津登久連

求馬久教養子

寛政元年酉十一月朔日より同八年辰四月廿八日依願御役御免

島津求馬久昶

左源大恒索子

寛政元年酉十一月六日より同十一年未八月廿一日依願御役御免

名越右膳時央

後 恒当

兵部貞起子

寛政二年戌十二月廿八日より享和元年酉七月十日御役内死去

伊勢播磨貞矩

隼人範常子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子閏二月十九日御役内死去

比志島要人範章

市正久澄子

寛政三年亥十二月廿八日より同五年丑五月六日御役内死去

山岡雅楽久容

後 市正

主計行且子

寛政五年丑四月十五日より同九年巳三月十五日御役内死去

二階堂主計行充

後 河内

久馬久備養子

寛政五年丑七月廿八日より享和元年酉十月朔日依願御役御免

川上久馬久致

喜三右衛門有雄子

寛政七年卯八月廿八日より享和二年戌十二月廿六日御役内死去

山田伯耆明速

此面種寿子

寛政九年巳三月朔日より文化二年丑八月廿五日御役御免

高橋縫殿種央

伊織国福嫡孫

寛政十一年未十一月十五日より文化四年卯二月四日御役内死去

川田伊織佐賢

造酒則正子

享和元年酉十二月六日より文化三年寅七月十一日依願御免

赤松市正則決

内膳久風子

享和三年亥二月朔日より文化十年酉十二月廿七日御役御免 齊興公御代迄

額娃信濃久喬

内蔵久備子

文化三年寅四月廿八日より同四年卯十一月十日御役御免 同十一年戌三月廿七日より齊興公御代再役文政九年戌十一月廿八日依願御役御免 齊興公御代迄

新納内蔵久邦

伊賀久金子

文化三年寅八月六日より同十一年戌八月十二日 齊興公御代依願御役御免

島津將監久美

典膳政為子

文化四年卯九月十三日より文政二年卯二月廿五日依願御役御免 齊興公御代迄

鎌田典膳政興

後 政詮

(朱) 左京久智子

樺山主税久言

右文化四年卯十一月十九日より同五年辰四月九日御役御免、右勤役中取扱之儀ハ何も御取用ニ不相成、諸向帳面等都而焼捨候様被仰渡置候」

内蔵久昶養子

文化五年辰六月三日より文政七年申七月二日依願御役御免 齊興公御代迄

島津安房久備

登久連子

文化五年辰閏六月廿八日より同七年午十二月十九日依願御役御免 齊興公御代迄

島津登久兼

文化六年巳六月十七日 御家督

齊興公御代御家老

文化六年巳六月十六日 御家督

齊興公御代御家老

文化六年より嘉永四年迄四拾三年御家督

久馬久致子

文化七年午八月廿七日より文政十二年丑五月朔日御城代に御役替御家老職是迄

川上右近久芳

年丑五月朔日御城代に御役替御家老職是迄

後 美濃

之通

久馬

天保三年辰五月十五日被開召通趣有之御免

監物久甫嫡孫

町田監物久視

文化十一年戌十月廿九日より文政十一年子八月十五日御役付不行届儀有之

御免天保二年卯六月廿八日思召

を以て奥并大奥にも罷通

御祝儀伺御機嫌等可申上旨被仰渡

勘解由盛常子

市田長門義宣

文政二年卯正月十五日より同五年午四月十四日御役御免

天保四年巳十月十六日御

家老勤に再役同七年

申五月十日依願願免

文政七年申四月廿八日より同十一年子九月六日御役付不行届儀有之

佐左衛門久陣養子

北郷内記久珉

御免天保二年卯六月廿八日思

召を以て奥并大奥にも罷

通御祝儀伺御機嫌等可申上旨

被仰渡同六年未五月十九日先年

御役御免被仰付候得共其節

依願御免之筋相心得候儀被仰渡

飛騨久亮子

文政七年申十月廿八日より天保八年酉七月十九日御城代に御役替御

嶋津但馬久風

家老方御用取扱等都而此内之通

後 和泉

同十五年辰六月 思召有之御免以来

奥並大奥にも罷通御祝儀伺御機嫌

等可申上旨被仰渡

内膳久中子

文政九年戌五月廿八日より天保五年午六月十九日御役内病死

嶋津丹波久長

文政十一年子十一月十七日より

伊織佐賢子

天保五年二月十日依願御免

川田信濃佐摸

御旗本猪飼茂右衛門殿三男

文政十一年子十二月八日より弘化二年巳十二月八日病死

猪飼 央尚敏

河内行充子

天保二年卯五月八日同

二階堂伊豆行典

四年巳五月十三日御役内病死

後 主計

直衛苗兼子

天保四年巳二月廿一日より同六年未五月廿七日依願御免

諏訪治部武兼

後 勘解由

武敬

下総隆邑子

天保五年午五月十八日より

菱刈奎之介隆親

天保七年申二月九日より

後 安房

仁十郎久芳養子

嶋津佐渡久淳

後 伊勢

石見

清悦恒正養子

天保九年戌八月廿五日より御側 調所笑左衛門広郷

詰兼務嘉永元年申十二月十九日病死

登 久兼子

天保十年亥六月十八日より

嶋津 登 久備

弘化二年午四月廿八日病死

丹母久長子

天保十一年子十二月十八日より弘

嶋津主計久宝

化二年巳三月十七日御城代江御役

後 豊後

替御家老方御用取扱都而此内之通

嘉永四年亥二月廿一日宰相様御附

御家老兼務

相馬久福子

弘化二年巳六月六日より嘉

島津頼母久武

永三年戌四月廿六日被 聞

後 吉岐

召通趣有之御免

八郎右衛門久陽子

弘化三年午五月廿九日より

碓山将曹久徳

御側詰兼務嘉永四年亥

後 嶋津

二月三日 宰相様御方御家老御用向

ハ勿論御側詰御用も兼相勤候様

被仰付同年七月七日依願御免

将監久満子

弘化四年未三月廿六日より

末川久馬久平

後 近江

久馬久芳子

嘉永三年酉二月十二日より

川上東馬久封

嘉永四年亥二月廿一日御家督

後 筑後

齊彬公様御家老

主水久欽子

嘉永四年亥七月十七日より

喜入多門久通

「十四」 家久公以来御談合役御詰役御側詰若御年寄

若年寄相勤候人之事

家久公御代御詰役

越前守有信子

寛永十二乙亥年之比

山田民部少輔有栄

備中守重徳子

寛永十二乙亥年之比

三原左衛門重饒

蔵人政富子

後 重庸

出雲守政統子

寛永十二乙亥年之比より御詰役
同十四丁丑年二月御家老御役齊

鎌田出雲守政統

光久公御代御談合役御詰役

出雲守政統子

慶安四辛卯九月より明暦二丙
中年二月迄御家老座詰

鎌田筑後正信

後 蔵人

民部少輔有榮子

寛文元辛巳年之比より御談合
役横目頭兼役

山田民部有隆

勘解由久則子

寛文二壬寅年之比より御談合役ニ而
御物座詰寛文三癸卯八月御家老御役替

町田勘解由久昌

豊後守久賀二男

寛文三癸卯年九月より御詰役

島津清太夫久共

後 久元

右衛門佐久詮子

御談合役ニ而御物座詰年号
月日不詳

新納又左衛門久仁

図書頭久通子

寛文六丙午年七月十三日より同
十二壬子年九月十六日迄御詰役

島津又五郎久胤

後 出雲

伴兵衛兼屋子

寛文六年丙午七月十三日より御詰
役同十年庚卯八月御家老御役替

肝付伴三郎兼方

勘解由久昌子

寛文六丙午年七月十三日より横目
頭兼役天和元辛酉年九月六日死去

町田源左衛門久盛

後 久英

中務久茂子

寛文七丁未年十二月朔日より御談合
役同八年戊申正月廿三日迄御詰役

島津新八郎久賢

市正忠広子

寛文九己酉年正月より御詰役

島津大学忠守

左近忠時子

寛文九己酉年二月廿三日より
御詰役横目頭兼役

種子島左近久時

後 藏人

狩野介宗弘子

寛文九己酉年十月十五日より御談合役
延宝二甲寅年十一月六日御家老御役替

平田新左衛門宗正

作左衛門尉忠精子

延宝五丁巳年二月三日より御詰役
天和元酉八月十日御家老御役替

北郷宗次郎忠昭

三郎右衛門忠朝子

御詰役横目頭兼役
年号月日不詳

島津丹波忠興

近江忠影子

延宝五丁巳年三月十九日より
横目頭兼役
但元禄十一戊寅年十一月廿七日
御家老座詰御免 綱貴公御代迄

新納四郎左衛門久辰

後 近江

新八郎久賢養子実ハ

中務久茂三男

天和二壬戌年八月廿一日より御詰役
同年十一月廿七日より横目頭兼役

島津助太夫久文

後 内記

兵部少輔貞昭子

天和二壬戌年八月廿一日より御詰役
同年十一月廿四日より横目頭兼役

伊勢兵部貞顯

帯刀久元子

天和二壬戌年八月廿一日より御
詰役 貞享四丁卯十二月廿五日
より御物座詰 綱貴公御代迄

島津主計久年

又六久岑後嗣

貞享元甲子年七月二日より
同三丙寅年迄御詰役

島津伊賀久寛

光久公之十男初而

立家準御二男家

貞享三丙寅年閏三月十五日より
御詰役 綱貴公御代迄

島津大蔵久明

図書久竹子

貞享三丙寅年閏三月十五日より
元禄十丁丑年閏二月十四日迄

島津又五郎久雅

御詰役
綱貴公御代迄

貞享三丙寅年閏三月十六日より御詰役横日頭兼役 元禄八乙亥年正月廿五日より御國遣座御詰役 綱貴公御代迄

貞享三丙寅年閏三月十五日より御詰役

綱貴公御代御詰役

貞享五戊辰年より御詰役
但元禄二己巳年より
光久公御隠居御方御詰役

元禄元戊辰年十二月廿六日より同五壬申年十一月九日迄御物座御詰役

元禄十二己卯年五月十日より同十四辛巳年十月十日迄御國遣座御詰役

吉貴公御代若御年寄

宝永二乙酉年十月十日より同七庚寅年六月廿八日御家老御役替

宝永三丙戌年十二月三日より同七庚寅年四月十四日御家老御役替

後 久英

久洪

下野

図書

近江久辰子

新納四郎左衛門久珍

又左衛門久了養子

新納五郎右衛門久仲

後 民部

十右衛門久明二男

伊集院越中久照

後 遠江

右近重永子

福寝八郎右衛門清雄

後 孫左衛門

將監久將嫡孫

川上式部久重

藏人久時子

種子島彈正伊時

中務久輝養子

島津備前久貴

後 内記

主殿久兼子

宝永四丁亥年九月十一日より同六己丑年十一月十三日御家老御役替

肝付主殿兼柄
太郎兵衛忠澄養子

宝永七年庚寅年正月廿二日より正徳元辛卯年六月御役内死去

桂 織部久祐

正徳元辛卯年八月廿一日より同五乙未年十月十八日御家老御役替

島津内膳久兵
孫太郎義頼後嗣

正徳元辛卯年八月廿一日より同五乙未年十二月御家老御役替

比志島隼人範房
宗次郎忠昭養子

正徳五乙未年十月十八日より享保二丁酉年十月朔日御家老御役替

北郷作左衛門久嘉
備前久達子

正徳五乙未年十二月十八日より享保三戊戌七月御家老御役替

島津奎久武
刑部久弘子

享保二丁酉年十月十五日より同五子九月御家老御役替

伊集院藏人久矩
名越右膳恒渡

享保三戊戌二月より同五子十一月御家老御役替

上野久尚子

享保四亥十一月より同十一年七月御免 繼豊公御代迄

川上久馬久東
後 一学

清太夫久近子

享保五子五月より同十六亥六月御免 繼豊公御代迄

島津彦太夫久富
作助久伴後嗣

享保六丑正月より同九辰正月御家老御役替享保六丑年より 吉貴公御隠居御方勤

義岡右京久守

繼豊公御代若御年寄

享保八卯十二月より同十一年
午五月御家老御役替

享保十一年十二月より元文二巳四月御役内死去
享保十五戌四月より 吉貴公御隠居御方勤

享保十六亥六月より元文四未
五月御免

享保十九寅二月より元文二巳
五月御免

享保二十卯十二月より元文元
辰十二月御家老御役替

元文二巳四月より延享四年卯十二月御免
宗信公御代迄 吉貴公御隠居御方勤

元文二巳五月より同四未十二
月御家老御役替

元文五申十月より寛保三年亥
閏四月御家老御役替

寛保三年亥十二月より延享二
年丑十二月御家老御役替

延享三年寅四月より同五年辰二月
御家老御役替 宗信公御代迄

宗信公御代若御年寄

島津織部久達二男

平岡八郎太夫之品

八郎左衛門久矩養子

島津登久置

壹岐久侶養子

島津市太夫久雄

源太夫行明子

二階堂舎人行篤

長左衛門久明後嗣

顯姓左京久周

六郎次郎久基養子

島津權左衛門久道

後 仲
久隣

藏人久時二男

種子島織部時成

左衛門久林子

島津氏部久甫

兵部貞栄子

伊勢兵部貞起

大蔵久純子

島津大蔵久丘

伊織久近子

延享五年辰正月より同年七月
御家老御役替

島津弥市郎久富

延享五年辰七月より寛延二年
巳六月御家老御役替

主殿久貫子
島津主殿久柄

寛延二年巳九月より宝暦七年
丑七月御役内死去

藤次郎久智子
島津左近久起

寛延二年巳九月より宝暦五年
亥七月御役内死去

新八郎久昌子
島津内記久臈

寛延四年未閏六月より宝暦二年申九月
御免 重年公御代迄 繼豊公御隠居御方勤

重年公御代若御年寄

藤蔵後嗣
河野八郎左衛門通興

宝暦四年戌二月より同九年卯六月
繼豊公御代迄 出動御用筋御家老申談被相勤
不及加判 重豪公御代迄

李久蒙養子
島津奎久峯

重豪公御代御側詰

小右衛門親安子
川上頼母久品

天明五年巳正月十一日より同六
年午五月十三日御家老江御役替

重豪公御代若御年寄

内記清方養子

宝暦六年子二月より明和六年丑十二月朔日御
家老御役替宝暦十二年午十二月賜小松称号 禰寝式部清香

助右衛門国陣子
川田伊織国福

宝暦八年寅七月より同十三年
未十月御家老御役替

小平太久幸子

宝暦九年卯六月より同十一年
巳八月御家老御役替

島津小平太久金

宝曆十二年午五月より同十三年未正月御役内死去

宝曆十三年未七月より明和二年酉八月依願御役御免

明和二年酉九月より安永四年未七月廿七日依願御役御免

明和六年丑十二月朔日より天明元年丑十一月四日依願御役御免

明和八年卯二月廿五日より安永九年子七月十四日御役内死去

安永二年巳五月十五日より同九年子六月十一日御家老御役替

安永九年子六月十一日より天明七年未三月九日御家老御役替

安永九年子十月十一日より寛政二年戌十二月廿八日到 齊宣公御代御家老御役替

天明元年丑閏五月十五日より同六年午六月廿九日御免

求馬久房子

島津求馬久醇

後 久教

大蔵久通後嗣

島津大蔵久近

後 靱負

八郎左衛門通興養子

河野八郎左衛門通古

後 外記

四郎左衛門久邦子

新納波門久侶

主殿久馮子

島津采女久芳

十太右衛門久命子

島津大進久起

奎久峯子

島津奎久邦

後 豊前

兵部貞起子

伊勢兵部貞矩

後 伊豆

播磨

島津備前貴傳二男

末川織衛久救

後 将監

藤馬実詮子

天明二年寅正月十五日より同七年未三月九日御家老御役替

登久置子

菱刈大炊実祐

天明五年巳正月十八日より同八年申九月三日 齊宣公御代御家老御役替

島津登久連

軍兵衛金麻子

天明六年午三月朔日より同七年未四月十一日御家老御役替

関山礼金郷

後 金暉

久馬久儔養子

天明六年午五月十三日より寛政五年丑七月廿八日到 齊宣公御代御家老御役替

川上久馬久致

齊宣公御代若年寄

求馬久教子

天明七年未四月十一日より寛政元年酉十一月朔日御家老御役替

島津求馬久純

単人範常子

寛政元年酉十一月朔日より同三年亥三月廿一日御家老御役替

比志島要人範章

安房久福子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子七月八日御役内死去

喜入安房久量

市正久澄子

寛政三年亥三月廿一日より同年十二月廿八日御家老御役替

山岡稚楽久容

左内政一子

寛政三年亥十二月廿八日より同十一年未十一月廿五日依願御役御免

小林中太兵衛政史

後 一学

内膳久風子

寛政四年子八月十三日より享和三年亥二月朔日御家老御役替

頼娃左京久喬

後 信濃

伊賀久金子

寛政五年丑五月十九日より文化三年寅八月六日御家老^五御役替

島津左中久美

後 將監

此面種寿子

寛政七年卯八月廿八日より同九年巳三月朔日御家老^五御役替

高橋縫殿種央

造酒則正子

寛政七年卯八月廿八日より享和元年酉十二月六日御家老^五御役替

赤松造酒則方

後 市正

小右衛門親安子

則決

寛政九年巳三月朔日より同十二年申六月廿四日御役内死去

川上頼母久品

仲久健子

享和元年酉十二月十二日より文化元年子九月廿八日依願御役御免

島津 仲久美

内蔵久和養子

享和三年亥二月朔日より文化五年辰六月三日御家老^五御役替

島津安房久備

内蔵久儒子

享和三年亥二月朔日より若年寄大目附勤文化三年寅四月廿八日御家老御役替^{同九}年申正月十一日より到^{齊興公御代}再役大目附勤同十一年戌三月廿七日御家老御役替

新納駿河久邦

後 内蔵

登久連養子

文化二年丑五月廿八日より同五年辰閏六月廿八日御家老御役替

島津登久兼

右膳久命養子

文化四年卯正月十一日より同八年未八月十五日御役内死去到^{齊興公御代}

島津仁十郎久芳

頼母久克子

文化五年辰九月廿九日より同十四年丑五月十三日到^{齊興公御代}依願御役御免

島津相馬久譜

齊興公御代御側詰

清悦恒正養子

天保三年辰閏十二月十二日御家老格 調所笑老衛門広郷

御側詰勤同九年戌八月廿五日

御家老^五御役替御側詰兼務

佐次右衛門方恭子

天保七年申三月廿一日より御家老御用向ハ承二不及一往高輪御用部

屋^五致日勤候様被仰渡天保十三年寅正月廿九日依願御免

八郎右衛門久陽子

天保十五年辰三月七日より御側役兼務 碓山將曹久徳

弘化三年午五月廿九日御家老^五御役替 後 島津

御側詰兼務嘉永四年亥二月三日

宰相様御方御家老御用向ハ勿論

御側詰御用向も兼相勤候様

被仰付同年七月七日依願御免

齊興公御代若年寄

文化九年申正月十一日より同年四月十八日御役内死去

安房久量子

喜入主水久欽

文化九年申十二月朔日より同十一年戌十月廿九日御家老^五御役替

監物久甫嫡孫

町田監物久視

市正則決子

文化十一年戌十月廿九日より文政五年午三月廿七日御役御免

作左衛門久陣養子

赤松造酒則敏

文化十一年戌十一月朔日より文政七年申四月廿八日御家老^五御役替

北郷作左衛門久珉

後 主膳

文化十四年丑六月廿一日より文政二年卯正月十五日御家老 ^江 御役替	勘解由盛常子	佐渡
市田三生義宣	後 長門	内記
文化十五年寅二月十五日より天保二年卯五月廿八日御家老 ^江 御役替	河内行充子	
二階堂伊豆行典		
文政二年卯二月六日より同四年巳十一月七日病死	矢柄久壽子	
島津矢柄久宅		
文政五年午三月朔日より同十一年子十一月十七日御家老 ^江 御役替	伊織佐賢子	
川田信濃佐摸		
文政七年申十月廿八日より同九年戌五月廿八日御家老 ^江 御役替	内膳久中子	
島津内膳久長	後 丹波	
主殿久謙子		
島津主殿久輔		
文政九年戌六月十五日より天保五年午十月廿日御役内病死	下総隆邑子	
菱刈奎之介隆観		
文政十一年子十一月十一日より天保五年九月十八日御家老 ^江 御役替	将監久美子	
島津縫殿久品	後 将監	
天保五年午十月朔日より弘化元年辰十二月廿二日依願御免	登久兼子	
島津 登久備		
天保五年十月朔日より大目附勤		
同十年亥六月十八日御家老 ^江 御役替	主水久欽子	

天保六年未正月十一日より嘉永四年亥七月十七日御家老 ^江 御役替	喜入多門久道
權十郎久明養子	
天保八年酉七年廿四日より	樺山伊織久寛
丹波久長子	
天保九年戌十二月廿五日大目附勤	島津主計久宝
同十一年子十二月十八日御家老 ^江 御役替	造酒則敏子
赤松主水則甫	
天保十二年八月丑八月廿日より	将監久満子
弘化三年五月五日より同四年未三月廿六日御家老 ^江 御役替	末川久馬久平
久馬久芳子	
弘化五年申正月廿六日より嘉永二年酉二月十二日御家老 ^江 御役替	川上東馬久封
求馬久昶嫡孫	
嘉永三年戌正月十九日より	島津求馬久馮
太郎右衛門久典子	
嘉永四年亥七月十七日より	島津右門久福

「十五」 光久公以来横目頭大御目附大目附大目附格相勤候人之事

光久公御代横目頭

寛文二壬寅年より同七年七月十二日死去

中務忠榮養子

島津安芸久雄

御役被仰付候年月日不詳

寛文二壬寅年之比

御役被仰付候年月日不詳

承応三甲午年之比

寛文六丙午年七月より

寛文六年七月より

寛文八戊申十月四日より延宝
二甲寅年迄

寛文十一辛亥年二月より延宝
七己未年四月九日迄

寛文年間之比より宝永元甲申
年二月十五日迄

寛文十一辛亥年二月より天和
二千戌年御家老^五御役替

御役被仰付候年号不詳貞享二
乙丑年九月迄

長寿院盛淳子

阿多内膳忠栄

勘解由久則子

町田勘解由久昌

右衛門佐久詮子

新納又左衛門久仁

又六重通子

入来院石見重頼

勘解由久昌子

町田源左衛門久盛

後 久英

伴兵衛兼屋子

肝付伴三郎兼方

安芸久雄子

島津中務久輝

左近忠時子

種子島左近久時

後 藏人

松千代養子実ハ

家久公御子

伊集院十右衛門久朝

市正忠広子

島津大学忠守

三郎右衛門忠朝子

島津丹波忠興

延宝元癸丑年之比

延宝四丙辰年九月廿日より同
五年二月三日御談合役御役替

延宝五丁巳年三月十九日より
天和二壬戌十一月廿七日迄貞
享五戊辰年三月八日寄役被仰
付同年九月三日御免

延享五丁巳年四月より天和三
癸亥年二月御免

延宝六戊午年之比より元禄四
年辛未十二月十八日迄

天和元辛酉年九月より同三年
癸亥十二月廿七日迄

天和二壬戌年十二月廿四日より
貞享四丁卯年八月十四日迄

天和二壬戌十一月廿四日より
但貞享元甲子年より寺社奉行兼役
元禄八乙亥年二月廿一日迄到
綱貴公 吉貴公御代二度御役

天和二壬戌十一月廿七日より元禄十一
戊寅年十二月十七日御免 綱貴公御代迄

貞享二乙丑年三月三日より元禄三庚午
年三月三日迄同十二己卯三月四日より
宝永四丁亥年九月十日迄若御年寄御役
替到 綱貴公 吉貴公御代再御役

因幡久国子

川上將監久将

作左衛門慰忠精子

北郷宗次郎忠昭

近江忠影子

新納四郎左衛門久辰

後 近江

豊後守久賀子

島津豊前久邦

諸右衛門久広子

樺山権左衛門久清

弥三郎忠康養子

桂太郎兵衛久澄

兵部少輔貞昭子

伊勢兵部貞頼

帯刀久元子

島津主計久年

後 帯刀

忠雄

新八郎久賢養子

島津助太夫久文

後 内記

主殿久兼子

肝付左門兼柄

後 帯刀

綱貴公御代横目頭

典膳
主殿

近江久辰子

貞享五戊辰年九月廿三日より
元禄八乙亥四月廿四日迄

新納四郎左衛門久珍

元禄十二己卯年三月二日より宝永二乙酉年
十月九日若御年寄御役替

種子島彈正伊時

光久公御十男初而立
家準御二男家

元禄十三庚辰年正月十日より
同十四辛巳年迄

島津大藏久時

又兵衛親重後嗣

元禄十四年辛巳より宝永二乙酉年
十月御免到 吉貴公御代

入米院主馬重矩

吉貴公御代大御目附

豊前久邦養子

宝永二年乙酉九月十一日より正徳
元辛卯年八月廿日若御年寄御役替

島津内膳久兵

宝永二乙酉年九月十一日より同七
庚寅年七月廿一日若御年寄御役替

太郎兵衛久澄養子
桂 宇右衛門久祐
後 織部

中務久輝養子

宝永三丙戌年三月十一日より同
年十二月二日若御年寄御役替

島津備前久貴

宝永四丁亥年九月廿一日より正徳五
乙未年十月十八日若御年寄御役替

宗次郎忠昭養子
北郷作左衛門久嘉

宝永五戊子年三月六日より正徳五乙
未年十二月十八日若御年寄御役替正
徳元辛卯年九月賜島津之御称号

備前久達子

佐多内記久武

後 島津左

孫太郎義頼後嗣

宝永六己丑年五月廿三日より大御目
附格御側詰正徳元辛卯年八月廿日若
御年寄御役替

比志島隼人範房

源左衛門政恒子

宝永七庚寅年正月廿五日より
正徳二壬辰年八月御免

鎌田源左衛門政躬

刑部久弘子

後 要人

正徳元辛卯年八月廿一日より享保二
丁酉年十月十五日若御年寄御役替

伊集院十右衛門忠寛

後 藏人

正徳元辛卯年八月廿一日より大
御目附格御側詰享保三戊二月若
御年寄御役替

名越右膳恒渡

久重
久矩

三郎右衛門忠朝二男

清太夫久近子

正徳二壬辰年八月十一日より
享保五子五月若御年寄御役替

島津彦太夫久富

遠江久昭養子

正徳五乙未年十月廿一日より
享保三戊二月御役内死去

伊集院織部久富

後 久郷

作助久伴後嗣

正徳五乙未年十二月十八日より
享保六丑正月若御年寄御役替

義岡右京久守

孫兵衛重敦子

享保二丁酉十月十五日より同八卯
五月御役内死去 緒豊公御代迄

菱刈孫兵衛重之

後 藤馬

八郎左衛門久矩養子

享保三戊戌年二月廿八日より同十一年
十二月若御年寄御役替 緒豊公御代迄

島津十郎左衛門久置

後 登

島津織部久達二男

享保五子五月より同八卯十二月
若御年寄御役替到 繼豊公御代

繼豊公御代大御目附

享保六丑七月より大御目附格
同七年寅十月御免

享保七寅九月より同八卯十二
月御家老御役替

享保七寅十二月より同十九寅
二月若御年寄御役替

享保八卯十二月より同二十卯
七月御免

享保八卯十二月より同九辰三
月御役内死去

享保九辰六月より同十一午六
月御家老御役替

享保九年辰八月より同十九寅
七月御役内死去

享保十一年六月より元文二巳
五月若御年寄御役替

享保十一年十一月より同十六
亥六月若御年寄御役替

平岡八郎太夫之品

新右衛門長隆子

相良新右衛門長賢

後 大藏

大藏久明子

島津左仲久春

源太夫行明子

二階堂舍人行宏

後 行生

行篤

帶刀仲休子

島津主計久名

後 帶刀

外記忠鎮子

新納左京久敦

相馬忠郷子

樺山主計久初

監物宗淨後嗣

平田平太左衛門住充

藏人久時二男

種子島織部時成

沓岐久侶養子

島津市太夫久雄

享保十二未十二月より同二十
卯八月御家老御役替

享保十九寅二月より同二十卯
十二月若御年寄御役替

享保二十卯七月より元文五申
七月御役内死去

享保二十卯十二月より寛保三
年亥六月御家老御役替

元文二巳五月より延享三年寅
六月依願御役御免

元文二巳十一月より寛保元年
酉十一月御免

寛保元酉正月より同年二月御
家老御役替

寛保元辛酉年二月より延享四年卯
七月御家老御役替 宗信公御代迄

寛保元辛酉年三月より同二年戌十
月御役内死去 古貴公御隠居御方

寛保元辛酉年三月より同三年亥
六月御免 吉貴公御隠居御方

甚左衛門興嘉養子

堀四郎太夫興昌

長左衛門久明後嗣

額姓左京久周

織部久郷子

伊集院十藏久達

左内久知子

島津右平太久品

後 久郷

御旗本小笠原郷左衛門

信孟子

小笠原郷左衛門長賢

市郎兵衛有英子

山田新助有從

太郎右衛門政高子

鎌田太郎右衛門政直

島津助之丞忠守二男

郷原金太夫久雄

大藏長賢子

相良典礼長以

十左衛門政常子

鎌田衛衛政興

伊織久近子

寛保元年辛酉年十一月より延享五年辰正月若御年寄御役替到 宗信公御代

島津弥市郎久純
後 久富

寛保三年亥閏六月より延享五年辰正月御家老御役替到 宗信公御代

新左衛門正房子
平田新左衛門正輔
後 掃部
朝貞

延享三年寅四月より同四年卯七月御家老御役替到 宗信公御代

要人政躬子
鎌田源左衛門政昌

宗信公御代大御目附

延享四年卯七月より寛延二年巳八月十四日御役内死去

次郎左衛門苞親子

本田作左衛門由親

延享五年辰正月より寛延四年未閏六月御免到 重年公御代

十郎太夫久美子

山岡齋宮久房

後 久柄

藤藏後嗣

延享五年辰正月より寛延二年巳九月朔日より繼豊公御方勤 寛延四年未閏六月若御年寄御役替到 重年公御代

河野八郎左衛門通興

左京久敦子

延享五年辰八月より宝曆三年酉七月御家老御役替到 重年公御代

新納次郎兵衛久品

後 内藏

右京久守子

寛延二年巳六月より同年九月御家老御役替

義岡左平太久中

後 相馬

助右衛門国陣子

寛延二年巳九月より宝曆八年寅七月若御年寄御役替

川田与右衛門国福

後 伊織

次郎左衛門政分子

寛延二年巳九月より同三年午十一月御家老御役替到 重年公御代

市来次郎左衛門政方

後 左中

重年公御代大御目附

島津中務久輝

寛延四年未二月より宝曆二年申八月御免

小林左内政一

七郎右衛門種房子

寛延四年未閏六月より宝曆五年亥十一月御家老御役替

高橋縫殿種展

甚左衛門輝兼子

宝曆二年申七月より同四年戌二月御役内死去

諏訪勘解由邦兼

十藏久達子

宝曆三年酉七月より同五年亥六月御家老御役替

伊集院十藏久東

御旗本小笠原郷左衛門信孟子

宝曆五年亥正月より再役被仰付同年十二月依願御免

小笠原郷左衛門長賢

重豪公御代大御目附

主計久初子

宝曆五年亥九月より同六年子二月御家老御役替

樺山左京久倫

後 久智

小藤次正甫子

宝曆五年亥九月より同十年辰七月御家老御役替

鎌田隼人正芳

藤馬重之子

宝曆六年子十二月より同九年卯六月御家老御役替

菱刈藤馬実詮

太七郎久音子

宝曆七年丑十月より同十二年午十一月依願御免 明和二年酉七月再役明和四年亥四月御家老御役替

桂太郎兵衛久中

後 織部

宝曆八年庚七月より明和二年
酉七月御家老御役替

宝曆九年卯六月より同十四年
申二月御役御免

宝曆十年辰六月より明和二年
酉九月若御年寄御役替

宝曆十四年申三月より明和六
年丑十二月朔日御家老御役替

明和二年酉九月より安永二年
巳五月十五日若御年寄御役替

明和四年亥四月十三日より明和六
年丑十二月朔日若御年寄御役替

明和六年丑十二月朔日より同八
年卯八月廿八日御家老御役替

明和六年丑十二月十八日より安
永六年酉十二月十二日依願御免

明和七年寅七月廿六日より大御目附
格安永二年巳五月十五日より大御目附
同四年未七月廿八日御家老御役替

明和七年寅七月廿六日より大御
目附格安永二年巳五月十五日より
大御目附同五年申十月十一日
御家老御役替

仲久隣子

島津 仲久智

左源太恒索子

名越左源太恒篤

八郎左衛門通興養子

河野八郎左衛門通古

主膳久茂子

喜入主馬久福

十太右衛門久命子

島津十太右衛門久起

後 大進

四郎左衛門久邦子

新納四郎久侶

後 波門

齋宮久房子

山岡齋宮久澄

矢柄久富子

島津矢柄久壽

甚右衛門則茂養子

赤松甚右衛門則正

後 造酒

林左衛門行通養子

出右衛門行道家兼統

二階堂 郁行且

後 主計

明和八年卯二月廿五日より天
明二年寅三月朔日依願御免

安永二年巳五月廿八日より同九
年子十月十一日若御年寄御役替

明和九年辰六月十九日より大
御目附格天明三年卯九月廿三
日より大御目附御役替同七年
未二月廿六日病死

安永七年戌正月十一日より天明
二年寅正月十五日御家老御役替

安永七年戌六月朔日より天明二年
寅正月十五日若御年寄御役替

安永八年亥十二月朔日より同九
年子六月十一日若御年寄御役替

安永八年亥十二月朔日より天明元
年丑閏五月十五日若御年寄御役替

天明元年丑閏五月十五日より同六
年午五月十三日若御年寄御役替

天明二年寅正月十五日より寛政元年酉十
一月六日到 齊宣公御代御家老御役替

天明二年寅二月朔日より同五年
巳正月十一日御側詰御役替

内蔵久品子

新納内蔵久儔

兵部貞起子

伊勢兵部貞矩

郷九郎久儔養子

町田監物久連

後 久甫

甚五兵衛通興子

宮之原甚五大夫通直

後 主膳

藤馬実詮子

菱刈孫兵衛実祐

後 大炊

空久峯子

島津 空久邦

島津備前貴儔二男

末川織衛久教

後 將監

久馬久儔養子

川上久馬久致

左源太恒索子

名越左源太時央

後 右膳

小右衛門親安子

川上頼母久品

造酒則正子

天明五年巳正月十八日より寛政七年卯八月廿八日刻 齊宣公御代若御年寄御役替 赤松造酒則方

軍兵衛金麻子

天明四年辰十二月十五日より大御目附格同六年午三月朔日若御年寄御役替 関山糺金郷

齊宣公御代大目附

主計行且子

天明七年未四月十一日より寛政五年丑四月十五日御家老御役替 二階堂部行充 後 主計

安房久福子

寛政元年酉十一月朔日より同三年亥三月廿一日若御年寄御役替 喜入右衛門久欽 後 安房

内膳久風子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子八月十三日若御年寄御役替 頼娃左京久喬 久量

内蔵久品子

寛政四年子九月十三日より享和三年亥二月朔日若御年寄御役替文化五年辰九月廿九日再役同九年申正月十一日若御年寄御役替大目附勤 新納次郎四郎久邦 後 駿河

喜三右衛門有雄子

寛政五年丑五月十五日より同七年卯八月廿八日御家老御役替 山田司有儀 後 伯耆

伊織国福嫡孫

寛政七年卯八月廿八日より同十一年未十一月十五日御家老御役替 川田伊織佐賢 明遠

登久運養子

寛政七年卯八月廿八日より文化二年丑五月廿八日若御年寄御役替

島津登久兼

寛政十二年申六月九日より享和三年亥二月朔日若御年寄御役替

内蔵久昶養子

享和三年亥二月朔日より文化四年卯正月十一日若御年寄御役替

島津市太夫久備

文化二年丑五月廿八日より同四年卯九月十三日御家老御役替

右膳久命養子

文化四年卯正月十一日より同年十一月十九日御家老御役替

島津仁十郎久芳

文化四年卯正月十一日より同九年申十二月朔日到 齊興公御代若御年寄御役替

典膳政為子

文化二年丑二月廿五日より大目附格御側役勤同三年寅十二月十九日御役内死去

鎌田源左衛門政興

文化三年寅四月十八日より大目附格同四年卯二月六日大目附同

後 主税

文化四年卯九月十三日より同九年申正月十一日到 齊興公御代若御年寄御役替

左京久智子

文化五年辰閏六月六日より同七年卯八月廿七日到 齊興公御代御家老御役替

檀山権左衛門久言

文化四年卯正月十一日より同九年申十二月朔日到 齊興公御代若御年寄御役替

齊興公御代大目附并大目附格

河内行充子

文化九年申正月十一日より同十五年寅二月十五日若年寄江御役替

二階堂左門行孝
後 行典

伊織佐賢子

伊豆

文化十年酉十二月廿三日より文政五年午三月朔日若年寄江御役替

川田伊織佐模

後 信濃

内膳義額子

文化十年酉十二月廿三日より文政六年未六月十七日依願御役御免

畠山救馬義矩

後 式部

休八兼通子

文化十二年亥十二月九日より大目附格御用人勤文政二年卯三月朔日依願御役御免

伊集院隼衛兼当

後 久珍

波門久侶子

久直

文政二年卯二月六日より大目附格寺社奉行勤同七月十六日病死

新納織部久武

源左衛門久亮子

文政二年卯九月十三日より大目附格寺社奉行勤同四年巳四月廿日病死

町田主馬久譜

播磨貞矩養子

文政五年午三月朔日より同十一年子二月廿六日大目附上席同十三年寅正月十四日御役内病死

伊勢伊織貞皎

善兵衛篤斐子

文政五年午四月朔日より大目附格同七年申八月六日病死

上野善兵衛篤實
後 帶刀

下総隆邑子

文政五年午六月廿五日より同十一年子十一月十七日若年寄江御役替
菱刈奎之介隆観

右近清家養子

文政六年未九月十一日より天保三年辰五月十五日被聞召通趣有之御免
小松式部清透

後 帶刀

直衛苗兼子

文政十三年寅正月十一日より天保四年巳二月廿一日御家老江御役替
諏訪甚六武兼

後 治部

権十郎久明養子

天保二年卯五月廿八日より同八年酉八月廿四日若年寄江御役替
樺山権十郎久寛

後 伊織

登久兼子

天保四年巳二月廿一日より同五年午十月朔日若年寄江御役替大目附勤
島津登久備

仁十郎久芳養子

天保五年午九月十九日より同七年申二月九日御家老江御役替
島津仁十郎久明

後 佐渡

久浮

相馬久謹子

天保七年申十月廿二日より弘化二年巳六月六日御家老江御役替
島津頼母久武

造酒則敏子

天保七年申七月十六日より大目附格寺社奉行勤同八年酉七月廿四日より同十二年丑廿八日若年寄江御役替
赤松主水則甫

丹波久長子

天保九年戌十二月廿五日より若年寄大目附勤同十一年子十二月十八日御御家老江御役替
島津主計久宝

八郎右衛門久陽子

天保十一年子十二月十八日より

碓山八郎右衛門久徳

御側役勤同十五年辰三月七日

後 藤馬

御側詰に御役替

又 将曹

清悦恒正養子

天保三年辰三月廿九日より大目附格

調所笑左衛門広郷

御則役勤同十一月十二日御家老格御側

詰勤に御役替

佐次右衛門方芳子

天保五年午正月十一日より大目附

岩下半佐衛門道格

格白金御附御用人御側役兼務

後 典膳

同七年申二月廿一日御側詰に御役替

将監久備子

天保十年亥六月十八日より

末川主水久平

大目附格寺社奉行勤同十二年丑

後 久馬

三月十五日より大目附弘化三年午

五月五日若年寄御役替

久馬久芳子

天保十二年丑三月十五日より寺社奉

川上東馬久封

行動弘化三年午五月五日若年寄

に御役替

主殿久明子

弘化二年巳六月六日より同五年申

島津中務久陽

正月廿六日より寺社奉行勤嘉永四

後 主殿

年亥十二月十二日依願御免

伊豆行典子

弘化二年巳九月十六日より嘉永二年酉 二階堂左門行経

二年酉十二月廿六日依願御免

後 主計

右膳盛尚養子

弘化五年申正月廿六日より嘉永三年戌

名越右膳盛胤

三年戌正月十九日より大番当勤

同年三月十四日依願御免

八太夫行佐養子

弘化五年申四月廿二日より御側役勤

二階堂志津馬行健

嘉永二年酉二月廿七日他所向に

嚮合不宜聞得之趣被聞召通御免

右市久柄子

嘉永二年酉十一月九日より

川上矢五太夫久視

嘉永四年亥正月十一日より

藏人正謀子

鎌田圖書正純

「十六」 御檢地高之事

一 高頭九拾万七千四百拾七石九升五合六勺七才

内

三万三千七拾九石五斗貳升七合六勺九才

享保十巳年より嘉永四亥年迄增高

外

壹万三千五百石貳斗三升六合

享保十巳年より嘉永四亥年迄引入

高拾七万四千貳百五拾九石五斗七升五勺六才

内

壹万六千七百七拾八石貳斗九合五勺九才

壹万五千三百拾八石四斗四升三合八勺壹才

壹万八百三拾六石五斗八合五勺七才

六千四百拾石貳斗四升貳合八勺八才

貳千四百拾三石貳斗三升五合貳勺四才

千三百八拾四石貳斗五升四合壹勺七才

百八拾四石八斗壹升四合五勺八才

表 万御藏入

大 島

徳之 島

喜界 島

沖永良部 島

与論 島

屋久島 率

行支配 同 口永良部 島

百貳拾七石五斗貳升九合壹勺七才	御船手付	諏訪瀬島
七拾五石八斗三合壹勺貳才	七島之内	平島
三百九拾五石六斗四升四合七勺九才	右同	宝島
三石九斗九升六合八勺七才	右同	臥蛇島
八拾貳石三斗五升四合壹勺七才	右同	中之島
三拾五石貳升貳合九勺壹才	右同	惡石馬
百拾石八斗壹升三合壹勺貳才	右同	口之島
四拾五石壹斗六升四勺壹才	御船手付	黒島
三拾六石五斗六升五合六勺貳才	右同	硫磺島
貳拾石六斗八升九合五勺八才	右同	竹島
拾貳万石貳斗八升壹合五勺貳才	薩隅日諸所	帖佐与御蔵入
高五万貳千貳拾八石七斗九升九合六勺九才	申年御買入高	
内 四千四拾七石壹斗貳升六合二勺九才	出米掛	
内 百五拾八石三斗貳升九合貳勺	寺院御買入高	
百四拾四石貳斗貳升九合貳勺四才	但 出米掛	
三百九拾貳石六斗壹升七合四才	鹿籠金山附	
内 三百拾四石貳斗八升貳合六勺六才	出米掛	
貳千八百八拾八石貳斗貳升三合四勺九才	山ヶ野金山附	
内 千九百四拾壹石九斗五升八合五勺九才	出米掛	
右四行帖佐組方打込被仰渡候	松寿院殿御合力高	
三百石	所務二而渡	
百石	一世御養料	
三千九百九拾三石壹斗六升七合貳勺六才	右御蔵入諸給地部下リニ而所務渡并帖佐与御蔵入高之内御用地損高引高	

外 六百六石三斗貳升九才	實物上地
一 高三千三百七拾七石九斗九升貳合六勺八才	御内用方 御蔵入
一 高壹万五千四百四拾四石貳斗七升壹合四才	新田 御蔵入
一 高四百五拾四石九合五勺壹才	享保新田 御蔵入
一 高三百貳拾石七斗六合三才	尾畔御飯屋付 御蔵入
一 高百七拾石	慈徳院様御仏納料 御蔵入
一 高三拾石	弥勤院五所務三而渡 御蔵入
一 高拾石	津友寺五所務三而渡 御蔵入
一 高壹石八斗六升四合五勺八才	不斷光院五所附高 御蔵入
一 右四行寺社方支配御代官所附取納	
一 高三千七百七石三斗壹升貳合壹勺七才	給地高帖佐与 御蔵入
一 高貳千六拾三石五斗貳合貳勺六才	御鷹方五千石之内 御蔵入
一 高貳万石貳合壹勺九才	貳万石方 御蔵入
一 高三万石貳才	三万石方 御蔵入
一 高壹万八千七百五拾八石貳斗八升四合七才	國分与 御蔵入
内 百石	月桂院様 御仏納高
但 出米掛	
一 高四千拾貳石九斗貳升八合三才	御納戸御新田御蔵入
一 高貳千九百三拾六石四斗九升七合七勺三才	御鷹方五千石之内
一 御蔵入	
一 高貳百九百三拾六石四斗九升七合七勺三才	御納戸付永代上地
外 御蔵入	
拾六石	實物上地
一 高四拾五万三千貳拾七石貳斗九升六合七勺八才	諸給地

内

三拾三万五千七百拾三石貳斗六升四合八才
拾壹万七千三百拾四石三升貳合七勺

一 高九万四千貳百三拾石七斗九勺四才
一 高壹万七千三百六拾五石九升七合壹勺

内

八千九百五拾七石四斗壹升壹勺六才

内

貳百七石五斗三升三合四勺壹才

右壹行正八幡宮油田領白鳥山市来阿弥陀領

六百貳拾九石貳斗壹合四才

貳百七拾七石貳斗六升五合壹勺

三拾石貳合八才

拾九石九斗八升九合五勺八才

拾九石

三石

六拾九石九斗九升九合九勺壹才

貳拾石壹斗七升七合七勺壹才

四拾九石五斗七升貳合貳勺九才

四拾貳石

三拾五石貳斗八升五合七勺

右拾壹行御代官所附取納

拾五石貳斗四合八勺五才

拾五石貳斗九合五才

右貳行寺社方附取納

八千四百七石六斗八升五合三勺壹才

一 高七千拾三石貳斗三升八合貳才

内

千五百八拾七石七斗五升九勺七才

五千四百貳拾五石四斗八升七合五才

鹿兒島上

諸郷郷士

琉球國司領

神社仏閣領

鹿兒島

御仏餉料

護摩所領

仁王門附

愛宕領

磯天神領

昆沙門領

智惠光院

磯月船寺

善行院附

威光院附

藥師院附

萩原天神領

野元藥師領

諸郷

諸屋敷高

鹿兒島

諸郷

諸郷

諸郷

諸郷

一 高千貳百五拾四石四合八勺九才

神社仏閣 屋敷高

百拾七石九斗三升五勺七才

千百三拾六石七升四合三勺貳才

鹿兒島 諸郷

「十七」 諸給地出物米之事

嘉永四亥年分

一 出米四万七千貳百六拾三石八斗壹升貳合

高五拾七万四千八百五拾五石六斗七升五合五勺八才

内

高壹万六拾壹石六斗壹升貳合八勺三才

米八百貳拾三石九斗貳合

高壹石二付八升壹合

右金山附高諸御買入高上地高御藏人方取納有之候諸御仏餉高

高七石九斗壹升三合五勺三才

但金山高千四拾九石七斗五合七勺壹才之内旅人共為相開地面二而出米不相掛候

相掛候

高貳百七石五斗三升三合四勺七才

但国分正八幡宮御油田并白鳥山市来阿弥陀領出米不相掛候

高七合九勺七才

但勺才高ニテ出米不相掛

高六拾四石七斗七升七合七勺

右島津助之丞持高ニ而候処、桜島燃ニ付無納地相成、出米御免

高三拾四万四千八百六拾壹石四斗壹升貳合壹勺九才

米貳万七千九百三拾三石七斗七升五合

高壹石二付出米八升壹合

右鹿兒島諸士並寺院高

高拾貳方五千貳百八拾貳石八升貳合壹勺九才

米壹万七百七拾四石貳斗五升九合

高壹石ニ付出米八升壹合

五百拾五石八斗八升九合八勺九才

高三拾九石六斗三升四合八勺貳才

右壹行桜島郷士持高桜島燦ニ付出米御免

右三州郷士高

高九万四千貳百三拾石七斗九勺四才

米七千六百三拾貳石六斗八升六合

高壹石ニ付出米八升壹合

右琉球高

右出米ハ江戸・京・大阪琉球并諸島在番之諸士賦銀ニ引飯米其外 御

上下、又ハ間之上下共乗船取仕立他国行之時、万賦銀相掛候

諸士之外壹身賦以下之者

右賦飯米并乗船取仕立賃飯米帖佐組御高より相払

御召塗青竜丸

右同小早小鷹丸

御足次小蝶丸

御挽船吉行丸

御挽船栗島丸

水伝間

御次鯨船三艘

使船拾壹艘

御網船釣流船

行列直船小早弥生丸

御玄関船小早常盤丸

御乗物船関千年丸

御湯殿船関行吉丸

御納戸船関崎行丸

御数寄屋并表方関榮寿丸

御膳所船関若江丸

御馬船関根占丸

御馬船荷方大崎丸

右同荷方五代丸

右同荷方觀音丸

右同荷方松原丸

右同荷方末行丸

宿船小早浮好丸

合船數三拾五艘

右御船取仕立之儀ハ御物方より相払候

御家老船塗関住江丸

御側御用人船関権現丸

御側役船関野崎丸

奥掛船関永吉丸

右同関潮行丸

右同関松田丸

御留守居御使番乗合船関武吉丸

御供目付船関鶴崎丸

表方乗合船関国吉丸

右同関宮内丸

御船奉行乗合船関音羽丸

合船數拾壹艘

右御船取仕立摸合方より相払候

御兵具所船関早海丸

右同荷方川内丸

合船數貳艘

右御船取仕立帖佐組より相払候

「十八」 半出物米高之事

當時無之候

給地方新田畠正徳二辰享保二酉三月高奉行書出之趣を以書載申候、半出物高と申候ハ郡奉行檢地仕、竿入高相究候得共、御支配不相濟内ハ古高之出米半分上納仕儀ニ而漸々支配相濟次第、古田同前之出米上納仕御法様ニ候、依之右高ハ給地高頭ニ書載不申候
但右之通支配相濟、古田同前之出米仕御法様候得共、宝永六丑年より郡奉行檢地、竿入高相究候得ハ古田同前之出来相掛候付、當時半出米高無之候、然共支配無之内ハ現高ニハ相込不申候

要
用
集
三

「十九」 御直并御前元服且又元服之御礼御内証元服被仰付候

人数家筋連名次第之事

御直元服之儀ハ、御身近キ御一門、其外歴々之家筋、別而御奉公功有
之子供為被仰付事候処、近年、御一家段々多罷成、末々ニ成候而も例
之様成候而御家末々之別され迄も、御直元服も有之重キ儀候処、至頃
日輕々數罷成、古法之御格式ニ相替候、依之此節元服之次第被相究候
只今迄、御名代元服と相唱、書附等ニも致来候者、御前元服と被相改
候、御直元服被仰付等を此節之通玄蕃殿御名代ニ而被仰付候元服を
御名代元服と相唱書附等も可致候
島津權左衛門嫡子島津孫四郎・相良源太夫嫡子相良新助^註先頃被仰付
候元服之格唱等御内証元服と被仰付候、元服之御礼次ニ可書載候、御
家老加冠ニ而元服之儀ハ其節之、御意次第可被仰付候、不及進上
物、御内ニ而御目見、元服之人支度半上下
右之通元文二年巳七月被仰出候事

御内証元服之儀半上下ニ而被仰付来候得共、向後長袴ニ被仰付候旨、
安永八年亥八月被仰渡置候事

二男迄 御直元服

島津周防殿	島津安芸殿
島津兵庫殿	島津下総
島津讃岐殿	島津若狭
嫡子 御直元服二男 御前元服	
島津隼見	島津勘解由
島津凶書	島津左膳
島津豊後	新納四郎
島津主殿	島津豊前
島津右門	
嫡子 御直元服	

川上筑後	鎌田図書
島津將曹	伊勢雅楽
樺山主殿	市田友鶴
桂太郎兵衛	義岡藏人
島津郷十郎	山岡齊宮
島津求馬	島津靱負
喜入多門	島津相馬
町田監物	末川近江
島津内記	島津蔵人
島津与十郎	川上式部
北郷作左衛門	新納内蔵
島津要人	樺山伊識
島津矢柄	新納衛守
吉利仲	町田式部
大野多宮	伊集院亘
島津内蔵	鎌田典膳
伊集院伊膳	平田靱負
種子島彈正殿	仁礼小臣
島津石見	猪飼御太郎
額娃織部	稻富數馬
小松相馬	新納喜右衛門
入来院平馬	比志島平四郎
比志島靜馬	諏訪全右衛門
肝付左門	土持孫兵衛
菱刈全之介	渋谷四郎左衛門
諏訪數馬	大熊左内
島山藤次郎	板鼻清太夫
右左内・清太夫事元服之儀ハ到其節得御差図候様被仰渡候	
御前元服	
川田將監	谷川次郎兵衛
郷原 転	村橋 昇

北郷哲五郎 伊勢平四郎
本田信二郎 肝付新太夫
倉山作太夫 三崎新八郎
右新八郎事元服之儀ハ到其節得御差図候様被仰渡候
元服之御礼

桂 内記 川上左太夫
北条 織部 本田六左衛門
伊集院 靜馬 高崎權太夫
御内証元服

川上 竜衛 相良治郎
島津 仲 小笠原 徹
高橋 縫殿 河野八郎左衛門
二階堂 源太夫 赤松主水
二階堂 源太夫 宮之原主計
名越 右膳 山田喜三右衛門

右元服之儀に付而ハ以前ハ其家柄、又ハ依申分二男迄モ 御直又ハ
御前元服段ニ為被仰付事候得共、重キ儀候処、御家末之別され迄被
仰付候得ハ輕、敷罷成候、依之右之通此節御格式被相究候間、向後右
家筋迄を御格式之通被仰付、此外何様之申分雖有之候御取揚無之候間、
右御格式之通可相心得旨正徳元卯九月被 仰出候事
右之通被極置候以後三崎文太夫・北条十左衛門・島津權左衛門・二階
堂舎人・名越左源太・相良源太夫・小笠原郷左衛門・河野安之右衛門、
右八人嫡子右之通被仰付、家筋引次被仰付候由、段ニ被仰渡置候事
右之通被極置候以後川上頼母・二階堂主計・赤松造酒・宮之原主膳・
谷川次郎左衛門・山田靜馬、前条同断被仰渡置候事

「二十」 家格被相定候人并家筋連名次第之事
附家ニ付年頭八朔御太刀進上人數之事

島津周防殿

島津与十郎

島津兵庫殿 島津讃岐殿 島津安芸殿 島津下総 島津若狭 川上筑後 島津将曹 島津隼見 島津豊後 島津豊後 島津主殿 島津右門 島津勘解由 島津左膳 新納四郎 樺山主殿 島津豊前 桂太郎兵衛 島津郷十郎 島津求馬 喜入多門 町田監物 島津内記 島津与十郎 北郷作左衛門 島津要人 島津矢柄 吉利仲 大野多宮 島津内蔵

寄合

島津矢柄 島津内蔵 島津伊識 島山藤次郎 鎌田図書 伊勢雅楽 義岡藏人 山岡齊宮 島津勘負 島津相馬 末川近江 島津藏人 川上竜衛 川上矢五太夫 島津 郷原 川上式部 新納内蔵 樺山伊織 北郷男吏 北郷哲五郎 桂内記 島津 新納衛守 町田式部 伊集院 新納主税 伊集院隼衛

右之通一所持・一所持格・寄合・寄合並家格、正徳二年辰九月被相定
候旨、被仰出置候処、寄合・寄合並之内、前後之次第相替、且又被召

伊集院 伊膳	種子島彈正殿	島津 石見	額 娃 織 部	小松 相馬	入来院 平馬	比志島靜馬	肝付 左門	菱刈 奎之介	諏訪 數馬	川田 將監	畠山 藤次郎	鎌田 國書	伊勢 雅樂	市田 友龜	義岡 藏人	川上 式部	新納 內藏	伊集院 亘	山田 軒	本島 休左衛門	志岐小左衛門	田尻 務	中西十郎左衛門	島津 隼見	島津 左膳	島津 門十郎	島津 求馬	島津 內記
平田 靱負	高橋 縫殿	仁礼 小吉	二階堂 郁	二階堂 源太夫	名越 右膳	北条 織部	本田 信二郎	相良 治部	平田 正十郎	堀四郎左衛門	小笠原 徹	河野八郎左衛門	赤松 主水	洪谷 左膳	宮之原主計	関山 紇	岩下佐次右衛門	上野 司	猪飼 御太郎	稻富 數馬	伊集院 靜馬	倉山 作太夫	谷川次郎兵衛	村橋 昇	本田 加賀守	井上 駿河守	面高連長院	
寄合並																												
一所持格																												

入候人も有之、享保二年酉六月被相改置候処、其以後段々被召入候人
も有之、当分右之次第候事

一所持・一所持格并寄合・寄合並家筋連名之次第	島津下総	島津若狭	川上筑後	島津將曹	島津隼見	島津凶書	島津豊後	島津主殿	右三家同格	島津右門	島津勘解由	島津左膳	一所持格	右両家同格	新納四郎	樺山主殿	島津豊前	桂太郎兵衛	島津郷十郎	島津求馬	喜人多門	町田監物	島津内記	島津与十郎	右同	右両家同格	北郷作左衛門
	末川近江	島津藏人	川上竜衛	川上矢五太夫	島津登	郷原軒	川上式部	新納内藏	樺山伊織	北郷男吏	北郷哲五郎	桂内記	島津仲	新納衛守	町田式部	伊集院亘	新納主税	伊集院隼衛	山田軒	鎌田典膳	平田靱負	高橋縫殿	仁礼小吉	二階堂郁	二階堂源太夫		

島津要人	一所持格	島津矢柄	吉利仲	大野多宮	右両家同格	島津内藏	一所持格	伊集院伊膳	右同	種子島彈正殿	島津石見	顯娃織部	小松相馬	入来院平馬	比志島靜馬	肝付左門	菱刈奎之介	諏訪數馬	川田將監	一所持格	島山藤次郎	鎌田図書	伊勢雅樂	市田友露	義岡藏人	山岡斎宮	島津靱負	島津相馬	家二付年頭御太刀進上人数	島津周防殿	島津兵庫殿	島津讃岐殿	島津安芸殿
------	------	------	-----	------	-------	------	------	-------	----	--------	------	------	------	-------	-------	------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	--------------	-------	-------	-------	-------

名越右膳	北条織部	本田信二郎	相良治部	平田正十郎	堀四郎左衛門	小笠原輅	河野八郎左衛門	赤松主水	渋谷左膳	宮之原主計	関山糺	岩下佐次右衛門	上野司	猪飼御太郎	稲富數馬	寄合並伊集院靜馬	倉山作太夫	谷川次郎兵衛	村橋昇	本田加賀守	井上駿河守	面高連長院	吉利仲	大野多宮	島津内藏	伊集院伊膳
------	------	-------	------	-------	--------	------	---------	------	------	-------	-----	---------	-----	-------	------	----------	-------	--------	-----	-------	-------	-------	-----	------	------	-------

島津下総	島津若狹	川上筑後	島津将曹	島津隼見	島津凶書	島津豊後	島津主殿	島津右門	島津勘解由	島津左膳	新納四郎	樺山主殿	島津豊前	桂太郎兵衛	島津郷十郎	島津求馬	喜入多門	町田監物	島津内記	島津与十郎	北郷作左衛門	島津要人	島津矢柄	吉利仲	大野多宮	家二付八朗御太刀進上人数	島津周防殿	島津兵庫殿	島津讃岐殿
------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	--------	------	------	-----	------	--------------	-------	-------	-------

島津内藏	伊集院伊膳	種子島彈正殿	島津石見	顯娃織部	小松相馬	入来院平馬	比志島靜馬	肝付左門	菱刈奎之介	諏訪數馬	川田將監	島山藤次郎	鎌田図書	伊勢雅樂	市田友露	義岡藏人	川上式部	新納内藏	伊集院	山田	小番大島休左衛門	右同志岐小左衛門	右同田尻	右同中四十郎左衛門	島津与十郎	北郷作左衛門	島津要人
------	-------	--------	------	------	------	-------	-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	----	----------	----------	------	-----------	-------	--------	------

島津安芸殿
島津下総
島津若狹
川上筑後
島津將曹
島津隼見
島津函書
島津豊後
島津主殿
島津右門
島津勘解由
島津左膳
新納四郎
樺山主殿
島津豊前
桂太郎兵衛
島津郷十郎
島津求馬
喜入多門
町田監物
島津内記

島津矢柄
吉利仲
大野多宮
島津内藏
伊集院伊膳
種子島彈正殿
島津石見
顯娃織部
小松相馬
入来院平馬
比志島靜馬
肝付左門
菱刈左之介
諏訪數馬
川田將監
島山藤次郎
鎌田圖書
伊勢雅樂
市田友龜
川上式部

「廿一」 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事

一 島津周防殿事ハ 吉貴公御二男二而元文二年己三月十八日越前島津家跡相統被仰付、同三年午八月廿七日陽州帖佐郷之内、薩州吉田郷之内重富一所之地拝領被仰付候
一 島津因幡殿事ハ 吉貴公御三男二而延享元年子五月廿五日和泉家名跡相統被仰付、同年十二月廿一日薩州指宿郷之内、顯娃郷之内、今和泉一所之地拝領被仰付候

「廿二」 島津之御称号被下置候面、二男以下名字拝領被仰付候事

勝山 島津周防殿
村橋 島津兵庫殿
末川 島津讃岐殿
和泉 島津安芸殿
赤山 島津下総
村森 島津若狹
碓山 弘化三年午五月島津之御称号拝領
二男以下碓山之家号相名乗候様被仰付候

三崎 島津隼見
山林 島津函書
倉山 島津豊後
九良賀野 島津主殿
佐多 正徳元九月十五日島津之称号拝領
二男よりは佐多為名乗可申旨被仰付候
谷川 島津勘解由
三木原 島津左膳
北郷 此節拝領ニ而無之候得共嫡子之外右名字為名乗可申旨被仰渡候
平屋 島津郷十郎
柳 島津求馬
基太村 此節拝領ニ而無之候得共嫡子之外右名字為名乗可申旨被仰渡候
黒岡 島津内記
細滝 島津与十郎
岩越 島津要人
川久保 島津矢柄
土岐 島津石見

華 崎 天保十三年寅八月花崎家号拜
領被仰付候 島津 靱負

谷 崎 島津 相馬

博 多 此節拜領二而無之候得共嫡子之外右名字
為名乗可申旨天保五年午二月被仰渡候 島津 藏人

栗 掛 橋 島津 登
川 島津 仲

右之通正徳元卯十一月被仰出候事

〔廿三〕 御家之字名乗来候面、江二男以下名乗之字拜領被仰

付候事

附実名遠慮之字被仰渡候事

久 紀 島津 周防殿

右二男迄ハ永代久之字御免三男より拜領之字被用筈二、嘉永四年亥九月被
仰渡置候 島津 兵庫殿

朗 右二男迄ハ永代久之字御免、三男より拜領之字被用筈二享保十九年寅六月
被仰渡置候 島津 讃岐殿

將 但高祖父備前貴殿事、元文二年巳七月從 総州様御諱之貴之御一字

拜領二付、嫡々右貴之字永代被相用候様被仰渡候事

右二男迄ハ永代久之字御免、三男より拜領之字被用筈二正徳三年巳三月被
仰渡置候

郷 島津 安芸殿

右二男迄ハ永代久之字御免、三男より拜領之字被用筈二天保十年亥九月被
仰渡置候

藏 島津 下総
英 島津 若狹

右二男迄ハ永代久之字御免被成候、三男よりハ此節被下候字を用可被申候

親 川上 筑後

安 島津 将曹

明 島津 隼見

尚 島津 凶書

季 島津 豊後

輝 島津 主殿

直 島津 右門

清 島津 勘鮮由

守 島津 左膳

時 新納 四郎

資 樺山 主殿

資 島津 豊前

勝 桂太郎 兵衛

記 島津 郷十郎

房 島津 求馬

譽 喜入 多門

実 町田 監物

用 島津 矢柄

用 吉利 仲

用 大野 多宮

夷 義岡 藏人

雄 山岡 斎宮

兼 郷原 軒

伊集院 靜馬

右嫡子迄ハ代々久之字御免被成候、二男よりハ此節被下候字を用可申候

島津内記 島津与十郎 北郷 作左衛門

島津要人 島津内蔵 伊集院 伊善

島津靱負 島津相馬 末川 近江

島津蔵人 川上 龜衛 川上 矢五太夫

島津登人 川上 式部 新納 内蔵

樺山伊識 北郷 男吏 北郷 哲五郎

桂内記 新納 衛守 町田 式部

伊集院 巨 新納 主税 伊集院 隼衛

倉山 作太夫 谷川 次郎兵衛 村橋 昇

右人数ハ夫々庶流ニ而候得共、寄合并以上之格式ニ候故、嫡子計ハ代々久之字被成御免候、二男以下ハ嫡家ニ被下候字を用可申候、靱負蔵人事、二男以下之儀ハ未何分不被仰渡候

寄合并以上之者共嫡子迄ハ代々久之字被成御免候、右格之者寄合并以下之格ニ被仰付儀有之節ハ久之字用申間敷候

島津 石見

右石見家之儀御一族ニ而無之候得共、御名字御家之字御免被成置候二男よりハ御名字并御家之字名乗申間敷候

顯娃 織部

右嫡子代々御家之字御免被成置候、二男よりハ御家之字名乗申間敷候

良 龜山 勇

真 山田 諸二

有 大島 休左衛門

經 追水 善左衛門

右者共ハ御直別之家筋ニ候間、嫡子迄ハ代々久之字御免被成候、二男よりハ此節被下候字を用可申候

伊作家庶流若松氏嫡流

長 若松 彦兵衛

薩州家庶流大田氏嫡流

用 大田 小平次

薩州家庶流寺山氏嫡流

用 寺山 源右衛門

越前島津家庶流出所不相知

行 宇宿 孫六郎

伊作家庶流西氏嫡流加世田郷士

長 西 宗右衛門

薩州家庶流西川氏嫡流鶴田郷士

用 西川 六太夫

阿蘇谷氏嫡流羽月郷士

時 阿蘇 宇三太

和泉氏嫡流斷絶庶流島津讀岐殿家来

氏 和泉 宗兵衛

伊作家庶流恒吉氏嫡流島津内匠殿家来

長 恒吉 休次郎

越前家庶流知覽氏嫡流島津豊前家来

行 知覽 孫八郎

右名乗之字并領被仰付候間、則名乗改可申候

伊作家庶流

長 石見 与吉郎

右伊作名字名乗来候得共、伊作家之儀ハ貴久公より御家被遊御兼帶御家筋之儀候間、伊作名字名乗儀無用可仕候、依之右石見名字并領被仰付候、名乗之字ハ長之字用可申候

師久公御嫡子伊久之二男家島津豊前家来

氏 相馬 惣持院

貞久公御六男家島津豊前家来

氏 石坂 九右衛門

右者共 御家御直別之家筋ニ候故、其者嫡流之嫡子迄ハ家号之儀被遊御免候、勿論他家ニ致奉公候節ハ右之家号名乗申間敷候、且又名乗之字并領被仰付候間、当家督之者より名乗改可申候

川上 嫡家 川上 筑後 佐多嫡家 島津 右門

- 新納 嫡家 新納 四郎 樺山嫡家 樺山 主殿
北郷 嫡家 島津 豊前 町田嫡家 町田 監物
伊集院嫡家 伊集院靜馬 山田嫡家 山田 諸三
- 右家号之者、當時家中に罷居候者、又ハ組ニ不被入置者ハ依其家ニ御直別之家号相避、別家号ニ被相改事候間、右跡之者名字可改旨申出候ハ、於嫡家遂吟味、可改名字可申出旨、右嫡家之面ニ申渡
- 福昌寺^五被附置候町田名字之者ハ前より誤有之、為被附置事候間、嫡家之者ハ同嫡家迄ハ今迄之通、町田之家号名乗可申候、二男ニ而も組ニ被召入者ハ町田名字被遊御免候、組ニ不被召入二男以下ハ別名字名乗可申候
- 足輕并諸座附、又ハ諸士之家来、又ハ寺門前・町・浦・在郷之内 御家御氏族之端と申候由ニ而 御直別等之家号、又ハ御家之字名乗来候者有之由候、向後左ニ相記候家号、又ハ 御家之字名乗中間數候
- 川 上 佐 多 新 納
樺 山 北 郷 柱
喜 入 町 田 伊 集 院
龜 山 山 田 碓 山
大 島 義 岡 迫 水
阿 蘇 谷 相 馬 石 坂
- 御直別、又ハ伊集院・町田家杯之家中ニ樋ニ同名筋之者、家来罷成、今迄致隨身来主人之名字名乗来候者ハ其家中ニ而其家筋之嫡家之嫡子迄ハ主人之家号被遊御免候、勿論其家を罷出、他家ニ致奉公候節ハ右之家号名乗中間數候
- 諸士家来之内、無紛其主人家ニ御附人筋之者、又ハ其家ニ罷在、前ニ御奉公之筋を以、為拙働無紛者ハ今迄名乗来候 御直別又ハ伊集院・町田等之家号ニ而も其者嫡流之嫡子迄ハ被遊御免候、勿論他家ニ致奉公候節ハ是又右之家号名乗中間數候
- 一 家之字・頼之字・朝之字又忠之字、於御家中一切用申間數候
一 当 公方様御名乗之字、於御家中名乗之字ニ一切用申間數候
一 從 家久公、至 綱貴公、御名乗之字、当 御代ニハ於御家中名乗之

- 字ニ一切用申間數候
- 一 忠休公御家督之節ハ 綱久公より以来之 御名乗之字、用申間數候
右之通相心得、御代替之節、可致沙汰旨被仰出候
一 只今迄ハ名乗之字、二字共ニ同字ニ而候得共、一字ハ別字を用来候様仕候得ハ名之違も候間、名乗之同字有之儀ハ不苦候、乍然兼而被仰出置候名之遠慮仕候格式之人之名乗と同字ハ遠慮可仕候
右条之儀、正徳三年己三月より同年至八月被相定之事
- 一 吉・宗・家・重・治
右当 公方様 大納言様 竹千代様御名乗之字ニ而候故、右文字唱迄も遠慮被仰付候事
- 一 綱・貴・吉・休・顯・繼・豊・兼又信之文字唱迄も遠慮、光・平・延之三文字遠慮唱不苦候事
右之通遠慮可仕旨段、被仰渡候事
- 一 重・家・治・竹・豊・繼・洪・忠・基・豪
右文字実名致遠慮、同唱之文字迄も可致遠慮候
但竹之字ハ先年被仰渡置候通、名ニ付候儀も可致遠慮候、且又基之字名乗ニ用候儀無用可仕候、同唱之文字ハ心次第可仕旨被仰渡候
- 一 貴・吉・信・宗・年
右文字実名可致遠慮候、同唱之文字ハ遠慮不及候
- 一 朝・頼・久
右文字先年より被仰渡候通可相心得候
右三行 御実名之文字以前より段々遠慮被仰渡置候得共、右之通被相定、右外之文字ハ不及遠慮旨、宝曆五年亥十一月被仰渡候
- 一 齊
右文字致遠慮同唱之文字迄も可致遠慮旨、天明七年未正月仰被渡候
- 一 豊・宣
右文字致遠慮同唱之文字迄も可致遠慮旨、天明七年未正月被仰渡候
慶・家・峯・元・文・久・保・要・達・忠・興・邦・英・弥・種・操
・隨・桃・啓・閑・治・郁・順・祝・孝・苗

一 右文字同唱迄も可致遠慮旨、被仰渡候
淨・岸・真・含

一 右式字ツ、統候名并実名同唱迄遠慮被仰渡候
右式行遠慮之儀文化十二亥年迄段々被仰渡候事

一 定・智・盛・乙・并・立・壯・諸・和・浴・銀・豊・左・嘉・亮・貢
・末・勝・春・昵・淑・聰・兵・彬・恒・千・松・丈・幸

一 右文字同唱迄も可致遠慮旨、被仰渡候
喜・代

一 右統候名并外之文字ニ而もきよと唱候名ハ末迄も遠慮可仕旨被仰
渡候

一 右式行遠慮之儀文政九戌年迄段々被仰渡候事
紀・周・報・夙・博・太・親・篤・勝・玲・寵

一 右文字同唱迄も可致遠慮旨被仰渡候
千松・刑部・隠岐・伊勢・越中・随真

一 右相統候名可致遠慮旨被仰渡候
泰・初・暉

一 右公儀御子様御名文字ニ而同唱迄可致遠慮旨被仰渡候
右三行遠慮之儀文政十亥年より天保十亥年迄段々被仰渡候事

一 聰徳・松齡・晴雲・知鏡・真華
右式字ツ、読候文字并同唱迄遠慮被仰渡候

一 虎
右文字并同唱遠慮被仰渡候

一 右式行可致遠慮旨天保十一子年より嘉永四年迄段々被仰渡候事

「廿四」 御一門并独礼之面、御城代御家老を始諸士以下之者

共迄妻手札帳面等ニ書様之次第被相究候事

一 御一門并独礼之面、御城代御家老之妻ハ札改方帳面ニ何某奥と可書記
候

一 但独礼格之人ニ而無之共、妻独礼格之人ニ而候ハ、何某奥と可書記候
右人数之外一所持・一所持格・寄合・寄合并之面、妻ハ何某内と可書

一 記候、手札ニも同前可書記候
諸士并以下之者共、妻此以前ハ女房と書記候得共、一統ニ妻と可書記
候 右之連正徳三年巳九月被相定候事

「廿五」 御分国豎横并廻町間之事

但諸島除之

一 四拾壹里 亥子之間 出水之内米之津より
巳午之間 佐多御崎迄

一 四拾八里 ハ海路 倉岡より
四拾四里 丑寅之間 坊津迄
未申之間

一 内拾里 ハ海路

一 百三拾里 貳拾六町拾六間三尺 薩州之廻

一 百拾五里 拾壹町四拾間四尺 隅州之廻

一 九拾五里 七町拾間半 日州之内 諸果郡之廻

一 御分国惣廻貳百貳拾六里四町六尺 薩州之廻

一 内五拾三里 貳拾九町六間貳尺 陸路之廻

一 百七拾貳里 拾町四間四尺 陸路之廻

〔廿六〕 他領境目番所辺路番之事

出水之内 野間之原	大口之内 小川内	加久藤之内 求麻口
野尻之内 紙屋	高岡之内 去川	都城之内 梶山
都城之内 寺柱	志布志之内 八郎ヶ野	志布志之内 夏井
志布志之内 川原田	志布志之内 たところ	志布志之内 大河内
志布志之内 まにハ	志布志之内 新地	志布志之内 ひしゆかの
志布志之内 うしろ谷	都城之内 石原	都城之内 細目
都城之内 大峯河内	都城之内 内山	都城之内 正応寺口
都城之内 中野	都城之内 杉木水流	都城之内 前村
都城之内 諏訪口	都城之内 野首	都城之内 福留
都城之内 蟲木	都城之内 留木野	都城之内 牧野
都城之内 高野	都城之内 秋丸	都城之内 飯屋
都城之内 淵川	都城之内 走持	都城之内 大野
都城之内 正矢谷	都城之内 平山	勝岡之内 高畑
勝岡之内 大谷口	勝岡之内 わらひかもと	山之内 巻之渡
山之内 日当瀬	山之内 飛松	須木之内 堂屋敷
須木之内 八重尾	須木之内 田代ヶ八重村	須木之内 抽蘭村

飯野之内 大河平	大口之内 山之口	大口之内 青木
大口之内 小木原	大口之内 平出水	大口之内 船之川
大口之内 木之氏	大口之内 牛尾	大口之内 登尾
山野之内 荒平	山野之内 上場	出水之内 切通
出水之内 中之塩屋	出水之内 狩集	出水之内 芭蕉
出水之内 青椎	出水之内 高鼻	出水之内 脇本本御飯原地
出水之内 黒浜	出水之内 編堀岩	出水之内 上場
加久藤之内 徳満	内之内 八重	野尻之内 市之瀬
諸具郡高城之内 岩屋ヶ野	高岡之内 野崎	高岡之内 上畑
高岡之内 法華嶺	高岡之内 粗木	高岡之内 八代
高岡之内 浦之名村田之原		

〔廿七〕 津口番所之事

出水之内 米之津	出水之内 脇本	水引之内 京泊
坊津	山川	内之内 浦
志布志	甌島所番	長島之内 三船所番
加世田之内 片浦	倉岡	阿久根之内 倉津所番
鹿見島之内 大門口	市来	高山之内 波見

一 田布施

「廿八」 異国方番所遠見番所之事

- 七島之内
- 一口之島
- 七島之内
- 中之島
- 七島之内
- 宝島
- 屋久島之内
- 一口永良部島

右四ヶ所所在番所有之

- 内之浦之内
- 火崎
- 長島之内
- 小浜崎

- 阿久根之内
- 片山

但火崎之儀正徳二辰二月より番人惣様御引せ、番所迄被建置、遠見番ハ津口番人より兼役ニ相勤居候得共、寛保三亥五月以前之通定番被

仰付候

- 加世田之内
- 一 高崎
- 佐多之内
- 一 立目崎
- 下飯島之内
- 一 手打
- 坊泊之内
- 一 弁才天嶽
- 上飯島之内
- 一 里村
- 上飯島之内
- 一 中飯島
- 頭娃之内
- 一 長手崎
- 頭娃之内
- 一 長手崎

右拾ヶ所遠見番所有之

- 出水之内
- 一 多々崎
- 鹿籠之内
- 一 枕崎
- 大崎之内
- 一 益丸村
- 日置之内
- 一 山田村
- 頭娃之内
- 一 脇村
- 久志之内
- 一 雙嶺崎
- 山川之内
- 一 児ヶ水

右七ヶ所ハ先年異国船遠見番所被建置、其以後御引取相成居候処寛政十年年又ハ先年之通被相建候

- 市来之内
- 一 弁才天嶽
- 水引之内
- 一 小唐
- 高城郡高城之内
- 一 十五社山

右三ヶ所遠見番所・火立番所迄一ヶ所ニ而相勤候様被仰付置候

- 出水之内
- 一 脇本
- 阿久根之内
- 一 倉津所番
- 水引之内
- 一 京泊

- 加世田之内
- 一 片浦
- 一 坊津
- 一 山川

一 志布志

右津口番所之儀、寛政十年年遠見番兼帶被仰付置候

「廿九」 火立番之事

- 串木野之内
- 一 羽島崎
- 串木野之内
- 一 唐船ヶ尾
- 高江之内
- 一 遠見ヶ尾

但

羽島崎之儀正徳二辰年より番人引取波仰付、番人并火立道具等は迄通被召置候旨被仰渡置候処、及破壊居又々天保六未年右羽島崎ハ遠見番所被召建、火立番所兼務ニ而郷土勤番被仰付候

- 伊集院之内
- 一 飯牟札嶽
- 一 鹿兒島之内
- 一 横井
- 一 鹿兒島之内
- 一 草牟田
- 右六ヶ所正徳二辰二月より番人惣様御引せ、番所并火立道具被差置候

「三十」 御武具之事

一 御鎧九領

- 一 領 忠久公御鎧
- 一 領 同 御写
- 一 領 綱久公御鎧
- 一 領 綱久公御鎧
- 右 同

但市来湯田村稻荷社ハ御奉納之処、御兵具方格護被仰付候

一領 但願娃開聞宮^ニ惟新様より御寄進^ニ而候処右同断
 一領 但惟新様御召御鎧^ニ而御側^ニ被召置候処右同断
 一領 但霧島山御宮^ニ義弘公より御寄進^ニ而候処右同断
 一領 但竜伯様御鎧^ニ而御側^ニ被召置候処右同断
 一領 但齊興公御召御鎧^ニ而候処右同断
 綱久公御着籠一領
 綱久公御着籠籠手一具
 御巡見具足九領
 但御納戸より御兵具所^ニ預り
 綱貴公御腹巻一領
 華御着籠二領
 但御頭巾有
 御旗拾巻流
 御讓物
 内一流 頼朝公御旗、八幡大菩薩之文字文寛上人筆
 一流 貴久公時雨之御旗
 一流 白御旗藤原朝臣貴久天文十五年丙午五月吉日と有之
 一流 義久公白御旗
 但藤原朝臣義久慶長三年戊戌五月吉日と有之
 二流 練豊公神名御旗
 一流 一文字御旗
 一流 十文字御旗
 二流 綱貴公御旗
 一流 綱貴公御証宛御旗
 御兵次具足式千九百八拾三領
 内百領 騎馬具足

式百領 歩行具足
 八領 仕寄奉行具足
 式領 仕寄小頭具足
 四拾領 仕寄足輕具足
 式百五拾領 小頭具足
 百六拾六領 御持簡方足輕具足
 百式拾六領 御長柄方足輕具足
 三拾五領 昇方足輕具足
 七拾五領 小旗方足輕具足
 七拾五領 大旗方足輕具足
 千九百五領 御先足輕具足
 一領 次騎馬具足
 着籠式拾領
 胸掛式百六拾七掛
 内三拾式掛 中間方
 式百三拾五掛 人足方
 小泉御胃一頭 御讓物
 但秀吉公より 惟新様御拝領
 小泉御胃御写一頭
 御鎗三拾三本
 但銘々御拵有
 内一本 小銘長吉作 御讓物
 一本 加藤鏖 右同
 一本 宗近作 右同
 御杖鎗一本
 但御拵有
 御長刀五拾五振
 御弓千五拾八張
 但白木弓塗木弓兵次弓込ル
 御矢壺万四千五百七拾六本

但兵次矢込ル	
御矢根七万千拾四本	
但兵次矢込ル	
御鉄砲千三百九挺	
但兵次鉄砲込ル	
御狩籠七拾四腰	
但四腰	御護物
陰御太刀一腰	御護物
陽御太刀一腰	右同
一本杉御馬印三本	右同
内巻本御写	
团扇丸御馬印大小六本	
但銘はれん相付	
此外之御道具略ス	
右御当地御兵具所御道具	
御召初御鎧老領	
御旗六流	
内式流 八幡大菩薩之御旗	
式流 時雨之御旗	
式流 白御旗	
沙綾御昇六流	
但御紋付	
具足百貳拾五領	
内一領 騎馬具足	
一領 仕寄具足	
拾七領 小頭具足	
三拾七領 御先足輕具足	
三拾四領 御長柄足輕具足	
三拾五領 御持筒足輕具足	

御弓百六拾張	
但白木塗木弓込ル	
雜矢三千六百七拾貳本	
矢根貳千七百五拾四本	
鉄砲百七拾貳挺	
御鎗貳百本	
但御備鎗込ル	
御長刀三拾六振	
御長柄槍三拾老本	
此外之御道具略ス	
右拾貳行江戸芝御兵具藏急事方	
御巡見御鎧拾領	
具足八百五拾七領	
内式拾三領 騎馬具足	
五領 仕寄騎馬具足	
百領 歩行具足	
七拾三領 小頭具足	
五百五拾五領 足輕具足	
拾領 小頭具足	急事方
貳拾七領 騎馬具足	右同
五拾四領 足輕具足	右同
拾領 人足胸掛	右同
御中間胸掛式拾掛	
塗木弓八拾三張	急事方
雜矢五千三百七拾本	
内八百五拾貳本	急事方
矢根千七百八拾貳本	右同
鉄砲七拾挺	右同
御手鎗七本	
但誰様御道具ニ而何比より被召入置候訳不相知候	

一 御長柄鎗七拾本 急事方
鎗九拾六本 急事方

此外之御道具略ス

一 合塩燭千六百五拾八斤七拾五又四分八毛
一 白塩燭五百五拾斤三拾目
右拾式行堀端御兵具藏有之

「冊二」 御納戸御道具之事

御太刀拾七腰

内一腰 光世作、長式尺六寸号小十文字

但頼朝公より忠久公御拝領

一腰 無銘長三尺三寸式部号大十文字

但書同断

一腰 兼永作、平物作長壹尺七寸八部号綱切

但二代之 太守忠時公関東方ニ而承久三年之兵乱、宇治川
を御渡、敵七人御討取被成候付、被遊御帶、夫より御代々
御伝来之御重物ニ而右依御軍功、伊賀国長田郷地頭職御給
候

一腰 青江恒元作、八幡十と切物有長式尺五寸壹部半

但藤野恕世より差上候

一腰 備前国真利作、長式尺六寸分半

但家久公より 光久公^江被遊御讓候

一腰 康次作、長式尺八寸三部

但將軍義昭公より 義久公御拝領

一腰 衛府御太刀、貞真作、長式尺式寸三部

但後水尾院様より 家久公御拝領

一腰 正恒作、長式尺四寸九部

但家光公より 家久公御拝領

一腰 備前長光作、長式尺三寸式部半

但秀忠公より 家久公御拝領

一腰 吉重作、長式尺九寸八部

但中納言様御太刀

一腰 備前守家作、長式尺壹寸六部

但家光公より 光久公御拝領

一腰 衛府御太刀、無銘、長式尺三寸七部

但光久公より 綱久公^江被進候

一腰 備前国貞行作、長式尺六寸四部半

但近衛大納言家久公より 吉貴公^江被進候

一腰 三条吉家銘有、長式尺五寸分半

但浄岸院様為御遺物 重豪公御拝領

一腰 衛府御太刀備前兼光作、長式尺壹寸

但出所不相知候

一腰 兵庫鎮御太刀、無銘、長式尺三寸七部半

但天智天皇御太刀と申伝、頼娃牧間社宝殿^江格護有之候処、
思召被為在、右宝殿^江納居候筋ニ而此節御讓御道具同様、
御納戸格護被仰付候

一腰 菊作、長式尺六寸四部半

但齊宣公御手許正波召置候処、此節御讓御道具同様御納戸
格護被仰付候

一 御腰物五拾式腰

内一腰 宗近作、長式尺八寸式部

但藤野恕世より差上候

一腰 包平作、長式尺九寸六部

但於泰平寺関白秀吉公より 義久公御拝領、当分御小サ刀御
拵有

一腰 吉房作、長貳尺五寸
 但義久公富限^五被成御座候節、山伏持參差上候
 一腰 長光作、長貳尺三寸
 但家康公より 忠恒公御拝領
 一腰 来国光作、長貳尺三寸六部
 但家光公より 光久公御拝領
 一腰 正宗作、長貳尺三寸九部
 但秀忠公より 家久公御拝領
 一腰 来国行作、長貳尺六寸壹部半
 但書同断
 一腰 無銘、左文字、長貳尺貳寸
 但秀忠公より 光久公御拝領
 一腰 無銘、長貳尺三寸壹部
 但光久公より 綱久公^五被進候
 一腰 天国作、長貳尺貳寸八部
 但書同断
 一腰 無銘国行之伝、長貳尺三寸五部
 但家光公より 綱久公御拝領
 一腰 則光作、長貳尺四寸四部
 但家綱公より 光久公御拝領
 一腰 則宗作、長貳尺四寸
 但家綱公より 綱久公御拝領
 一腰 備前吉房作、長貳尺六寸八部
 但家綱公より 綱貴公御拝領
 一腰 備前助真作、長貳尺三寸五部
 但綱吉公より 光久公御拝領
 一腰 一文字作、貳尺四寸九部
 但綱吉公より 吉貴公御拝領
 一腰 無銘景光作、長貳尺七寸貳部半
 但綱貴公より 吉貴公^五被進候

一腰 備前兼光作、長貳尺貳寸壹部
 但書同断
 一腰 備前長光作、長貳尺三寸分半
 但綱吉公より 綱貴公御拝領
 一腰 無銘貞宗伝、長貳尺三寸九部
 但近衛関白基綱公より 綱久公^五被進候
 一腰 三条吉家作、長貳尺四寸六部半
 但家宣公より 吉貴公御拝領
 一腰 備前則宗作、長貳尺四寸六部
 但家繼公より 繼豊公御拝領
 一腰 越中則重作、長貳尺三寸壹部
 但家繼公より 吉貴公御拝領
 一腰 無銘、来国光作、長貳尺三寸貳部
 但吉宗公より 吉貴公御拝領
 一腰 貞宗作、長貳尺三寸八部半
 但吉宗公より 繼豊公御拝領
 一腰 正宗作、長貳尺貳寸八部半
 但書同断
 一腰 包永作、長貳尺三寸九部
 但吉宗公より 益之助様御拝領
 一腰 大和志津、長貳尺三寸貳部半
 但吉宗公より 宗信公御拝領
 一腰 延寿国資作、長貳尺三寸壹部半
 但繼豊公より 宗信公^五被進候
 一腰 和州則長作、長貳尺三寸九部半
 但吉宗公より 宗信公御拝領
 一腰 延寿作、長貳尺三寸七部半
 但吉宗公より 繼豊公御拝領
 一腰 備前三郎国宗作、長貳尺六寸八部
 但宗信公^五樺山主計久初より進上

- 一腰 信国作、長式尺三寸分半
但吉宗公より 宗信公御拝領
- 一腰 備前国弘利作、長式尺式寸八部
且家重公より 重年公御拝領
- 一腰 来国真作、長式尺三寸
但書同断
- 一腰 信国作、長式尺三寸六部半
但家重公より 重豪公御拝領
- 一腰 備前助守作、長式尺五寸式部半
但家重公より 継豊公御拝領
- 一腰 阿州氏吉作、長式尺三寸式部
但家治公より 重豪公御拝領
- 一腰 一文字象眼銘、長式尺三寸壹部
但家齊公より 齊宣公御拝領
- 一腰 備前国師景、長式尺三寸
但家齊公より 齊宣公御拝領
- 一腰 青江貞次、象眼銘、長式尺三寸五部
但書同断
- 一腰 美濃国兼重作銘有、長式尺式寸五部余
但家齊公より 齊興公御拝領
- 一腰 三原正近、象眼銘、長式尺式寸六部
但書同断
- 一腰 無銘、備前一文字伝、長式尺五寸
但有馬左衛門太夫より 義久公^五被進候
- 一腰 無銘、敦賀正宗作、長式尺三寸壹部
但綱貴公御腰物
- 一腰 無銘、郷義弘作、長式尺三寸七部
但小川権兵衛より差上候
- 一腰 備前国助平作、式尺四寸
但保昌懷剣二而相承之書付一卷添

- 一腰 美濃国兼明、長式尺三寸五部
但家齊公より 齊彬公御拝領
 - 一腰 義弘折返銘、長式尺式寸九部半
但御前下^三而此節御讓御道具之内^五格讓被仰付候
 - 一腰 備前国長船清光、長式尺三寸七部半
但大樹家齊公より 齊宣公御拝領
 - 一腰 豐前長盛、長式尺三寸壹部
但文恭院様為御遺物 齊宣公御拝領
 - 一腰 備前長船住成忠、長式尺三寸五部半
但齊宣公御不断御差料^三而御讓同前御格讓被仰付候
- 御脇差式拾六腰
- 内一腰 無銘、長七寸八部
但頼朝公より 忠久公御拝領、号鳩作
 - 一腰 鷹巢御中脇差、三条宗近作、長式尺五寸三部
但関白秀吉公より 義久公御拝領
 - 一腰 弥正宗作、長八寸五部
但家康公より 家久公御拝領
 - 一腰 堀尾正宗作、長九寸三部
但秀忠公より 家久公御拝領
 - 一腰 筑州住左文字、長八寸五部半
但書同断
 - 一腰 貞宗作、長九寸八部
但家光公より 光久公御拝領
 - 一腰 備前兼光作、長九寸五部半
但家綱公より 綱久公御拝領
 - 一腰 長谷部国重作、長式尺四寸九部
但光久公より 綱貴公^五被進候
 - 一腰 御小サ刀、三原正俊作、長式尺九寸壹部

- 一腰 但綱貴公より 菊三郎様^ニ被進候
- 一腰 来国行作、長壹尺壹部
- 一腰 但吉宗公より 継豊公御拝領
- 一腰 来国光作、長八寸七部
- 一腰 但吉貞公より 宗信公^ニ被進候
- 一腰 延寿国重作、長九寸四部
- 一腰 但吉宗公より 益之助様御拝領
- 一腰 源左衛門尉信国作、長壹尺三寸四部
- 一腰 但宗信公^ニ於嘉久様より被進候
- 一腰 信国作、長八寸七部半
- 一腰 但有徳院様為御遺物、重年公御拝領
- 一腰 尻懸則長、長八寸三部半
- 一腰 但有徳院様為御遺物、継豊公御拝領
- 一腰 備前国清真作、長九寸六部半
- 一腰 但浚明院様為御遺物、重豪公御拝領
- 一腰 吉光作、長八寸九部
- 一腰 但長瀬市郎左衛門より差上候
- 一腰 芦屋正宗作、長九寸分半
- 一腰 但光久公御脇差
- 一腰 御短刀正宗作、長七寸四部^リん
- 一腰 但御前^ニ被召置候処、此節 思召被為在、御讓御道具之内^ニ格護被仰付候
- 一腰 大和国天国、折返シ銘有、長壹尺四寸壹部
- 一腰 但御讓同前、御納戸格護被仰付候
- 一腰 無銘貞宗、長壹尺寸五部
- 一腰 但家慶公より齊興公御拝領
- 一腰 御短刀相州鋼光、長八寸六部半
- 一腰 但齊宣公御不断御差料ニ而御讓同前御格護被仰付候
- 一腰 備中国万寿住左兵衛恒次、長壹尺七寸九部
- 但書同断

- 一腰 御小サ刀無銘長義、長壹尺七寸九部
- 一腰 但齊興公御手許^ニ被召置候処、此節御讓御道具同様御納戸格護被仰付候
- 一腰 御小サ刀天国、長貳尺五部
- 但書同断
- 一腰 御小脇差豊後国行平作、長八寸貳部半
- 但書同断
- 一腰 御劍三振
- 一振 殺若劍、波平行安作、長五寸八部
- 但太夫判官宗久公御袖刀
- 一振 血吸劍、弘法大師作、重次、長六寸分半
- 但弘法大師作とハ申伝ニ而中心ニ重次と銘有之
- 右式行藤野惣世より差上候
- 御矢根四拾五本
- 内拾本 平安城長吉無銘
- 拾本 二代兼氏銘有
- 拾三本 備前助宗銘有
- 拾貳本 波平安行銘有
- 右齊興公御側江被召置候処御讓同前御納戸格護被仰付候
- 御二所物并御三所物拾五組
- 内一組 鷹乗作
- 三組 榮乗作
- 二組 祐乗作
- 一組 程乗作
- 一組 通乗作

右御二所物

- 二組 通乗作
- 一組 榮乗作
- 一組 程乗作
- 一組 簾乗作
- 一組 光乗作
- 一組 祐乗作

右御三所物

御小柄式拾二本

- 内六本 程乗作
- 四本 祐乗作
- 壹本 即乗作
- 壹本 壽乗作
- 三本 榮乗作
- 式本 簾乗作
- 壹本 德乗作
- 壹本 後藤德乗判
- 壹本 戸張富久判
- 壹本 石黒政美
- 壹本 浜野矩随作

御目貫拾六具

- 内式具 德乗作
- 式具 乗真作
- 三具 榮乗作
- 式具 宗乗作
- 壹具 簾乗作
- 壹具 石黒政美作
- 五具 無銘

御筭三本

- 内壹本 祐乗作
- 壹本 榮乗作
- 壹本 宗乗作
- 御縁頭二具
- 内一具 浜野矩随作
- 一具 戸張富久作
- 一 蘆西八郎為朝矢之根壹本 国林
- 鉄策壹本 正宗製

右七行御讓御道具同様御納戸格護被仰付候

- 魚舩 一箱
- 金魚舩
- 銀魚舩
- 御石帶 二箱
- 小随人道具 一箱
- 内狩衣并袴入
- 御石帶 三箱
- 右式行 中納言様御道具並相付候品と伝有之
- 小随人太刀 二箱
- 御浅沓 一足
- 御柳筥 一
- 蘭御草履 二足
- 御装束入箱 一
- 御官服
- 御差貫
- 御表袴
- 御袍
- 右近衛内府忠熙公より 齊興公拝領
- 家齊公より 重豪公御拝領御鷹道具
- 餌合子 二ツ

- 一 策 二
- 一 雉子籠 一
- 一 御鞆 二
- 御拝領
- 一 鳩之御杖 一握
- 一 奥州十萬弓余材一枝
- 一 御兜 一領 明珍宗徳作、無銘
拾八間惣屋
- 右ハ 齊興公是迄御手許被召置候処、
仰付候

一 御鉄砲五拾八挺

- 内一挺 玉目三匁九分、御国張作不相知
但龍伯様御持筒
- 一挺 玉目三匁五分境筒
但惟新様御持筒
- 三挺 南蠻筒
- 内一挺 玉目五匁五分
- 一挺 玉目三匁五分
- 一挺 玉目四匁壹分
但惟新様中納言様御間ニ石田治部少輔三成より被進
候由中伝有之
- 三挺 境筒
- 内一挺 玉目三匁六分
- 二挺 玉目三匁五分
但中納言様御持筒
- 一挺 玉目貳匁四分、作不相知三挺からくり
但家久公・光久公御所被召置候
- 一挺 玉目五匁四分、重信丹波作

- 一挺 但中納言様御持筒
玉目貳匁八分
- 一挺 但中納言様御懷中筒
玉目三匁五分、児玉為兵衛作
但光久公御持筒
- 三挺

- 内一挺 玉目七匁、児玉為兵衛作
- 一挺 玉目四匁、松方兵右衛門作
- 一挺 玉目貳匁九分、右同人作
但光久公御持筒

- 一挺 玉目貳拾貳匁、薩州住、石神源兵衛尉重永・重次寄合作
但中納言様より 光久公被進候
- 拾六挺

- 内一挺 玉目貳匁八分、隈元次兵衛作
- 一挺 玉目六匁四分、児玉為兵衛作
- 一挺 玉目三匁九分、平新兵衛作
- 一挺 玉目四匁九分、日野張
- 一挺 玉目六匁八分、松方兵右衛門作
- 二挺 玉目四匁、平新兵衛作
- 一挺 玉目拾壹匁、御国張作不相知
- 一挺 玉目拾壹匁五分、児玉為兵衛作
- 一挺 玉目六匁四分、勝目大藏作
- 一挺 玉目三匁五分、松方兵右衛門作
- 一挺 玉目貳匁八分、児玉為兵衛作
- 一挺 玉目六匁三分、種子筒
- 一挺 玉目六匁貳分、勝目大藏作
- 一挺 玉目五匁、右同人作
- 一挺 玉目四匁貳分、松方兵右衛門作
但光久公御持筒

貳挺

六挺

内一挺 玉目四匁六分、木場新左衛門作
一挺 玉目貳匁八分、右同人作
但綱久公御持筒

内一挺 玉目三匁、松方七郎兵衛作

一挺 玉目三匁五分、甲斐五兵衛作

一挺 玉目七分、右同人作

一挺 玉目壹匁、御国張作不相知

但綱貴公御持筒

一挺 玉目三匁、勝目大藏作

但綱貴公御持筒御不斷御前_江被召置候

一挺 玉目七匁、松方兵右衛門作

但光久公より綱貴公_江被進候

一挺 玉目五匁五分、作不相知

但惟新様より田那辺屋道_江被下置候處、道与孫出家、京都
相国寺内林光院住持西堂_江讓置候由_二而 綱貴公_江進上

一挺 玉目六匁貳分、松方兵右衛門作

但綱貴公より 吉貴公_江被進候

三挺

内一挺 玉目三匁貳分、薩州住重則作

一挺 玉目貳匁八分、松方兵右衛門作

但綱貴公御持筒

一挺 玉目三匁五分、児玉鉄兵衛作

但宗信公御持筒兵庫殿より進上

五挺

内一挺 玉目四匁三分、児玉鉄兵衛作

一挺 玉目三分、右同人作

一挺 玉目貳匁七分、上原十左衛門作

一挺 玉目五匁三分、本野弥太右衛門作

一挺 玉目壹匁八分、児玉小八作

三挺

但宗信公御持筒

内一挺 玉目三匁五分、児玉鉄兵衛作

一挺 玉目貳匁九分三里、右同人作

一挺 玉目三匁、右同人作

但重年公御持筒

二挺

内一挺 玉目拾匁、松方七左衛門作

一挺 玉目七匁、松方七郎左衛門作

但咨宣公御持筒

一 御琴一面 遠瀬

但元和三年二月後水尾院様より 家久公被遊御拝領候處、元禄九年

罹火災 綱貴公摸写被仰付置候

一 御琵琶一面 松風

但龜山又兵衛_{齋名}より 義久公_江進上

右御代々様御讓御道具_二而候

〔卅二〕 御馬並 御馬具之事

御馬百四拾疋疋

内五疋

御召

但御召馬五疋被召立置、其後増減有之候處、寛政四年子閏二月拾疋
被召置候旨、於江戸被仰渡置候處、御檢約年限中、五疋被相減候
旨、享和元年酉六月被仰渡候

貳疋

御台下地

但御在国ニハ三疋、御在府ニハ貳疋、被召立候旨、寛政二年戌九月
被仰渡置候處、貳疋被仰付候旨、享和元年酉六月被仰渡候

拾疋

御立馬

但御在府御在国共御定立御馬三拾疋被定置候旨、寛延三年午正月被

仰渡候処、向後不及定置、依時増減も可有之旨被 御出候旨天明
六年午十二月被仰渡置候処、御在国ニハ拾五疋御在府ニハ貳拾
五疋被定置候旨、寛政二年戌九月被仰渡候処、右之通被立置、出
入之節、拾五疋位迄ハ立置候様被仰付候旨、享和元年酉六月被仰
渡置、文化十一酉十月五疋被相重立置候様被仰渡候処、貳疋被相
減候旨文政十一子四月被仰渡置候得共、被相減拾疋被立置候旨文
政十三寅七月被仰渡候

三疋 宰相様 御召馬
貳疋 右同 御立馬

右貳行高輪御屋敷御引移ニ付御引越相成候段、嘉永四年亥十二月廿九
日被仰渡候

若殿様御用

三疋 御 馬

右 同

三疋 御稽古馬

但右貳行被召建候旨、文政八年酉二月十六日被仰渡候

拾七疋 諸流稽古馬

但神当流・鎌倉流・大坪流稽古馬并大追物方御預馬之儀、模合方立
馬之名目ニ被相替、御借馬之節ハ右之内より差出候様被仰付候旨、

寛政二年戌九月被仰渡候処、右之通名目 被仰付候旨、文政十三年寅
六月被仰渡候

右之内

四疋

右鎌倉流稽古馬五疋被定置候得共四疋ツ、被立置候旨、文政
十三年寅七月被仰渡候

五疋

右大追物稽古馬為用、川上十郎左衛門ニ貳疋御預、四疋ハ外
四人ニ御預被仰付候旨、被仰渡置候処、天明五年巳九月、四
疋被相重、稽古人数ニ十郎左衛門より見計を以御預等以前之
通被仰付置候得共、御俟約年限中五疋被減相候

四疋

右大坪流稽古馬、五疋被定置候得共、御俟約年限中壹疋被相
減候処、四疋被立置候旨文政十三年寅七月被仰渡候

四疋

右神当流稽古馬七疋ニ被定置候得共、前条同断ニ付貳疋被相
減候処、四疋被立置候旨文政十三年寅七月被仰渡候

四疋

右高麗流稽古馬為用五疋、被仰付候旨、寛政元年酉八月被仰
渡置候処、四疋被立置候旨文政十三年寅七月被仰渡候

五疋

外ニ五疋被相減候旨、文化五辰十二月被仰渡候、貳疋ハ御預
被仰付候旨文政十三年寅七月被仰渡候、右ハ 故中将様以思
召被召建置候得共、一住御引取被仰付候段弘化四年未六月廿
五日被仰渡候

六疋六疋

御預小荷駄

九疋

江戶御借馬

右御借馬、拾五疋被立置候処、段々減少被仰付、御在府ニハ
九疋、御在国ニハ七疋、被召立候旨、文化五辰十一月、於江
戸被仰渡候

御鞍一口 海有

御鑑一掛

但梨子地蝶之高蒔絵、紫大形総虎革泥障野沓四方手添、寛永三年丙
寅八月十九日 家久公從三位中納言御昇進之時 後水尾院様より
寮之御馬、御鞍置ニ而御拝領之由候

御鞍一口 無海

但紋猿金金具

從 義久公御吉例之御鞍ニ而候と 御意候而 家久公ニ為被進御鞍
ニ而候

御鞍一口

但黒塗御紋金金具

御鑑一掛

義弘公伊東家御討討之節、御嘉例能御鞍鍔ニ而從 義弘公 家久公

一 為被進御鞍鏡ニ而候

御轡一間正宗作

義弘公御秘藏被遊候

右四ヶ条從此前御讓物ニ而候

御鞍一口 海有

御鏡一掛

但龜甲高時繪金具散シ四方手添

從 將軍尊氏公 貞久公御拜領被遊候御鞍鏡ニ而候

御鞍一口

御鏡一掛

但菊之御紋高時繪、梨子地・桐之地紋蔀繪有、鏡黒塗内朱塗片笑之

御鏡、紋丸之内千鳥之すかし、伊勢因幡守貞成正作之由候

天正十五年七月 義久公於京都、御不快被遊御座候砌、從 秀吉

公御医師被差遣、早速御平愈ニ而候、依之於聚樂第 秀吉公^江

御目見、右之御礼被仰上候処、御鞍置馬并御長刀御拜領被遊候、

右御鞍鏡ハ其節御拜領ニ而候

右式ヶ条享保七年寅七月新ニ御讓物ニ被召加候

右御讓御道具ニ而御座候、右之通御家老中より書附被渡置候

御鞍一口 無海

但黒塗御紋金具、乗合青貝十二支之図形、高時繪、金覆輪、伊勢

上野介作

御鏡一掛

但黒塗金粉鑄掛内朱鳩胸十二支之図形、高時繪有

右御鞍鏡ハ 義久公御秘藏為被遊由ニ而島津兵庫忠朗被致格護候砌、

綱久公加治木^江御光儀候節、忠朗より進上ニ而候、御厩^江申伝候、

慶長五年九月 義弘公閑ヶ原 御退陣之節、御召御馬、福山野、黒

栗毛名小紫、於中途別而草臥、乍御鞍置、被拾置候、御口之者小

川与三右衛門・江口佐兵衛、兼而御秘藏之御鞍を存候故、右兩人御

跡^江馳戻り、御鞍を取、解鞍仕、肌ニ着御供為仕之由候、御記録所

書附之内右御退陣之節御供仕候御小者大重平六覚書ニハ、御馬青名

紫と申候、堺之住吉大明神^江御寄進被成候由、相見得申候、右通御

座候得ハ御廐方申伝之趣とハ相違仕候得共、御馬ハ住吉江御寄進ニ

而御鞍之儀ハ御持下り可被成事と存申候

御鞍一口 海有

但梨子地石餅之紋、金粉鑄掛、伊勢駿河守入道照安作

右御鞍ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所^江相

知不申候

御鞍一口 海有

但黒塗御紋、高時繪有

御鏡一掛

但黒塗御紋、高時繪内朱塗すかし崩格子有

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所^江

相知不申候

御鏡一掛

但梨子地丸之内、丁子紋有

右御鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所^江相

知不申候

御鞍一口 無海

但龜甲高時繪、居木黒塗御紋金具

御鏡一掛

但龜甲高時繪、御紋金具内朱塗

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所^江

相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗一疋獅子之紋金具、伊勢上野介作

御鏡一掛

但黒塗無紋内朱塗大取すかし^江

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所^江

相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地御紋金具

御鏡一掛

但梨子地無紋朱塗片笑すかしわらひて

右御鞍鐙ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗茗荷之紋金具、伊勢駿河守入道照安作

御鐙一掛

但黒塗大花茗荷高蒔絵、内すかし花菱

右御鞍鐙ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗御紋金具、金箔掛掛

御鐙一掛

但梨子地桃之紋金具

右御鞍鐙ハ 義久公御秘藏被遊候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地葵御紋金具、伊勢因幡守貞直作

御鐙一掛

但梨子地葵御紋金具、伊勢因幡守貞仲作

右御鞍鐙ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地金粉桐唐草獅子縁青貝江南鞍

右御鞍ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗無紋、号小鞍

右御鞍ハ島津兵庫忠朗より進上之由、然共右之訳御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但波之蒔絵、三笠之紋有

右御鞍ハ 家久公ニ寺沢志摩守正成より被進候由、然共右之訳、御記録所ニ相知不申候

御轡一間

但市村吉勝作

右御轡ハ 家久公ニ上田吉之丞より進上仕、御秘藏被遊候由、右吉之丞と申者ハ 家久公御心安被仰下候哉、差上候書状御家譜之内ニも段々相見得申候得ハ、右轡進上可仕事ニ御座候

御鞍一口 無海

但黒塗無紋

右御鞍ハ京極右候守殿家来、仲長門氏一入道道柄と申者、此方ニ御預ニ罷成居候、道柄より進上仕候由、其訳御記録所ニ相知不申候、然共道柄事、此御方ニ御預被成候事ハ別条無之事候ニ付、右御鞍進上仕候半と存候、右之通御記録奉行より申出候付、島津將監より書附被遊置候

右肝要御道具ニ而御座候、御由緒有之、御鞍・御轡・御鐙、江戸ニハ不召置候

御鞍一口 海有

但惣梨子地米幣唐团扇高蒔絵、伊勢伊勢守貞宗作

御鐙一掛

但両咲惣梨子地蒔絵右同断、右同人作

御鞍鐙

折紙 二枚

但辻山城政信極

右ハ天保七年申十一月廿五日 斉興公御登 城候様御奉書御到来付、

御名代 斉彬公御登 城之處、御上金御用途ニも相成趣を以、從大樹家齊公被遊御拝領候御讓道具ニ而御座候

鞍 百口

轡 百間

鐙 百掛

右三行御軍役方

一 馬面拾頭

内六頭 御召御用

四頭 御召替御用候哉、委細相知不申候

右之内

一頭 黒塗内朱塗十文字小紋付

一頭 金磨内朱塗十文字小紋付

一頭 黒塗内金磨

三頭 金磨内黒塗

一頭 金磨内黒塗布着せ

一頭 内外共黒塗

一頭 内外共へにから塗

一頭 内外共黒塗惣様縁朱塗

一 馬具足一領

但熊毛さね金磨真田打緒付

一 馬鑑式拾八領 金磨

内一領 熊毛さね黒塗

式行

合式拾九領

内五領 御召御用

式拾四領 御召替御用候哉、委細相知不申候

右之通御当地石物御座候

江戸御軍御方

一 鞍 式拾口

右同

一 木鏡 式拾掛

右同

一 轡 式拾間

右先年御類焼後、右之通被差登置候

江戸模合方

一 鞍 式拾七口

江戸模合方

一 鑑 式拾七掛

右同

一 轡 式拾一間

〔卅三〕 塩硝并硫磺員数之事

一 白塩硝 八万五千四百三十六斤余

内八百八拾四斤三合余

七万五千八百八拾三斤余

八千六百六拾九斤余

一 合塩硝 九万四千三百三拾九斤三合六勺式才

内三万式千四拾斤余

貳万八千五百七拾六斤余

九千三百三拾六斤余

貳万四千五百八拾五斤余

一 鷄目硫磺 四千八百五拾八斤余

内三千貳百八拾七斤

千貳拾壹斤

五百五拾斤五合

一 鷹目硫磺 千五百五拾壹斤余

千四百九拾壹斤余

六拾斤五合

田上村御蔵江御格護

郡元村御蔵江御格護

御兵具所御蔵江御在合

田上村御蔵江御格護

犬迫村御蔵江御格護

郡元村御蔵江御格護

万出入

郡元村御蔵江御格護

御蔵御蔵江御格護

万出入

郡元村御蔵江御格護

御蔵御蔵江御格護

郡元村御蔵江御格護

御蔵御蔵江御格護

御蔵御蔵江御格護

「卅四」 御教寄屋御道具之事

平野肩衝

一 御茶入一箇

御讓物

但秀吉公より 義弘公御拝領之由

八景

一 御釜一口

右 同

但頼朝公より 忠久公御拝領之由

一 右武行御家老連名之御由緒書相添

一 薩摩文琳御茶入一箇

但国分様御所持之由

一 種子茄子御茶入一箇

但種子島左近進上

一 古今集一冊

但定家卿筆 国分様^五 龜山又兵衛進上

一 東坡墨跡一帖

但惟新様御所持之由

一 鶴形之御茶入一箇

但名物御什物之由

右鶴形御茶入 吉貴公御遺物ニ御献上有之筈候処、御什物之故、外

ニ似寄候御茶入有之、利休鶴首代金式千枚相極候御茶入ニ而御献上

ニ相成候、然共右鶴形御茶入御献上之筋ニ而候

一 繩簾御水指一箇

但名物御什物之由

一 曜爰御茶碗一

但名物御什物之由

右七行島津將監書附相添

一 若狹盆一枚

但堆朱湯成添状有

一 御掛物一幅

但趙昌筆、三種菓子之絵

右御掛物、此節 御前御用ニ付御取切ニ相成候得共、御教寄屋御帳

面ニハ是迄之通、召置候様被仰渡候

一 御硯箱一

但東山殿時代蒔絵

一 御硯一面

但未央宮瓦

一 熊皮蓋御天目一

一 同御花入一

一 御花入一

一 但青磁竹之子手

一 御掛物一幅

但牧溪筆八^八鳥之絵

一 御掛物一幅

但牧溪筆、鸞蟹絵極札有

一 御掛物三幅対

但中所翁筆、龍之絵、左右高然暉筆、山水之絵

一 御硯一面

但銅雀台瓦

一 御硯箱一

但東山殿時代蒔絵

一 御軸物一卷

但舜拳筆極札有

一 御掛物一幅

但巨勢金岡筆地蔵之絵

一 御掛物一幅

但陸王三郎筆大元明王之絵

一 法華經 八卷

但天神御真筆

- 一 御掛物 一幅
但徐熙筆蘆二鷺之絵
- 一 御掛物 一幅
但李公麟筆慶友著法任記図
- 一 御掛物 一幅
但牧溪筆慈母鳥之絵
- 一 御掛物 一幅
但吳道子筆觀音之絵
- 一 御軸物 一卷
但李竜眠筆鬼子母神之絵
- 一 惟新公御作御茶杓一本
但筒入
- 一 衛手御香爐 一
後京極良経公古今一部
- 一 御軸物 一卷
但岳飛真跡
- 一 三幅対御掛物
但中李太白劉松年筆左右羈之絵王若水筆
- 一 御掛物 一幅
但檀芝瑞筆四季竹之絵
- 一 撰句抄六冊
但中院大納言為家卿真筆
- 一 二幅対御掛物
但顔輝自画讃寒山拾得之絵
- 一 御掛物 一幅
但錢選筆官女之絵
- 一 折本 一帖
但顔真卿真跡
- 一 御軸物 一卷
但奥書仇英筆宣宗皇帝製画

- 一 御掛物 一幅
但梁楷筆布袋之絵
- 一 御掛物 一幅
但頼庵筆魚之絵
- 一 御掛物 一幅
但探幽筆頼庵筆魚之絵正写
- 一 御掛物 一幅
但馬遠筆曲欄望月之絵
- 一 御掛物 一幅
但李嵩筆樂戸争撃之絵
- 一 朱衣肩衝
御茶入 一箇
但家慶公より齊興公御拝領
- 一 右御当地御数寄屋に有之
御硯一面
但未央宮瓦
- 一 右江戸御数寄屋に有之
右当地江戸御数寄屋重御道具
- 一 「卅五」 置米置銀之事
真米千三百拾五石八斗
赤米百貳拾貳石五斗六升
文銀四百貳拾五匁
- 一 串木野
水引之内
一 平島
- 一 出水
長島之内
一 浦底村
- 一 出水之内
一 高江
一 脇本

大口之内
 一 平出水
 一 瀬之内
 一 石垣
 一 志布志
 一 下甕島
 一 小根占
 田布施之内
 一 高橋村
 一 山川
 高岡之内
 一 五町村
 花岡之内
 一 古江
 加世田之内
 一 大津
 一 内之浦
 一 上甕島
 佐多之内
 一 伊佐鋪
 右置米并置銀之儀ハ翌年米出来前迄、右諸所御蔵ニ差置申候

「卅六」 高式百石以上士人数並 依人跡持高員数被相究候事

内
 一 百三拾三人
 鹿兒島
 壹 人 三万石以上
 六 人 壹万石以上
 壹 人 八千石以上
 貳 人 六千石以上
 貳 人 五千石以上
 四 人 四千石以上
 貳 人 三千石以上
 貳 人 貳千石以上
 拾貳 人 千石以上
 四 人 九百石以上
 壹 人 七百石以上
 五 人 五百石以上
 拾 人 四百石以上
 拾 人 三百石以上
 六拾貳 人 貳百石以上

一 御役人小役人明細帳ニ載置候程之者、高直之願申出、又ハ高直之願申出管候得共、支有之候故、所務迄を請取候通、銘ニ支配頭ニ申出候上高奉行江申出候節、今迄高奉行より当人支配頭ニ右之首尾申出候儀、別条無之哉之旨、相尋候上、書附を以、又ハ明細帳之首尾有之事候得共、以後右之通、首尾仕候ニ不及候条、銘より高奉行江高直之儀申出候節、御法之通相しらへ、申出、高直相濟候節、明細帳仕付候首尾当人支配頭江可申出候、且又支有之候高之儀ハ、其趣承届、是又書附を以銘ニ支配頭江可申出候、其書附を以、明細帳仕付可申渡旨享保十巳十月、被相定候事

一 外城養子之儀、三代目より五拾石之節ニ而ハ不及何事候間、高奉行承届、御格式を以、相しらへ、高相直候様可仕候、御規帳ニも右之訳張紙ニ而可記置旨、享保十四酉閏九月、被相定候事

一 高相松候者、取込拝借有之、右引当無之者ハ高直御免不被仰付事候得共、高相求候方より返上方引請、掛合証文差出候者ハ高直御免被仰付高相求候者より掛合難成者ハ高直御免不被仰付御法ニ候得共、高相松候者、無拠者より返上方引請、掛合証文を以、高直之儀、願於申出者時々吟味之上、可被差免旨、享保十四酉六月、被相定候事

一 外城衆中之儀、惣而百石以上ニハ高上御免被成間敷候、以前より衆中筋ニ而三四代差立勤来候者之子孫ハ百石迄高上御免可被成候、代々衆中筋目ニ而も所衆并迄之御奉公相勤候者ハ五拾石以上九拾石余之高上御免被成、百石高上ハ御免被成間敷候、祖父・曾祖父代御赦免者之子孫、當時衆并ニ勤居候者ハ五拾石迄之高上御免可被成旨、被定置候得共、自今以後ハ右跡家筋之者ニ而も其者之器量行跡不宜、又ハ下輩之家業等致候者ハ高上御免被成間敷候、住々屹と役目をも可相勤程之者家業宜候ハ、御法之通高上御免可被成候間、高上之儀申出候節右之趣を以、囑致吟味、其上地頭前ニ而委相しらへ、願取揚候様ニ可相心得旨、諸地頭月番御用人江享保十四酉八月申渡候事

一 初而高持成高上願出候節ハ其身江相紀候上、当人勤方、幼少長病者之訳、其者之支配頭江相紀、支有無可申出之、尤勤有之高奉行、為存程之人ハ支配頭江申出不及旨、享保十八丑十二月、被相定候事

一 高相求、又ハ高相私者、拝借取込等有之、皆返上無之内ハ、高直御免被成間數旨、享保二十卯九月、被相定候事

一 家内之子孫、取込拝借等有之候ハ、高直御免被成間數旨、延享四年卯十一月、被相定候事

一 大身分之格ニ而壹万石以下之人ハ九千貳三百石迄高上御免可被成候間、九千石不及内ハ、百石千石ニ及候節、前以高上願申出不及、高直可申渡候、九千石ニ及節ハ願申出、達 貴聞、御免之上、高可相直候一所持ハ七千石、一所持格ハ五千石、寄合ハ三千石、寄合并ハ貳千石迄、高上御免可被成候間、右定之高ニ不及内ハ、百石・千石ニ及候節、前以高上之願申出不及、高直可申渡候、右定之高ニ及候節ハ願申出、達 貴聞、御免之上、高可相直候

一 但何千石と限、御免之事ニハ候得共、高直之節、少々余計有之、差支儀も候ハ、御定之高を越候共、百石之内ハ御免之内相加、高可相直候儀ハ、其節之勤方、依人御加増ハ 思召を以、高上御免被成儀も可有之候、何そ故も無之願迄ニ而ハ御免被成間數候

一 寄合并ニ而無之者ハ千石以上ニハ高上御免無之候得共、寺社奉行・御勘定奉行・寺頭・御番頭被仰付候者、御役之内ハ勤方依人御加増ハ 思召を以、千石迄之高上御免可被成儀ハ依品可有之候間、無勘計有之候ハ、願可申出候、達 貴聞、何分ニも可被仰付候、尤千石より内ハ百石之節、前以高上之願不及申出、高直可申渡候

一 但千石迄高上御免被成候人有之、高直之節、少々余計も有之、差支儀

一 も候ハ、千石を越候而も百石之内ハ御免之内ニ相加、高可相直候右定より上之高、當時持来候ハ、格別ニ候、持来候者も其上之高上ハ願迄ニ而ハ御免被成間數候、勤方依人御免被成儀も可有之候間、無勘計有之候ハ、願可申出候、達 貴聞、何分ニも可被仰付候、私領并持切名、仕明高ハ格別ニ候間、定之上、高上候共、前以願申出不及、右之増高ハ、持高可相加候

一 右五ヶ条、享保二十一年辰四月、被相定候取込拝借有之人、皆返上無之内ハ高直御免不被仰付事候得共、仕明持

留高、位増等之増高ハ買地等ニハ格別候故、取込拝借無構、持高相加候儀、御免可被成旨、享保二十一年辰四月、被相定候事

一 諸人持留地之願、申出候節、取込拝借等有之人ハ御免不被仰付御法ニ候間、右鉢之儀無之旨、段々御格式、次第ヶ条を以、願出、其旨得御指図候上、御免被仰付事候、然處持留地御免被仰付候以後、取込拝借等仕候人も有之候、新仕明持留地御免被仰付、郡方免証文相渡候以後、取込拝借等仕候而も最初御免之儀候得ハ現高相求候トハ誤も相替仕明高之儀候間、高上御免可被仰付旨、延享五年辰五月、被相定候事高直之儀幼少者ハ御免無之事候得共、寄合并以上之儀ハ其身幼少ニ而も間ニハ人数等差出候、御用をも被仰付、御見合を以、被召仕儀も候故、幼少ニ而も高上可被仰付候、右より以下之者、幼少ニ而も勤方有之者ハ有来候通、高上御免被成、勤方無之者ハ都而拾五歳より高上御免被仰付、拾四歳迄ハ高上御免被仰付間數旨、元文元年辰十一月、被相定候事

一 信証院様御方并五万石方御銀物奉行方江高名寄帳弄上、拝借被仰付候人も御物取込拝借有之人同前、皆返上無之内ハ高直御免被成間數旨、元文二年巳二月、被相定候事

一 持高有之者ニ而も親兄より附屬高之願、申出候ハ、可取揚旨、元文二年巳三月、被相定候事

一 持留仕明開地元文二年巳七月以前ニ申渡置候分ハ、取込拝借無構、持高相加候様申付候、以後之儀ハ取込拝借有之者ハ免許不申付候、尤外城衆中延米・飢拝借米等、為中付置者も取込拝借同前之事候間、願

取揚間數旨申渡候事

一 寄合並以上、一所一名持切之地、仕明高ハ取込拝借有之候共、高上限ニ無構、御免可被成旨、元文二年巳九月、被相定候事

一 諸士借銀方ニ請取候高、又ハ買地分地等ニ付而高直之儀、其時ニ可申出候間、月限之不及証文請取置、五通十通續候節段々相しらへ、年中幾仕切ニも可得差図候、且又御加増新地仕明高等之儀ハ御家老任引付可致其沙汰事

一 外城衆中高之出入、年中押通之筋ニ而ハ八朔高帳差出候、支有之候故

毎年正月より六月迄之間高直申付置候間、七月より十二月迄ハ高直請付間敷候事

外城と外城、又ハ鹿兒島と外城、高之出入可為停止事

寺社家ハ被附置候高之外、借銀方ハ相請取、高直之儀申出候而も寺社家ハ御免不被成候間、取次生間敷候事

借銀返弁方請取候高、又高相求候節、百石より千石迄之間、段々百石宛之涯ニ而ハ其人より願、於御免ハ高直之儀、可有取次事

親相果、高主ニ被仰付候人、繼目御礼不相濟候而も、高可相直候、乍

然初而之、御目見不相濟者も可有之候間、左儀成者ハ繼目之御礼不被仰付内ハ、高相直間敷事

高直証文其年之証文ニ而可有披露、若無契、前年之証文を以、申出人ハ、直月番御家老ハ可申出事

借銀方高相渡候人、又ハ高亮候人、高直証文出置、其後何そ出人之儀、於有之ハ其狀申出、高可相直候、不依公私、入与等有之以後高直証文差出候共、取次有間敷候、雖然入与等前之日付之証文紛無之候ハ、可有披露事

諸士二男・三男不別立人、借銀方ハ高相請取、又ハ高相求、高直之儀申出候共、取次有間敷事

高直証文ニ親子兄弟証契相立儀、可為停止事
諸士持高借銀返弁方、又ハ亮高ニ相渡、高直御免被成、高帳面之首尾迄も相濟候以後、其年中ニ而も又ハ自分方ニ高相求、高直之願申出候ハ、可有取次事

万石成御免之儀、別而之訳無之候ハ、御免被成間敷候、当分万石以上之面、高上之人有之候共、御免被成間敷事

一所持・一所持格・寄合・寄合併其外御家老直触之面、持高百石・千石ニ及候節、前以高上之願、申出不及、高直可中渡事

万石以上高上御免無之人も私領并持切名之仕明高ハ格別候間、向後右之增高ニ可相加事

附諸士持高位増等之增高も右ニ可準事

寄合併之格ニ而無之者ハ千石ニハ御免被成間敷候、只今迄持来候者格

別候、持来候者も千石以上ニ而候ハ、其上之高上御免被成間敷候事

御家老直触之外、當時屹立候御役被仰付置、又ハ地頭職被仰付置候者、持高千石より内之高上御免可被成候、右躰之者、当分持高より上

九拾石余、百石之内之高上ハ御法之通、高奉行しらへ申出候ハ、高直可申付候、百石之節を越候節ハ願之上、奉親御免可有之事

但右躰之者、御役御免ニ而も首尾能御免之者ハ持高六百石以上、千石より内之高ニ而候ハ、持高より上、九拾石余、百石より内、高上、其身代ニハ御免可被成候、且又隠居以後、俸代罷成、又ハ首

尾惡敷御役御免之者、右六百石以上之持高より上、少ニ而も高上御免被成間敷候

祖父・曾祖父代よりも屹立候御役相勤候者、且又地頭職をも被仰付候者之子孫、小番勤来候者ハ五百石成御免可被成候、小番迄を勤来候者

ハ五百石成御免不被成、四百九拾九石余迄之高上御免可被成候事

但百石之節を越候涯ニ而願出候節、奉親、御免可有之候

三百石成ハ代々士筋ニ而も近代御歩行格之勤迄を仕、其身も右通候ハ、御免被成間敷候、乍然江戸詰坏二道中鎗持せ候程之勤仕候者ハ依様

子、御免被成儀も可有之候、道中鎗持せ候者ニ而も御歩行格之者ニ而鎗持せ候共、右躰之者ハ御免被成間敷候、代々士筋目ニ而大番相勤候者ハ式百石成御免可被成候事

但百石之節を越候涯ニ而願出候節、奉親、御免可有之候

初而高持之願申出候者ハ吟味之上、御免可被成候事

外城養子ハ其身之代ニハ高五拾石ハ被仰付間敷、俸代ニハ五拾石以上九拾九石余迄之高上御免可被仰付候、座附士ハ三拾石ニハ被仰付間敷

候、右之通候得共、御奉公之品ニより候而ハ格別ニ候、只今迄持来候者ハ其通ニ候、只今迄持来候も右之程より上之高ニ而候ハ、其上之高上ハ被仰付間敷候、座附士、座ヲ離、士之養子ニ成候者、高上ハ外城養子之格式可為同断事

但五拾石成之節ニ而ハ奉親、御免可有之候

外城より養子罷成候者、三四代過候ハ、百石成御免可被成候、座附士座を離、御奉公仕候者、三四代相過、百石成之願申出候ハ、御免可被

成候、三四代之内ニ而も諸奉行之格、無役ニ而も御馬廻、又ハ一代小番御免被成候者ハ百石成御免可被成候事

但百石成之儀ハ伺之上御免可有之候

外城養子ニ而も代々小番被召入候ハ、三百石成御免可被成候、且又座附士小番相勤候筋目之養子ニ罷成、小番相勤候ハ、是又三百石成御免可被成候事

但百石之誼ニテ奉親、御免可有之候

右之通、享保十三年申十二月、被極置候事

小十人之組、新規ニ被相立、持高四拾石余を限、五拾石ハ不被差免旨天明七未七月、被仰渡候事

外城より鹿兒島士養子罷出候者、向後之儀外城より持高致所持、直其高持出候者迄を御免可被仰付候、無高ニ而も無契血筋、又ハ為差立誤有之、依願之趣ハ被仰付儀も可有之旨、元文二年巳五月、被相定候事

御城下士之内直子無之者、外城より養子之願申出候節、所高持越候敷又ハ父方從弟之続迄、養子御免被仰付候旨、宝曆十三年未八月、被仰渡候事

外城衆中文武之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者ハ依願、外城養子被仰付候者トハ誤も相替候條、向後右跡之者、高上諸事鹿兒島代々士格可被仰付候、座附士も右同断

外城衆中家職之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者、高上之儀、諸事外城養子之格式可為同断、乍然月次、御目見仕度候程之御役、相勤候敷又ハ中通ニも被仰付候程之者ハ百石成御免可被成候、座附士も右同断

病氣有之、為養生座敷内取替召置候者、持高之内借銀返弁方相渡候敷又ハ相払候節ハ無契、親類兩人之証文ニ御法之通、証人相立、高直願申出候ハ、御免可被成候事

鹿兒島士并外城衆中高上御格式、段々被定置候得共、小普請ニ被召入候者、又ハ幼少、又ハ病者ニ而、御奉公雖勤跡之者、御当地外城共向後高上之願申出候共、只今迄所持候高より上ニハ少ニ而も增高御免被成問敷候、勿論初而高持之願申出候而も御免有之間敷候、身弱キ迄ニ而當時御奉公ハ不相勤候得共、相応之御奉公被仰付候得ハ相勤管之者

も可有之候、左様成者、定病人トハ誤も相替候間、高上御免可被成候條、其意を以高直之しらへ可仕候、田舎入御暇申出候者、又ハ御暇内之者ニハ、高上御免被成問敷候事

但或老跡或身弱有之、御番雖勤、代番差立候者、又ハ嫡子何ぞ御奉

公相勤候者ハ高上御免可被成候

鹿兒島士借銀返弁方ニ知行高請取、又ハ買取候者共、高直之儀申出候節、高主拝借取込之銀米等於有之ハ高相直間敷候、然共返上方之引当相成程之殘高、又ハ居屋敷致所持候者ハ高奉行しらへ、申出候上、高直可申渡候、引当致置候高屋敷、相払候節ハ高請取候者より返上方引請候ハ、其旨前以支配頭ニ相付、申出差図之上、可相払候

高直御格式致相応高可相直管之諸士ニ而も内ニ而も借銀返弁方、高請取置、又ハ為利払所務請取候人ハ其旨双方より高奉行ニ申出置候上所務請取可申候事

但高直不相濟管之者ハ借銀返弁方、又ハ利払之方たりといふとも内

ニ而も所務請取候儀、不罷成候、尤高上御免無之管之者、内ニ而も高相求置所務請取候儀、曾而仕間敷候

御役人小役人明細帳ニ載候程之高直之願申出候節ハ其段双方支配頭ニ可申出、或高主幼少、或無契子細有之、高直差支候者ハ高不相直候故所務迄を請取候節ハ相渡候向よりも支配頭ニ可申出之、銘々首尾申出候時、高奉行ニ高直之願、又ハ差支候誤、可申出旨、可申渡候之條、其趣高奉行承届、高直之儀ハ御法之通、相しらへ申出、高直相濟候節明細帳仕付之首尾、当人支配頭ニ申出、且又支有之高之儀ハ其段承届候上、是又書附を以、当人支配頭ニ可申出候、右書附を以、明細帳之仕付可有之候、尤右或高直之支有之、所務迄を請取候段ハ於高奉行所、帳面記置、紛敷無之様ニ可致置候事

無役之者、高相求候節、無契誤有之、高直申出候儀難成者ハ其子細を高奉行ニ申出候上ニ而も所務請取可申候事

但内ニ而も高相求、別人名付之高、所務仕候儀、堅令禁止候事

外城衆中高直之儀、地頭ニ相付、申出、地頭より高奉行ニ可相違候、其節高奉行より諸事高直之格式を以、相しらへ被定置候高頭之内ニ而

候ハ、高直相究、高奉行より直ニ地頭ニ可相達候、百石・五十石之節ニ及候高上之節ハ地頭より月番御用人ニ申出、差図之上、高直之儀ハ高奉行ニ可申出候事

但取込拝借有之候者、高直之儀ハ鹿兒島士高直之格式可爲同断、且又取込拝借引当致置候高相払候節ハ高請取候者より返上方引請候ハ、其趣を以、地頭ニ相付申出、地頭より月番御用人ニ申出、御免之上、可相払候

一 本文外城衆中より附衆中ニ高直、何ぞ差障儀も無之等候間、願出候者有之候ハ、高直可申渡候、右之訳御規帳ニモ可記置候、尤附衆中其所を逃、外之外城ニ參、持高相直儀ハ其所衆中高相減事候間、得御差図候ハ、何分ニモ御吟味次第、可被仰渡旨、享保十九寅三月、被相定候事

一 本文附衆中、初而高持成并高上、外城衆中同様可相心得候、右之趣御規帳ニモ可記置旨、申渡、可承座ニモ可申渡旨、享保十九寅四月、被仰渡候事

一 外城衆中初而高持分地等之儀も地頭より御格式を以、相しらへ、高奉行所ニ可申出之、其上高奉行より御格式之旨を以、相究、地頭ニ可相達候事

一 外城衆中之儀惣而百石以上ニハ高上御免被成間敷候、以前より衆中筋ニ而三四代差立、勤米候者之子孫ハ百石迄ハ高上御免可被成候、代々衆中筋目ニ而も所衆并之御奉公相勤候者ハ五拾石以上、九拾九石余迄之高上御免被成、百石之高上ハ御免被成間敷候、祖父・曾祖父代御赦免者之子孫、當時衆并勤居候者ハ五拾石迄之高上御免被成、其上之高上ハ御免被成間敷候、以前より百石以上之高、持米罷在者ハ御構無之候、当分持高百石以上ニ而其上之高上願出候、而も御免被成間敷候事

右之通、享保十三年申十二月被極置候事

「卅七」 諸役座より相納寄銀之事

嘉永四亥年分元年、増減有之

一、文銀七千六百八拾壹貫八百拾三匁六分七厘貳毛

内貳貫四百七拾九匁壹分三厘五毛

六百貳拾四匁九分

百八拾貳貫六百七拾六匁九分九厘六毛

三千六百七拾三貫百八拾八匁八分八厘四毛

貳百四拾五貫四百九拾五匁六分壹厘七毛

内貳百貳拾五貫百六拾壹匁二分七毛

貳拾貫三百三拾四匁三分壹厘

百六拾壹貫七百五拾三匁貳分四厘八毛

四貫二百三拾壹匁七分三厘

拾五貫五百八拾貳分壹厘四毛

拾貫三百三拾五匁四分八厘九毛

壹貫六百五拾貳匁七分七厘八毛

貳貫百五匁七厘三毛

千六百七拾五貫九百五拾九匁三分三厘貳毛

拾九貫七百九拾九匁三分四厘貳毛

壹貫五百九拾八匁九分壹厘六毛

千四拾貳貫八百七拾七匁壹分壹厘四毛

百貫貳百貳拾貳匁九分壹厘八毛

四百三拾六貫貳百貳拾四匁七分九厘

百五貫七匁壹分八厘六毛

御勝手方淨得方

町奉行方

山奉行方

御厩方

御船手

鹿兒島御船手

久見崎御船手

物奉行方

御作事奉行方

屋久島方

御細工奉行方

御数寄屋方

御台所方

宗門改方

御薬園方

御春屋方

表方御代官方

三万石方 貳万石方

帖佐与方

国分与方并

御鷹方御納戸

御新田御納戸付方

御勝手方淨得方

御勝手方淨得方

右同

一 外三千石御代官方磯付御代官方壹万石方御代官方当分無之候
一 小判金貳拾六兩
一 老歩銀五拾三切

一	式朱金	五千六百拾五切	御勝手方浮得方
一	小判金壹万百八拾五兩	物奉行方	
一	壹歩金百拾七切	右同	
一	大判金四枚	右同	
一	式朱金八万四千三百拾九切	右同	

既刊史料名

三十四年	第一集	薩藩政要録
三十五年	第二集	丁丑日誌(下)
三十六年	〃	〃(上)
三十七年	第三集	薩摩国新田神社文書
三十八年	第四集	一向宗禁制関係史料
三十九年	第五集	薩摩国山田文書
四十年	第六集	諸家人概・職掌紀原
四十一年	第七集	薩摩国阿多郡史料・山田聖栄自記
四十二年	第八集	御登道中日帳御下向・列朝制度
四十三年	第九集	明治元年戊辰戦役関係史料
四十四年	第一〇集	伊能忠敬の鹿兒島測量関係資料並解説
四十五年	第一一集	管窺愚考・雲遊雜記伝
四十六年	第一二集	川上忠塞一流家譜
四十七年	第一三集	本藩人物誌
四十八年	第一四集	薩陽過去帳
四十九年	第一五集	備忘抄・家久公御養子御願一件
五十年	第一六集	鹿兒島県地誌(上)
五十一年	第一七集	鹿兒島県地誌(下)
五十二年	第一八集	薩藩舊土文章
五十三年	第一九集	薩藩先公貴翰 乾
五十四年	第二〇集	薩藩先公貴翰 坤
五十五年	第二一集	小松帯刀傳・履歴・記事
五十六年	第二二集	小松帯刀日記
五十七年	第二三集	新修舊鹿兒島藩領国・郡・郷・村・浦・町附(上)
五十八年	第二四集	新修舊鹿兒島藩領国・郡・郷・村・浦・町附(下)
五十九年	第二五集	三州御治正要覽
六十年	第二六集	桂久武日記
六十一年	第二七集	明赫記
六十二年	第二八集	要用集(上)

鹿兒島県史料刊行委員会

五十音順

川越政則	元南日本新聞社社長
芳即正	鹿兒島純心短大教授
桐野利彦	元鹿兒島女子短大教授
桑波田興	鹿兒島大学教授
五味克夫	鹿兒島大学教授
小西四郎	元東京大学教授
犀川璇吉	元甲南高等学校長
竹内理三	元早稲田大学教授
原口泉	鹿兒島大学助教授
福満武雄	鹿兒島新報社専務取締役
宮下満郎	甲南高校教諭
村野守治	鹿兒島女子短期大学
桃園恵真	鹿兒島大学名誉教授
山田尚二	錦江湾高校教諭

要 用 集 (上)

昭和六十二年三月

発行

鹿児島市城山町五の
一 鹿児島県史料刊行会

印刷

鹿児島市山下町四の十八
街 五 助 印 刷

電話 二四一三三〇四

